

茨城県教育財団文化財調査報告第461集

小美玉市

船玉台遺跡

(仮)常磐道石岡小美玉スマートICと
茨城空港を結ぶ道路整備
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

令和4年1月

茨城県水戸土木事務所
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第461集

小美玉市

ふな たま だい
船 玉 台 遺 跡

(仮)常磐道石岡小美玉スマートICと
茨城空港を結ぶ道路整備
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

令和4年1月

茨城県水戸土木事務所
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、茨城県水戸土木事務所による(仮)常磐道石岡小美玉スマートICと茨城空港を結ぶ道路整備事業に伴って実施した、小美玉市船玉台遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、縄文時代の陥し穴、古墳時代の竪穴建物跡、中世の地下式坑及び土坑などが多数確認でき、当該時代の土地利用の様相が明らかになりました。

本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります茨城県水戸土木事務所に対して厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、小美玉市教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

令和4年1月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長 柴原 宏一

例 言

- 1 本書は、茨城県水戸土木事務所の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成 29 年度に発掘調査を実施した、茨城県小美玉市大谷字船玉台 596 番 2 ほか^{ふなたまだい}に所在する船玉台遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。
調査 平成 29 年 10 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日
整理 令和 3 年 4 月 1 日～7 月 31 日
- 3 発掘調査は、副参事兼調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。
首席調査員兼班長 奥沢 哲也 平成 29 年 10 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日
次席調査員 埴 厚宜 平成 29 年 10 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日
嘱託調査員 宮内 良隆 平成 29 年 10 月 1 日～12 月 31 日
嘱託調査員 海老澤 稔 平成 30 年 1 月 1 日～3 月 31 日
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長小林和彦のもと、以下の者が担当した。
嘱託調査員 吹野富美夫 令和 3 年 4 月 1 日～7 月 31 日
- 5 本書の作成にあたり、中世土器の年代観については、つくば市教育局文化財課活用係広瀬季一郎氏にご指導いただいた。
- 6 本遺跡の出土遺物及び実測図・写真等は、茨城県埋蔵文化財センターにて保管されている。

凡 例

1 当遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第IX系座標に準拠し、 $X = + 24,240 \text{ m}$ 、 $Y = + 41,400 \text{ m}$ の交点を基準点 (A 1 a1) とした。なお、この原点は、世界測地系 (測地成果 2011) による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々 40 m 四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々 10 等分し、4 m 四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へ A, B, C..., 西から東へ 1, 2, 3... とし、「A 1 区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へ a, b, c...j, 西から東へ 1, 2, 3, ...0 と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1 区」のように呼称した。

2 実測図・一覧等で使用した記号は次のとおりである。

遺 構 F - 炉跡 HG - 遺物包含層 P - ピット PG - ピット群 SA - 柱穴列 SD - 溝跡
SI - 竪穴建物跡 SK - 土坑 TP - 陥し穴 UP - 地下式坑

土層解説 ローム - ロームブロック 粘土 - 粘土ブロック 粘 - 粘性 締 - 締まり K - 攪乱

含有量 A - 多量 B - 中量 C - 少量 D - 微量 O' - 極めて

粘性・締まり A - 強い B - 普通 C - 弱い O' - 極めて

サイズは「大・中・小・粒」で、炭化物については「材・物・粒」で表記した。

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は 400 分の 1、各遺構の実測図は原則として 60 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として 3 分の 1 の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

	焼土・赤彩・施釉陶器断面		炉・火床面・繊維土器断面
	油煙		須恵器
	土器		土製品
	石器・石製品		硬化面

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』(小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社) を使用した。

5 遺構・遺物一覧の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位は m, cm, g で示した。なお、現存値は () を、推定値は [] を付して示した。

(2) 遺物番号は遺構ごとの通し番号とし、本文、挿図、表、写真図版に記した番号と同一とした。

(3) 遺物一覧の備考欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

6 竪穴建物跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸 (径) 方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した (例 N - 10° - E)。

7 整理の段階で遺構名を変更したもの及び欠番にしたものは以下のとおりである。

変更 SI 3 → F 1 SX 1 → HG 1 SK42 → UP 3 SK86 → PG 1 P50 SK87 → PG 1 P51

SK88 → PG 1 P52 UP 6 → SK141 UP 7 → SK142 UP 9 → SK143

欠番 SK97

目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
船玉台遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	3
第2章 位置と環境	4
第1節 位置と地形	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の成果	9
第1節 調査の概要	9
第2節 基本層序	10
第3節 遺構と遺物	11
1 縄文時代の遺構と遺物	11
陥し穴	11
2 古墳時代の遺構と遺物	15
竪穴建物跡	15
3 中世の遺構と遺物	20
(1) 地下式坑	20
(2) 土坑	25
(3) 溝跡	32
(4) ピット群	38
(5) 遺物包含層	39
4 その他の遺構と遺物	42
(1) 土坑	42
(2) 溝跡	53
(3) ピット群	54
(4) 柱穴列	60
(5) 炉跡	60
(6) 遺構外出土遺物	61
第4節 総 括	63
写真図版	PL 1～PL 8
抄 録	
付 図	

挿 図 目 次

第1図 船玉台遺跡周辺遺跡分布図	7	第12図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図(1)	17
第2図 船玉台遺跡調査区設定図	9	第13図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)	18
第3図 基本土層図	10	第14図 第2号竪穴建物跡実測図	19
第4図 第1号陥し穴実測図	11	第15図 第2号竪穴建物跡出土遺物実測図	19
第5図 第2号陥し穴実測図	12	第16図 第1号地下式坑実測図	20
第6図 第3号陥し穴実測図	12	第17図 第2号地下式坑実測図	21
第7図 第4号陥し穴実測図	13	第18図 第3号地下式坑実測図	22
第8図 第5号陥し穴実測図	14	第19図 第4号地下式坑実測図	22
第9図 第6号陥し穴実測図	14	第20図 第4号地下式坑出土遺物実測図	23
第10図 第1号竪穴建物跡実測図	16	第21図 第5号地下式坑実測図(1)	23
第11図 第1号竪穴建物跡掘方実測図	17	第22図 第5号地下式坑実測図(2)	24

第23図	第5号地下式坑出土遺物実測図	24
第24図	第8号地下式坑実測図	25
第25図	第6号土坑実測図	25
第26図	第6号土坑出土遺物実測図	26
第27図	第35号土坑実測図	26
第28図	第35号土坑出土遺物実測図	26
第29図	第38号土坑実測図	27
第30図	第38号土坑出土遺物実測図	27
第31図	第46号土坑・出土遺物実測図	28
第32図	第82号土坑・出土遺物実測図	29
第33図	第141号土坑実測図	29
第34図	第142号土坑・出土遺物実測図	30
第35図	第142号土坑出土遺物実測図	31
第36図	第143号土坑実測図	31
第37図	第1号溝跡実測図	33
第38図	第2号溝跡実測図	34
第39図	第2号溝跡出土遺物実測図(1)	35
第40図	第2号溝跡出土遺物実測図(2)	36
第41図	第3号溝跡実測図	37
第42図	第1号ピット群実測図	38
第43図	第1号ピット群出土遺物実測図	38

第44図	第1号遺物包含層実測図	40
第45図	第1号遺物包含層出土遺物実測図	41
第46図	その他の土坑実測図(1)	42
第47図	その他の土坑実測図(2)	43
第48図	その他の土坑実測図(3)	44
第49図	その他の土坑実測図(4)	45
第50図	その他の土坑実測図(5)	46
第51図	その他の土坑実測図(6)	47
第52図	その他の土坑実測図(7)	48
第53図	その他の土坑実測図(8)	49
第54図	その他の土坑実測図(9)	50
第55図	第4号溝跡実測図	53
第56図	第5号溝跡実測図	53
第57図	第4号ピット群実測図(1)	54
第58図	第4号ピット群実測図(2)	55
第59図	第4号ピット群実測図(3)	56
第60図	第6号ピット群実測図	57
第61図	第1号柱穴列実測図	60
第62図	第1号炉跡・掘方実測図	60
第63図	遺構外出土遺物実測図	61
第64図	茶釜の類例遺物実測図	65

挿表目次

第1表	船玉台遺跡周辺遺跡一覧	8
第2表	縄文時代陥し穴一覧	15
第3表	第1号竪穴建物跡出土遺物一覧	18
第4表	第2号竪穴建物跡出土遺物一覧	20
第5表	古墳時代竪穴建物跡一覧	20
第6表	第4号地下式坑出土遺物一覧	23
第7表	第5号地下式坑出土遺物一覧	24
第8表	中世地下式坑一覧	25
第9表	第6号土坑出土遺物一覧	26
第10表	第35号土坑出土遺物一覧	27
第11表	第38号土坑出土遺物一覧	28
第12表	第46号土坑出土遺物一覧	28
第13表	第82号土坑出土遺物一覧	29
第14表	第142号土坑出土遺物一覧	31
第15表	中世土坑一覧	32

第16表	第2号溝跡出土遺物一覧	36
第17表	中世溝跡一覧	38
第18表	第1号ピット群出土遺物一覧	39
第19表	第1号ピット群ピット一覧	39
第20表	第1号遺物包含層出土遺物一覧	41
第21表	その他の土坑一覧	50
第22表	その他の溝跡一覧	53
第23表	第2号ピット群ピット一覧	57
第24表	第3号ピット群ピット一覧	57
第25表	第4号ピット群ピット一覧	58
第26表	第5号ピット群ピット一覧	59
第27表	第6号ピット群ピット一覧	59
第28表	第1号柱穴列ピット一覧	60
第29表	遺構外出土遺物一覧	61

写真図版目次

PL 1	調査区遠景（北西から）、調査区西部調査終了状況
PL 2	第1号陥し穴
PL 2	第1号陥し穴土層断面
PL 2	第2号陥し穴
PL 2	第4号陥し穴
PL 2	第5号陥し穴
PL 2	第6号陥し穴
PL 2	第1号竪穴建物跡遺物出土状況(1)
PL 2	第1号竪穴建物跡遺物出土状況(2)
PL 3	第1号竪穴建物跡
PL 3	第1・2号竪穴建物跡掘方
PL 3	第1号地下式坑土層断面
PL 3	第1号地下式坑
PL 3	第2号地下式坑
PL 3	第3号地下式坑
PL 3	第4号地下式坑
PL 3	第5・8号地下式坑
PL 4	第1号土坑
PL 4	第35号土坑遺物出土状況

PL 4	第46号土坑遺物出土状況
PL 4	第121・134号土坑
PL 4	第132号土坑
PL 4	第141・142号土坑土層断面
PL 4	第1・2・3号溝跡土層断面(1)
PL 4	第1・2・3号溝跡土層断面(2)
PL 5	第1・2・3号溝跡遺物出土状況
PL 5	第2号溝跡遺物出土状況
PL 5	第1・2・3号溝跡
PL 5	第4号溝跡土層断面
PL 5	第4・5号溝跡
PL 5	第1号柱穴列
PL 5	第1号遺物包含層土層断面(1)
PL 5	第1号遺物包含層土層断面(2)
PL 6	第1・2号竪穴建物跡、第4号地下式坑、第142号土坑出土遺物
PL 7	第38・46号土坑、第2号溝跡、第1号ピット群出土遺物
PL 8	第1号遺物包含層、遺構外出土遺物

ふな たま だい 船玉台遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

船玉台遺跡は、小美玉市の南西部に位置し、^{そのべ}園部川^{がわ}左岸の標高約 27 m の^{ぜつじょう}舌状台地上に立地しています。発掘調査は、(仮)常磐道石岡小美玉スマート IC と茨城空港を結ぶ道路整備事業に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、公益財団法人茨城県教育財団が平成 29 年度に 5,573m²を行いました。



調査の内容

今回の調査では、縄文時代の^{おと}陥し穴^{あな} 6 基、古墳時代前期の^{たてあな}竪穴建物跡^{ものあと} 2 棟、中世の^ち地下式坑^{かきこう} 6 基、中世及び時期不明の^{どこう}土坑^{みぞあと} 121 基、溝跡 5 条、^{ぐん}ピット群^{せい} 6 か所、^い遺物包含層^{がんそう} 1 か所などを確認しました。主な出土遺物は、古墳時代前期の土師器 (埴・甕)、古墳時代後期の土師器 (坏・甕)、中世の土師質土器 (皿・内耳鍋・播鉢・茶釜) や陶器 (皿・碗) など、中国から輸入された青磁 (香炉・碗) の破片が出土していることが注目されます。



調査区遠景 (東から)



中世の皿と内耳鍋

調査の成果

縄文時代は、陥し穴6基が確認され、その内3基が弧状に配置されていたことから、わな猟などをしていた猟場であったことが確認できました。

古墳時代前期の竪穴建物跡は、床面下の掘り方調査の結果、床を拡張して建て直していることが分かりました。また、古墳時代前期には、当遺跡とともに隣接する並木新田台北遺跡と並木新田遺跡において総数20棟の竪穴建物跡が確認されたことから、3遺跡に展開する大規模な集落が形成されていたことが分かりました。

当遺跡の主体となる時期は中世で、調査区中央部では集落の境界を区切る溝が舌状台地を縦断し、調査区西部の傾斜地では地下式坑や土坑などが集中する区域がありました。溝跡及び地下式坑などから、日常生活で用いられた内耳鍋などが廃棄された状態で出土しているとともに、中国から輸入された青磁の破片が出土していることから、今回の調査区の北側付近に土豪層の屋敷地が存在することが想定されます。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成28年1月21日、茨城県水戸土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに(仮)常磐道石岡小美玉スマートICと茨城空港を結ぶ道路整備事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成28年3月18日に現地踏査を、平成29年6月30日に試掘調査を実施して、船玉台遺跡の所在を確認した。平成29年7月24日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県水戸土木事務所長あてに、事業地内に船玉台遺跡が存在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成29年8月8日、茨城県水戸土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。平成29年8月23日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県水戸土木事務所長あてに船玉台遺跡について現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成29年8月28日、茨城県水戸土木事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、(仮)常磐道石岡小美玉スマートICと茨城空港を結ぶ道路整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成29年8月28日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県水戸土木事務所長あてに、船玉台遺跡の発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、茨城県水戸土木事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成29年10月1日から平成30年3月31日まで船玉台遺跡の発掘調査を実施することになった。

第2節 調査経過

船玉台遺跡の調査は、平成29年10月1日から平成30年3月31日までの6か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程 \ 期間	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備 表土除去 遺構確認	■	■				
遺構調査		■	■	■	■	
遺物洗浄 写真整理	■	■	■	■	■	■
撤収						■

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

船玉台遺跡は、茨城県小美玉市大谷字船玉台 596 番 2 ほか¹⁾に所在している。

小美玉市は、霞ヶ浦の北岸域に当たり、茨城県のほぼ中央部に位置している。市域の地形は、北浦に流入する巴川、霞ヶ浦に流入する園部川及び恋瀬川に挟まれた洪積台地と、それらの河川によって形成された沖積低地で構成されている。巴川と園部川に挟まれた台地は東茨城南部台地、園部川と恋瀬川に挟まれた台地は石岡台地と呼ばれ、那珂川と恋瀬川の間に展開する東茨城台地の一部である。東茨城南部台地及び石岡台地は、標高 20～30 m ほどの平坦地であるが、それらの河川及び支流によって浸食され、谷津が樹枝状に入り組んでいる。台地と沖積低地は比高差が 5～20 m あり、台地縁辺部の地形は急傾斜地になっている。

東茨城南部台地及び石岡台地の地層は、礫層及びシルト層を主体とする見和層を基盤とし、その上に砂質粘土層である常総粘土層、さらに赤城山を起源とする鹿沼軽石層を挟む関東ローム層が堆積し、最上位層は黒色土となる¹⁾。

船玉台遺跡は、園部川左岸の東茨城南部台地上に位置し、園部川に沿って突出する舌状台地上に立地している。その舌状台地上からは、水田として利用されている沖積低地を臨むことができ、水田域との深い繋がりを見出せる位置関係にある。本遺跡の西側には、船玉神社が所在している。調査前の現況は畑地である。

第2節 歴史的環境

船玉台遺跡〈1〉周辺の園部川流域には、旧石器時代から中世に至るまで数多くの遺跡が所在している。ここでは、『茨城県遺跡地図』²⁾に登録されている小美玉市及び石岡市域の主な遺跡を中心に概観する。

旧石器時代の遺跡は、わずかながら確認できる。園部川左岸では、十二所遺跡〈69〉から黒色安山岩を石材としたナイフ形石器が出土している。恋瀬川河口付近では、館山遺跡³⁾からチャート³⁾を石材とするナイフ形石器などが、権現平古墳群⁴⁾から硬質頁岩を石材とする槍先形尖頭器などが出土している。

縄文時代の遺跡は、草創期が旧石器時代の遺跡と同様に極めて少なく、早期から前期にかけて増加し、中期で繁栄を極め、後期から晩期にかけて減少していく。草創期は、園部川右岸の宮後貝塚⁵⁾において御子柴型石斧が採取⁵⁾されている。早期は、園部川河口付近の上郷遺跡⁶⁾において早期後葉の炉跡 2 基と陥し穴 2 基が確認されている。前期は、園部川左岸の殿島遺跡⁷⁾において前期前葉及び後葉の竪穴建物跡 12 棟と陥し穴 4 基が、園部川右岸の北田向遺跡⁸⁾において前期後葉の竪穴建物跡 9 棟が確認されている。巴川右岸で陥し穴が確認された調査例としては、猫松遺跡⁹⁾で 16 基、長原遺跡¹⁰⁾で 2 基が確認されている。中期は、遺跡数とともに遺跡の規模も拡大する。園部川及び恋瀬川河口付近では、拠点的な大規模集落である上郷遺跡、田木谷遺跡、平内遺跡、部室貝塚¹¹⁾、大作台遺跡¹²⁾などが展開し、園部川右岸でも東大橋原遺跡¹³⁾〈41〉などが存在している。後期は、園部川及び恋瀬川河口付近の五万堀遺跡¹⁴⁾で後期前葉の竪穴建物跡 2 棟が確認され、部室貝塚で 2 か所の大規模な斜面貝塚が形成されている。晩期は、遺跡数が極端に少なくなり、部室貝塚などで少量の遺物が採集されるだけである。

弥生時代の遺跡は、中期後葉まで確認されていない。中期末葉の遺構は、恋瀬川河口付近の新田遺跡¹⁵⁾に

において竪穴建物跡1棟が確認されている。当遺跡の南東0.5kmに所在する並木新田台北遺跡¹⁶⁾〈2〉では、後期後葉から古墳時代前期前葉にかけての竪穴建物跡1棟が確認されている。巴川左岸の塔ヶ塚古墳群¹⁷⁾では、土坑から栃木県域に分布する二軒屋式の広口壺が出土している。

古墳時代になると、集落跡とともに古墳が各水系の台地縁辺部に造営されるようになる。前期は、方形周溝墓と前方後円墳が出現する時期に当たる。恋瀬川河口域の権現平古墳群¹⁸⁾では、方形周溝墓1基が確認され、東海系の壺などとともに、管玉や勾玉などが出土している。園部川左岸の殿島遺跡¹⁹⁾では、方形周溝墓1基が確認され、壺などが出土している。当遺跡の南東約2kmには前方後円墳1基及び円墳3基で構成される小美玉市指定史跡の羽黒古墳群〈32〉が所在する。その主墳である羽黒円墳は、全長67mの前方後円墳で、後円部径34mを測る。その採集遺物については、井博幸氏が円筒・器台形埴輪²⁰⁾を、田中裕氏が壺形埴輪²¹⁾を報告している。前期の集落跡は、当遺跡の南東0.5kmに並木新田台北遺跡²²⁾〈2〉が、南東0.6kmに並木新田台北遺跡²³⁾〈3〉が所在し、並木新田台北遺跡では竪穴建物跡10棟が、並木新田台遺跡では竪穴建物跡8棟が確認されている。中期は、東日本第2位の墳丘規模を誇る全長186mの舟塚山古墳が恋瀬川左岸に築造された時期である。中期は遺跡数が前期に比べて減少するが、後期は遺跡数が増加する。当遺跡の北東1.5kmに小美玉市指定史跡の愛宕山古墳群〈11〉が所在し、主墳である直径50mの円墳を中心に計7基が現存している。後期の竪穴建物跡については、当遺跡に隣接する並木新田台北遺跡で1棟、並木新田台遺跡で2棟が確認されている。

奈良・平安時代は、律令制の下、石岡台地の中央部に常陸国衙と常陸国分寺〈59〉が置かれ、常陸国は11郡153郷で構成されるようになる。船玉台遺跡が所在する大谷地区は、『新編常陸国誌』によれば『和名類聚抄』に記されている茨城郡の生園郷に属すると推定されている。園部川左岸の羽黒遺跡²⁴⁾〈31〉では、奈良・平安時代の竪穴建物跡10棟が確認され、「大家」と墨書された坏2点が出土している。平安時代末期、茨城郡は国府付近を境界として北西部を北郡、南東部を南郡に分立され、大谷地区は南郡に属することになる。

中世に至り、南郡は下河辺氏の所領となったが、その後、府中に拠点を置く大掾氏の支配下となる。戦国時代末期、園部川を挟んで南西側が大掾氏、北東側が水戸に拠点を置く江戸氏の領域となり、抗争が激化する。大掾氏は、府中城を防衛するための支城として弓削砦〈21〉、竹原城〈33〉、取手山館²⁵⁾などを構築したが、江戸氏を倒した佐竹氏に滅ぼされる。取手山館跡からは、堀跡、塹壕状の通路跡、虎口跡及び門跡などが確認され、特に塹壕状の通路は鉄砲戦に対応した施設と考えられている。

※文中の〈 〉内の番号は、第1図及び第1表の該当番号と同じである。

註

- 1) 茨城県農地部農地計画課『土地分類基本調査 石岡』昭和56年3月
- 2) 茨城県教育庁文化課編『茨城県遺跡地図』茨城県教育委員会 平成13年3月
- 3) 小玉秀成 本田信之『館山遺跡発掘調査報告書-旧石器・縄文・弥生時代編-』玉里村教育委員会 平成11年3月
- 4) 伊東重敏『権現平古墳群』平成6年3月
- 5) 窪田恵一「玉里村の後期旧石器終末期～縄文時代草創期の石器研究-権現山古墳・「宮後」採取の石器を考える-」『玉里村立史料館報』第6号 平成13年3月
- 6) 大橋生『上郷遺跡』小美玉市埋蔵文化財調査報告書第2集 平成26年3月
- 7) 近江屋成陽『殿島遺跡 主要地方道玉里水戸線道路改良事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第420集 平成29年3月
- 8) 柏山茂『北田向遺跡』石岡市埋蔵文化財調査報告書 平成28年3月

- 9) 大久保隆史『猫松遺跡 長原遺跡 国道 355 号石岡岩間バイパス整備事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第 348 集 平成 23 年 3 月
- 10) 註 9) に同じ
- 11) 玉里村史編纂委員会『玉里村の歴史』平成 18 年 2 月
- 12) 川崎純徳 海老澤稔『大作台遺跡発掘調査報告書』石岡市教育委員会 昭和 56 年 3 月
- 13) 川崎純徳 海老澤稔『石岡市東大橋原遺跡 - 第 1 次調査報告 -』石岡市教育委員会 昭和 53 年 3 月
川崎純徳 海老澤稔『石岡市東大橋原遺跡 - 第 2 次調査報告 -』石岡市教育委員会 昭和 54 年 3 月
川崎純徳 海老澤稔『石岡市東大橋原遺跡 - 第 3 次調査報告 -』石岡市教育委員会 昭和 55 年 3 月
- 14) 町田正行ほか『五万堀遺跡調査報告』玉里村教育委員会 平成 9 年 10 月
- 15) 小玉秀成「新田遺跡から出土した弥生時代の遺構, 遺物」『小美玉市史料館報』第 9 号 平成 27 年 3 月
- 16) 齋藤貴稚『館野遺跡 並木新田台北遺跡 (仮) 常磐道石岡小美玉スマート IC と茨城空港を結ぶ道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第 451 集 令和 3 年 3 月
- 17) 千草重樹『塔ヶ塚古墳群』美野里町教育委員会 平成 8 年 3 月
- 18) 註 4) に同じ
- 19) 註 7) に同じ
- 20) 井博幸「羽黒古墳の埴輪」『小美玉市史料館報』第 2 号 平成 20 年 3 月
- 21) 田中裕「羽黒古墳の壺形埴輪～器台形埴輪と共伴する壺形埴輪の特徴と系譜～」『小美玉市史料館報』第 3 号 平成 21 年 3 月
- 22) 註 16) に同じ
- 23) 海老澤稔 佐々木義則 野坂俊之『並木新田台遺跡』美野里町教育委員会 昭和 62 年 3 月
- 24) 美野里町史編さん委員会『美野里町史』平成元年 3 月
- 25) 土生朗治 本田信之『取手山館跡 田木谷玉里線道路改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書』小美玉市教育委員会 平成 25 年 8 月



第1図 船玉台遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院 25,000分の1「石岡」）

第1表 船玉台遺跡周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代							
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町			江戸	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	船玉台遺跡		○		○		○		38	傾城塚群							○
2	並木新田台北遺跡				○	○			39	上坪古墳群				○			
3	並木新田台遺跡				○				40	鋤下遺跡			○		○	○	○
4	長者遺跡		○			○		○	41	東大橋原遺跡		○		○	○	○	○
5	行里川台遺跡		○			○		○	42	東大橋古墳群				○			
6	行里川遺跡		○			○	○		43	東大橋要害						○	
7	行里川塚群							○	44	香取塚群							○
8	荒金台遺跡			○		○	○		45	八軒台掩蔽壕							
9	荒金遺跡		○			○			46	上人塚遺跡		○			○		
10	五行台遺跡		○	○	○	○			47	八軒台塚							○
11	愛宕山古墳群				○				48	東府中掩蔽壕群							
12	明生塚古墳				○				49	東府中塚							○
13	花野井遺跡							○	50	大塚遺跡					○		○
14	小曾納経塚							○	51	兵崎箕輪遺跡		○			○	○	
15	中台権現堂経塚群							○	52	山王遺跡				○	○		
16	中台経塚							○	53	白久台遺跡		○					
17	一里塚							○	54	東ノ辻遺跡		○			○		○
18	金子谷遺跡				○	○			55	石岡の一里塚							○
19	後遺跡		○		○	○		○	56	万能塚							○
20	竹原小学校遺跡		○	○	○	○			57	杉ノ井遺跡			○		○		○
21	弓削砦跡							○	58	国分遺跡		○			○	○	○
22	弓削遺跡		○						59	常陸国分寺跡					○		
23	岩屋権現古墳				○				60	木間塚古墳群				○			
24	出シ山遺跡		○						61	木間長者屋敷遺跡		○			○	○	
25	東府中柏山遺跡		○					○	62	北ノ谷遺跡		○			○		○
26	柏山北遺跡		○			○			63	北ノ谷谷津遺跡					○	○	○
27	柏山遺跡		○						64	木間塚遺跡		○			○	○	○
28	曲松台塚群							○	65	正上内遺跡		○			○		○
29	曲松古墳群				○				66	五万堀遺跡					○		
30	曲松遺跡		○		○	○		○	67	山神古墳				○			
31	羽黒遺跡			○	○	○			68	神明塚古墳群				○			
32	羽黒古墳群				○				69	十二所遺跡	○			○	○		
33	竹原城跡							○	70	西表遺跡				○	○		
34	根古屋古墳群				○				71	向峯遺跡		○					
35	根古屋塚群							○	72	西表北遺跡				○			
36	根古屋遺跡		○		○	○		○	73	西峯遺跡		○					
37	傾城古墳群				○				74	脇山遺跡		○		○	○		

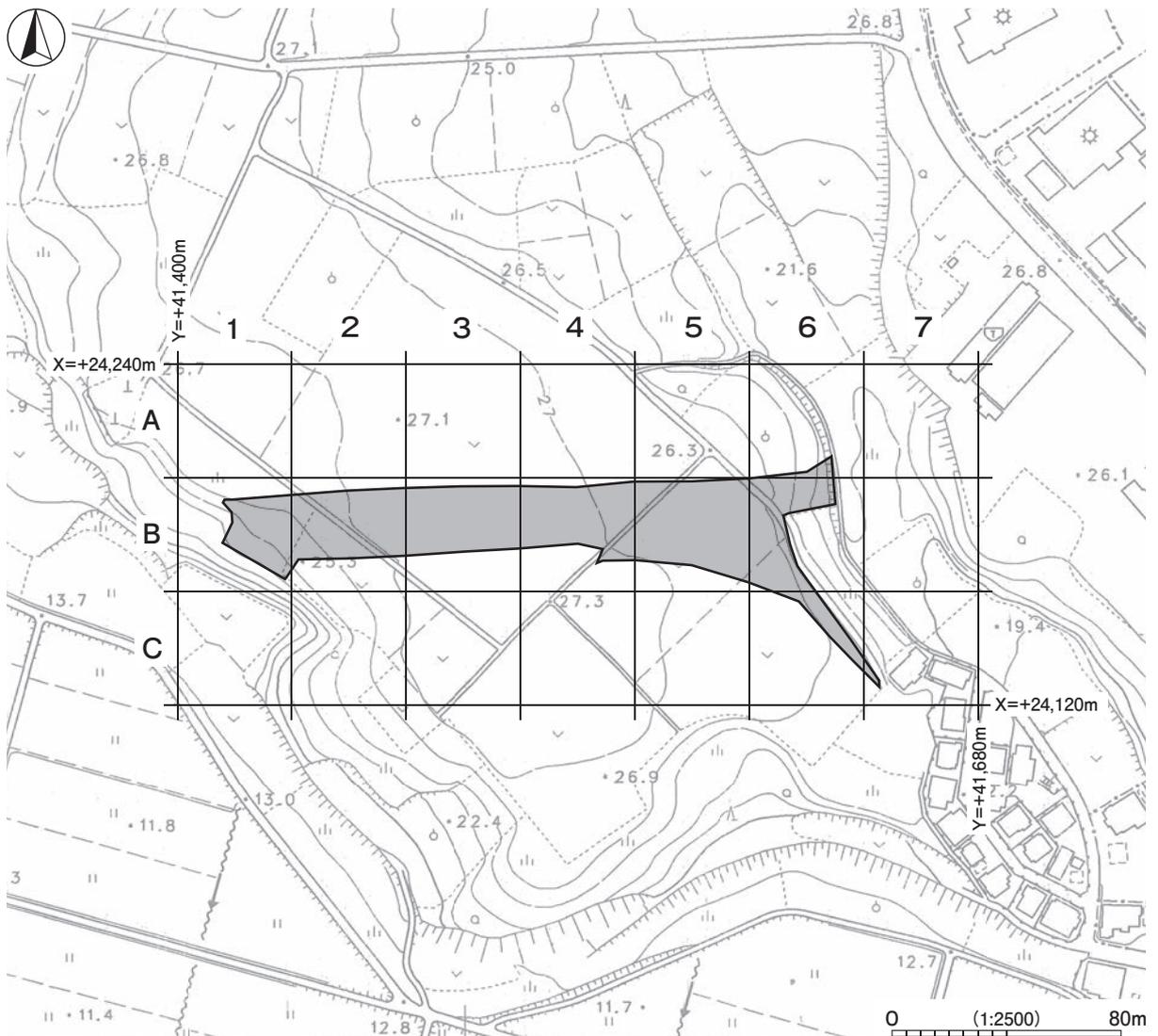
第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

当遺跡は、小美玉市の南西部に位置し、園部川左岸の標高約 27 m の舌状台地上に立地している。調査面積は 5,573㎡ で、調査前の現況は畑地である。

調査の結果、陥し穴 6 基（縄文時代）、竪穴建物跡 2 棟（古墳時代前期）、地下式坑 6 基（中世）、溝跡 5 条（中世 3・時期不明 2）、土坑 121 基（中世 8・時期不明 113）、ピット群 6 か所（中世 1・時期不明 5）、柱穴列 1 条（時期不明）、炉跡 1 基（時期不明）、遺物包含層 1 か所（中世）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60 × 40 × 20cm）に 10 箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢）、土師器（埴・坏・甕）、土師質土器（皿・内耳鍋・播鉢）、陶器（皿・碗・瓶子）、石器（砥石）などである。



第2図 船玉台遺跡調査区設定図（小美玉市都市計画図 2,500 分の 1）

第2節 基本層序

調査区中央部の台地上の平坦面（B 3 f0 区）にテストピットを設定し、基本層序（第3図）の観察を行った。

第1層は、暗褐色を呈する表土である。層厚は約 30cmである。

第2層は、橙色を呈するハードローム層で、粘性及び締まりともに強く、層厚は 14～18cmである。

第3層は、明褐色を呈するハードローム層で、粘性及び締まりともに普通で、層厚は 0～30cmである。

第4層は、にぶい褐色を呈するハードローム層で、粘性及び締まりともに普通で、層厚は 14～40cmである。

第5層は、橙色を呈するハードローム層で、粘性及び締まりともに強く、層厚は 16～28cmである。

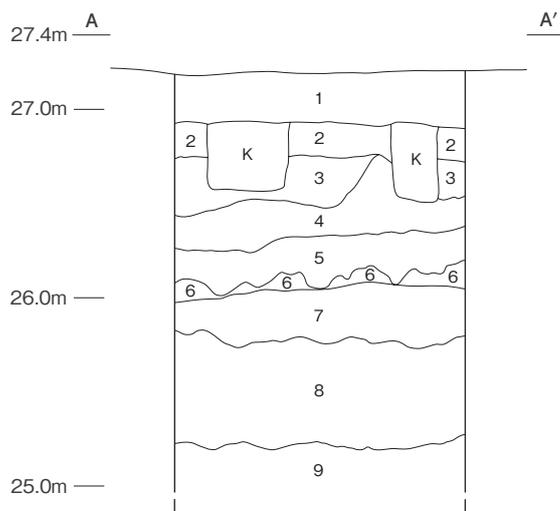
第6層は、黄橙色を呈する鹿沼軽石層で、粘性及び締まりともに普通で、層厚は 0～14cmである。

第7層は、明褐色を呈するハードローム層で、粘性及び締まりともに普通で、層厚は 20～34cmである。

第8層は、にぶい褐色を呈するハードローム層で、粘性は普通で、締まりが強い。層厚は 52～60cmである。

第9層は、にぶい褐色を呈するハードローム層で、粘性及び締まりともに普通で、下層は未掘であるため、層厚は不明である。

遺構は、第2層の上面で確認した。



第3図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、陥し穴6基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

陥し穴

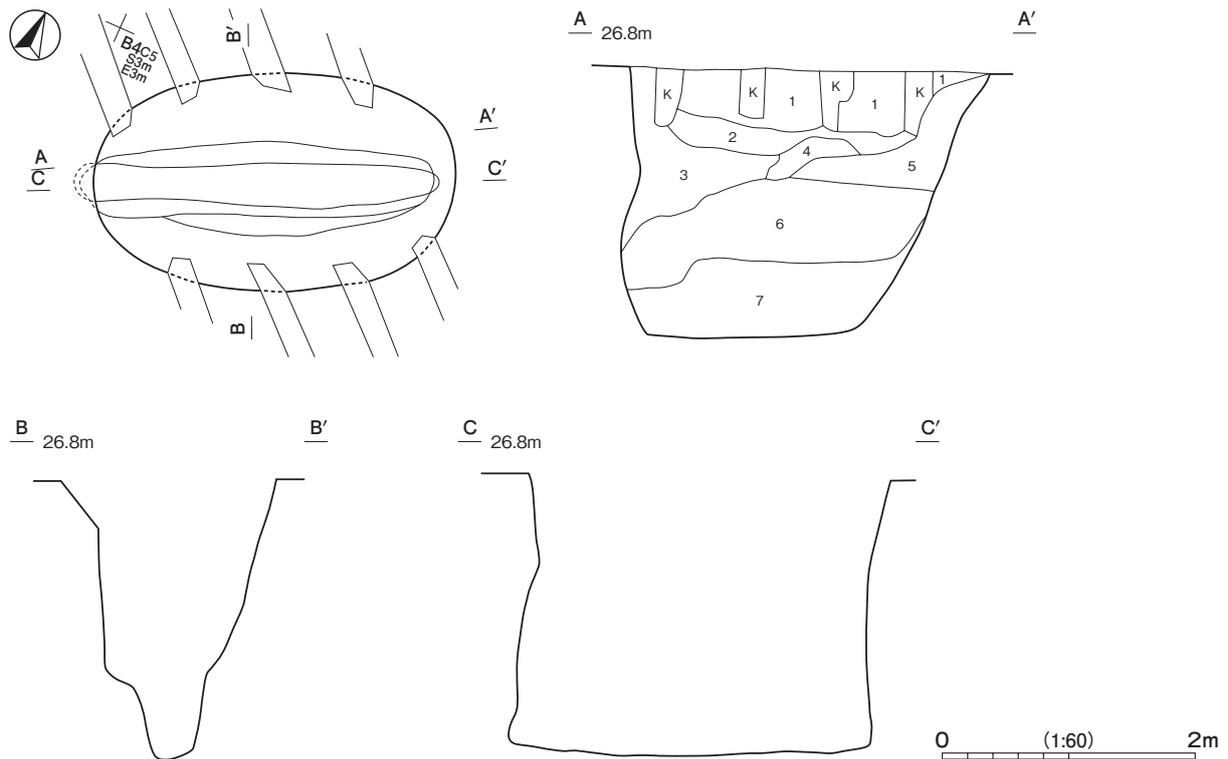
第1号陥し穴（第4図 PL 2）

位置 調査区中央部の B 4 c5 区、標高約 27 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 2.85 m、短径 1.73 m の楕円形で、長径方向は N - 64° - E である。深さは 225 cm である。底面は、長軸 2.86 m、短軸 0.36 m で溝状を呈する。短径方向の断面形は、北壁の一部が崩落しているため明確ではないが、上部が開き、下部が狭小となる Y 字状を呈すると考えられる。長径方向の西壁は、底面から高さ 132 cm まで内傾している。

覆土 7層に分層できる。第1～3層は自然堆積で、第4～7層はロームブロックを含むことから壁面の崩落土である。

所見 時期は、遺構の形態から縄文時代と考えられる。



土層解説

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 10YR2/3 黒褐 ローム粒D/粘C, 締A | 5 10YR5/6 黄褐 ローム小A/粘B, 締D |
| 2 10YR3/2 黒褐 ローム粒D/粘C, 締B | 6 10YR4/4 褐 ローム小B/粘C, 締C |
| 3 10YR3/4 暗褐 ローム粒C/粘C, 締B | 7 10YR5/8 黄褐 ローム小A/粘B, 締A |
| 4 10YR4/4 褐 ローム小C/粘C, 締B | |

第4図 第1号陥し穴実測図

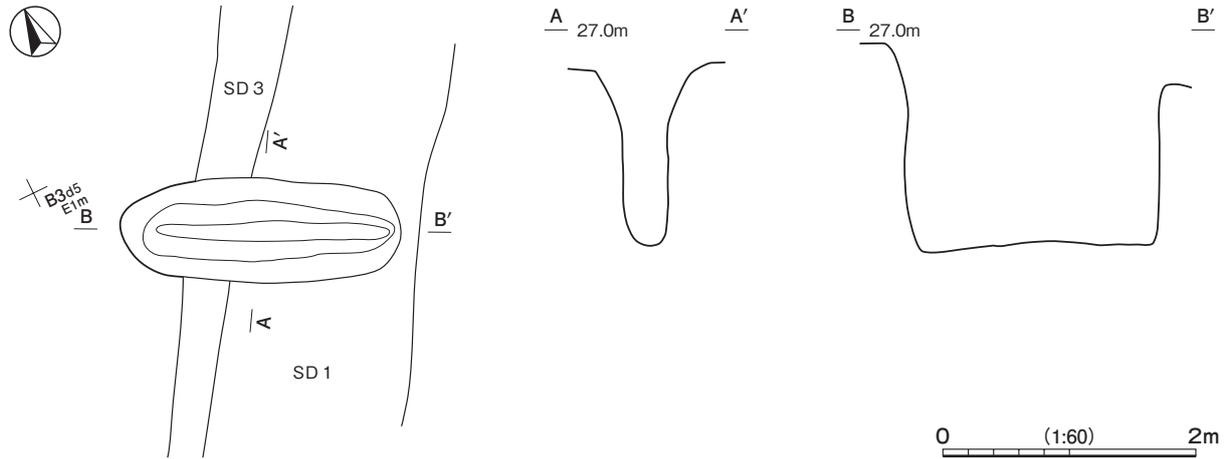
第2号陥し穴 (第5図 PL 2)

位置 調査区中央部の B 3 d5 区, 標高約 27 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第1・3号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.20 m, 短径0.82 m の楕円形で, 長径方向は N - 64° - W である。深さは140 cm である。底面は, 長軸 1.84 m, 短軸 0.18 m の溝状を呈する。短径方向の断面形は, 上部が開く Y 字状を呈している。

所見 時期は, 遺構の形態から縄文時代と考えられる。



第5図 第2号陥し穴実測図

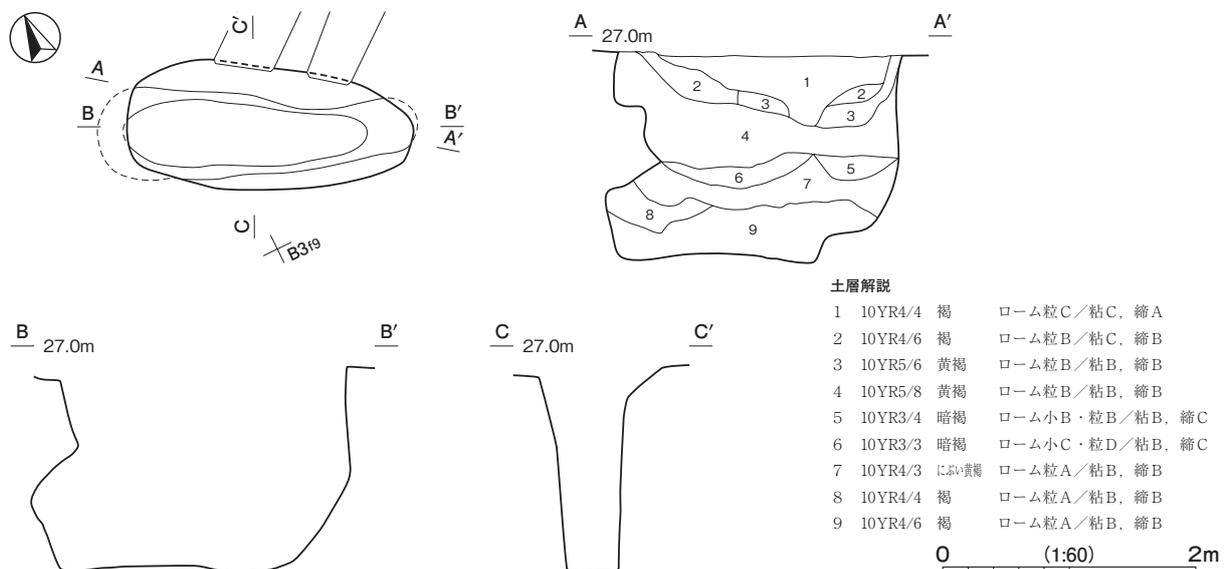
第3号陥し穴 (第6図)

位置 調査区中央部の B 3 e9 区, 標高約 27 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径2.27 m, 短径0.99 m の楕円形で, 長径方向は N - 62° - W である。深さは160 cm である。底面は長径 1.94 m, 短径 0.50 m の長い楕円形で, ほぼ平坦である。短径方向の断面形は, 壁がほぼ直立する Y 字状を呈している。長径方向の西壁は, 底面から高さ 98 cm まで内傾している。

覆土 9層に分層できる。第2～4層はローム中ブロックを含むことから壁面の崩落土で, それ以外の層は自然堆積である。

所見 時期は, 遺構の形態から縄文時代と考えられる。



第6図 第3号陥し穴実測図

第4号陥し穴（第7図 PL 2）

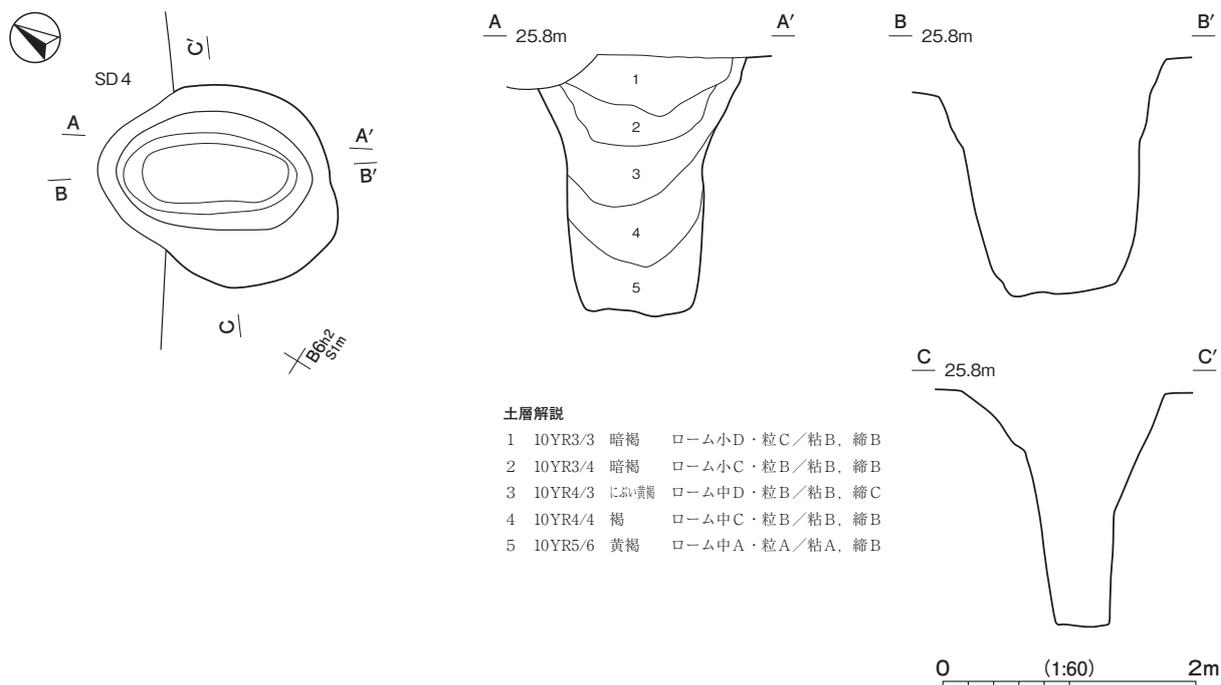
位置 調査区東部のB 6g2区，標高約26mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.83m，短径1.61mの楕円形で，長径方向はN-33°-Wである。深さは185cmである。底面は，長径1.14m，短径0.48mの楕円形を呈する。短径方向の断面形は，上部が開き，下部が狭小となるY字状を呈している。

覆土 5層に分層できる。第5層はローム中ブロックを多量に含むことから壁面の崩落土で，それ以外の層は自然堆積である。

所見 時期は，遺構の形態から縄文時代と考えられる。



第7図 第4号陥し穴実測図

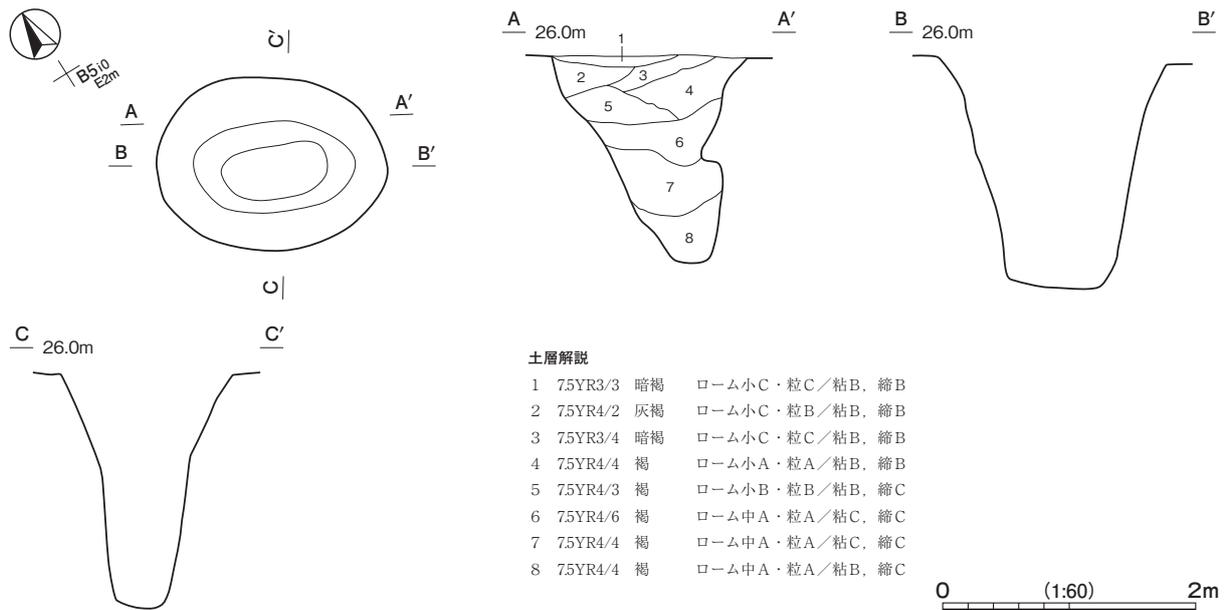
第5号陥し穴（第8図 PL 2）

位置 調査区東部のB 5i0区，標高26mの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.80m，短径1.36mの楕円形で，長径方向はN-70°-Wである。深さは188cmである。底面は，長径0.86m，短径0.42mの楕円形を呈する。短径方向の断面形は，上部が開き，下部が狭小となるY字状を呈している。

覆土 8層に分層できる。第6～8層はロームブロックを多量に含むことから壁面の崩落土で，第1～5層は自然堆積である。

所見 時期は，遺構の形態から縄文時代と考えられる。



第8図 第5号陥し穴実測図

第6号陥し穴 (第9図 PL 2)

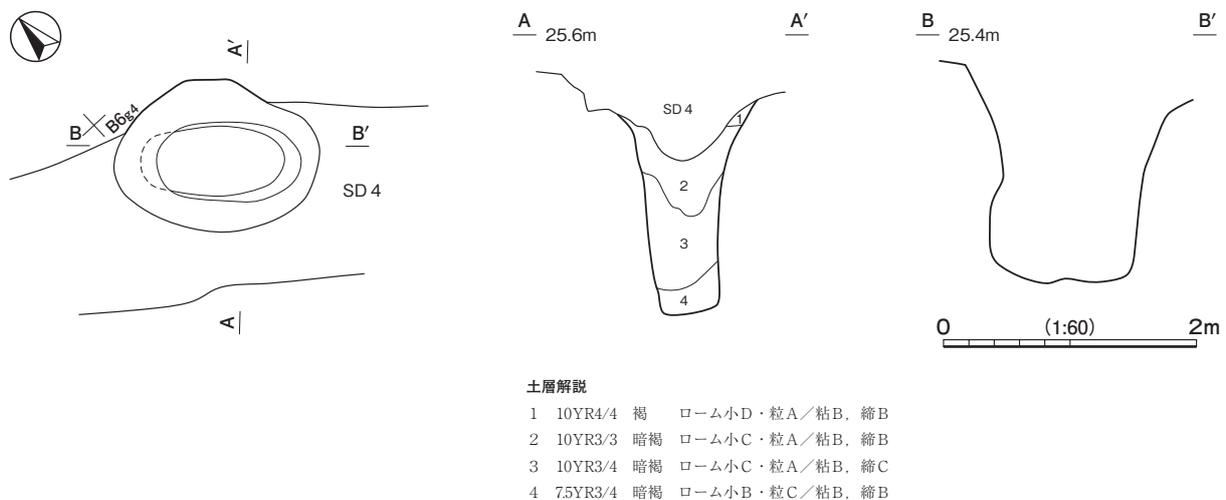
位置 調査区東部のB 6 g4区, 標高約26mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.62m, 短径1.20mの楕円形で, 長径方向はN-50°-Wである。深さは180cmである。底面は, 長径1.14m, 短径0.55mの楕円形を呈する。短径方向の断面形は, 上部が開き, 下部が狭小となるY字状を呈している。

覆土 4層に分層できる。第4層はロームブロックを多量に含むことから壁面の崩落土で, 第1~3層は自然堆積である。

所見 時期は, 遺構の形態から縄文時代と考えられる。



第9図 第6号陥し穴実測図

第2表 縄文時代陥し穴一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	B 4 c5	N - 64° - E	楕円形	2.85 × 1.73	225	Y字状	平坦	自然	-	
2	B 3 d5	N - 64° - W	楕円形	2.20 × 0.82	140	Y字状	平坦	自然	-	本跡→SD 1・3
3	B 3 e9	N - 62° - W	楕円形	2.27 × 0.99	160	Y字状	平坦	自然	-	
4	B 6 g2	N - 33° - W	楕円形	1.83 × 1.61	185	Y字状	平坦	自然	-	本跡→SD 4
5	B 5 i0	N - 70° - W	楕円形	1.80 × 1.36	188	Y字状	平坦	自然	-	
6	B 6 g4	N - 50° - W	楕円形	1.62 × 1.20	180	Y字状	平坦	自然	-	本跡→SD 4

2 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡2棟を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡（第10～13図 PL 2・3・6）

位置 調査区西部のB 2 c7区、標高約27mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号竪穴建物跡を掘り込み、第1号炉に掘り込まれている。

規模と形状 長軸7.40m、短軸7.00mの方形で、主軸方向はN - 60° - Wである。壁高は0～12cmで、ほぼ直立している。

床 平坦で、硬化面は確認できなかった。壁溝が南東壁から北コーナー部まで巡っている。貼床は、南東壁及び南西壁際以外を全体的に掘り込み、第8～13層を埋土して構築している。

炉 中央部やや西寄りに付設されている。長径166cm、短径124cmの楕円形で、床面を10cmほど掘りくぼめた地床炉である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

ピット 4か所。P 1～P 4は、深さ46～54cmで、規模や配置から支柱穴である。

覆土 7層に分層できる。レンズ状に堆積していることから自然堆積である。炭化材が北東壁及び南東壁近くに集中して主に中央部を向いた状態で覆土下層から出土し、焼土が北東壁際に覆土下層から床面にかけて堆積している。

遺物出土状況 古墳時代前期の土師器片63点（埴5、高坏4、壺24、甕30）、古墳時代後期の土師器片48点（坏14、甕33、手捏土器1）、石器1点（砥石）が出土している。3は東部の覆土下層から出土している。4～7はいずれも炭化材より上位の覆土上層から出土している。

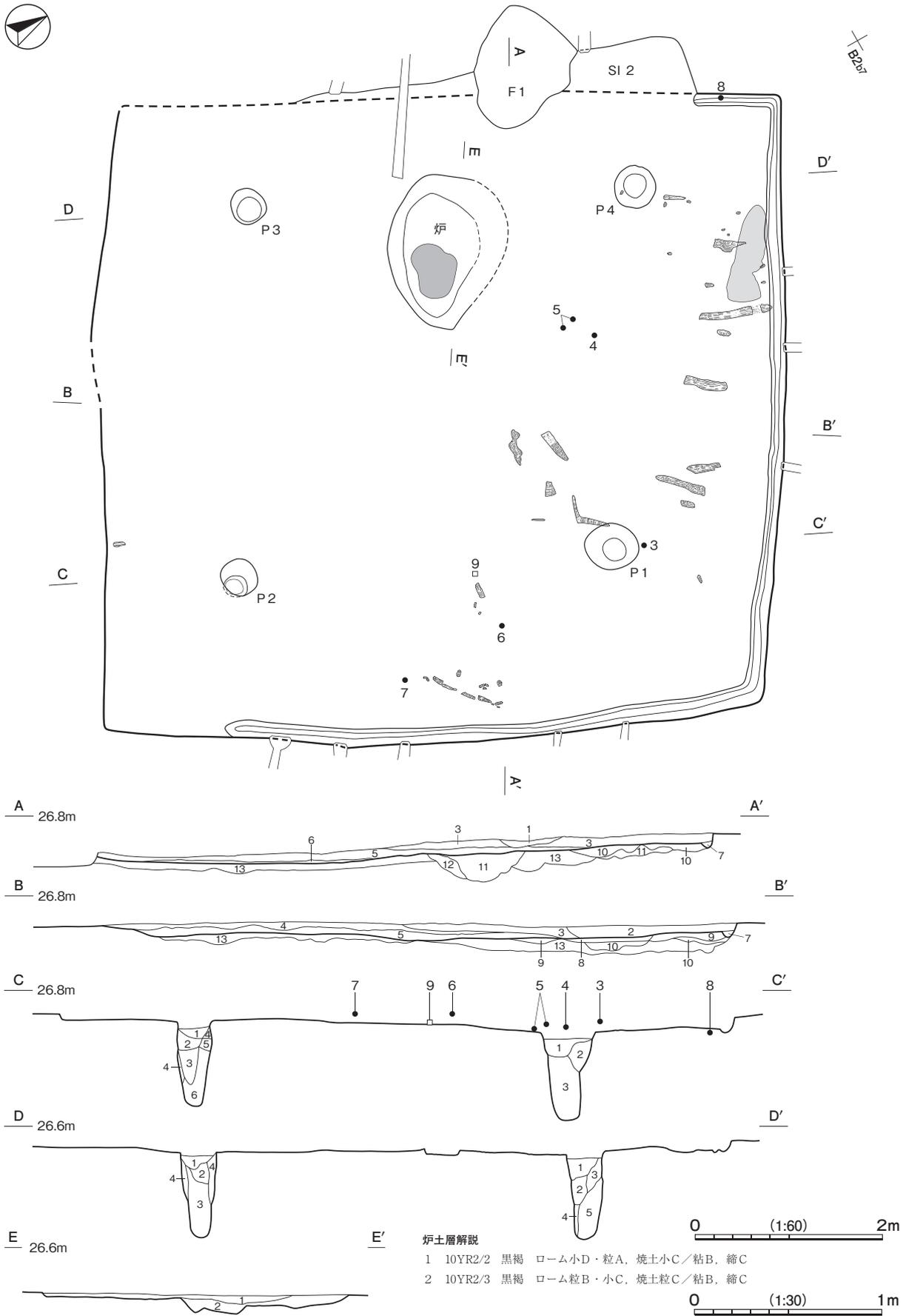
所見 時期は、覆土下層の出土土器から古墳時代前期中葉に比定できる。本跡は、第2号竪穴建物跡の廃絶後に拡張して構築しており、炭化材の出土状況及び焼土の堆積状況から、焼失家屋である。4～7を含む古墳時代後期の土師器片は、6世紀後葉に比定でき、炭化材より上位の覆土上層から出土していることから、本跡の廃絶後に投棄されたものと考えられる。

土層解説

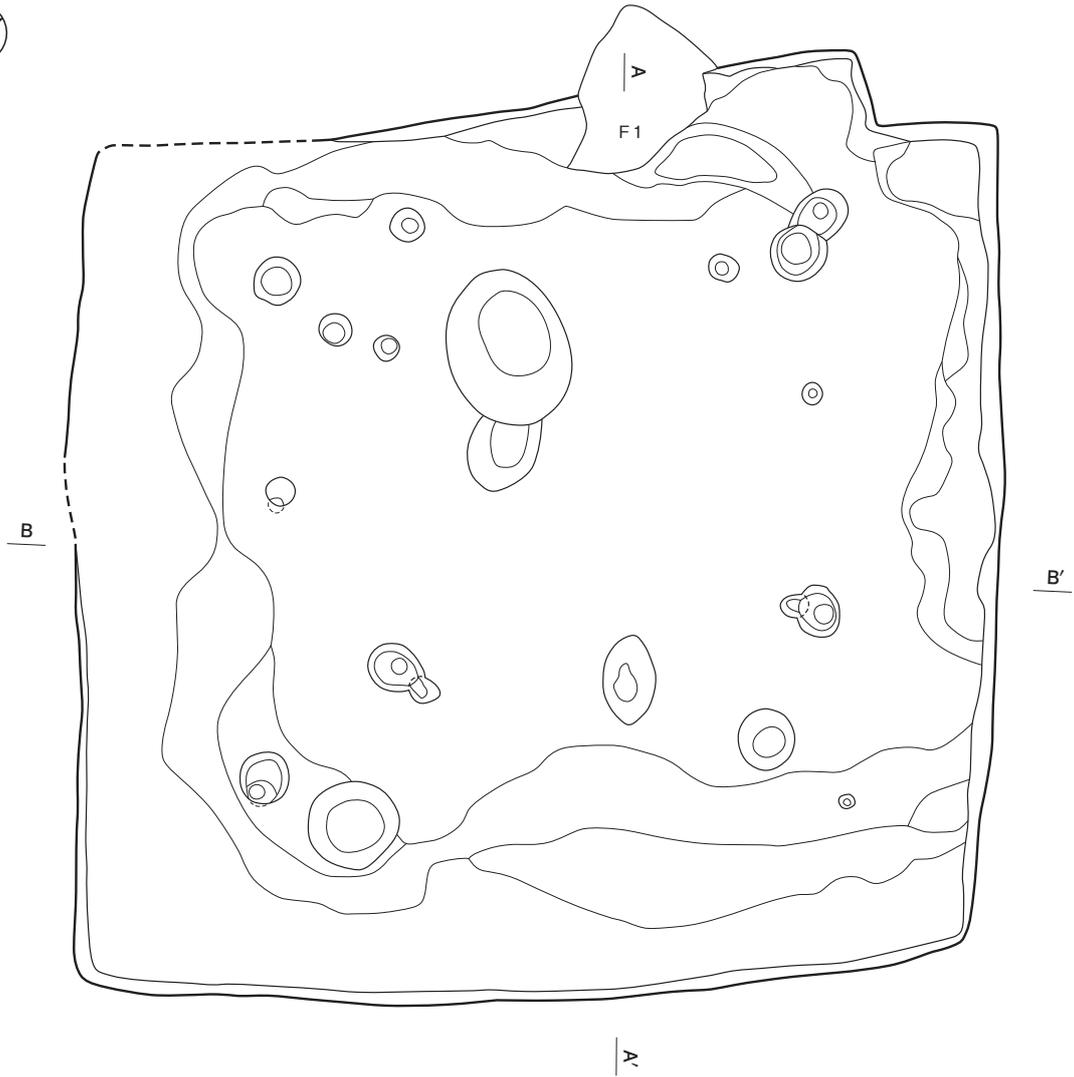
1	75YR3/2	黒褐	ローム粒C/粘C、締A
2	75YR4/3	褐	ローム小C・粒B/粘B、締B
3	75YR2/3	極暗褐	ローム粒C、焼土小C/粘B、締A
4	75YR3/2	黒褐	ローム小C・粒B/粘B、締A
5	75YR3/3	暗褐	ローム小C・粒B、炭化粒C/粘B、締A
6	75YR3/3	暗褐	ローム小C・粒C/粘B、締B
7	10YR3/4	暗褐	ローム小C・粒B/粘B、締C

ピット土層解説

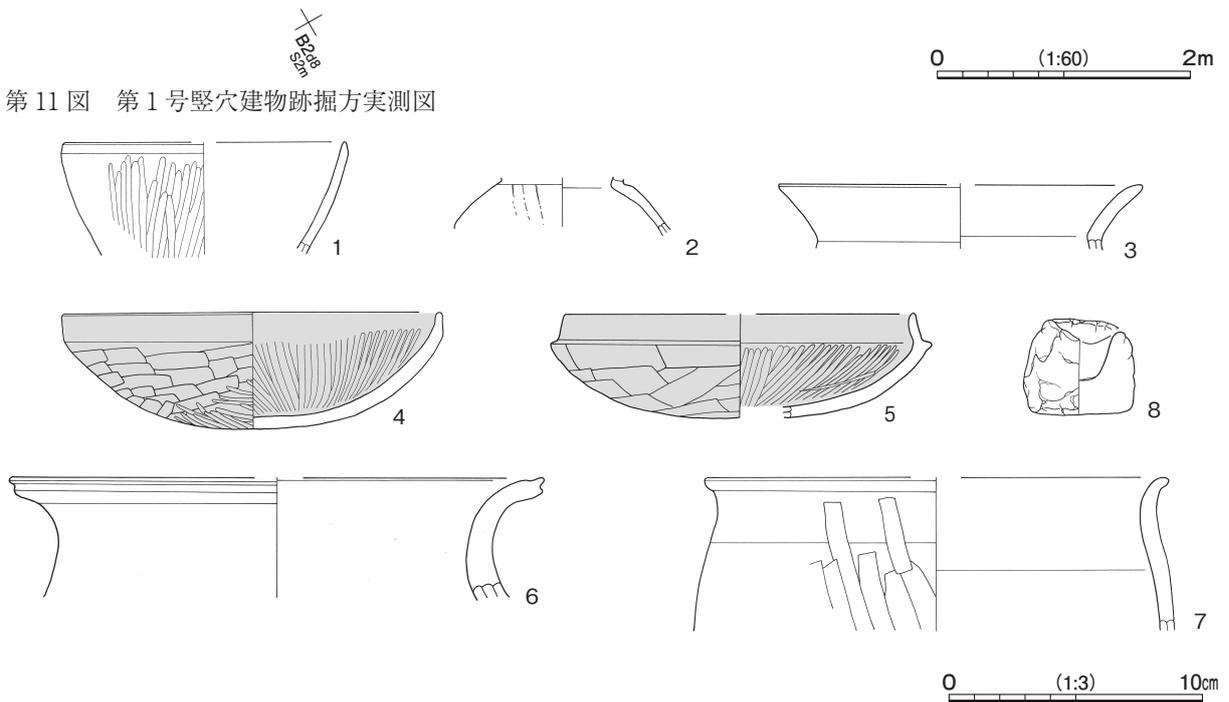
1	10YR4/3	にひい黄褐	ローム小D・粒A/粘B、締C
2	10YR3/4	暗褐	ローム小C・粒A、炭化粒D/粘B、締C
3	10YR3/3	暗褐	ローム小D・粒C/粘B、締C
4	10YR3/4	暗褐	ローム小C・粒A/粘B、締B
5	10YR3/3	暗褐	ローム小B・粒B/粘B、締B
6	10YR4/2	灰黄褐	ローム小B・粒B/粘B、締B



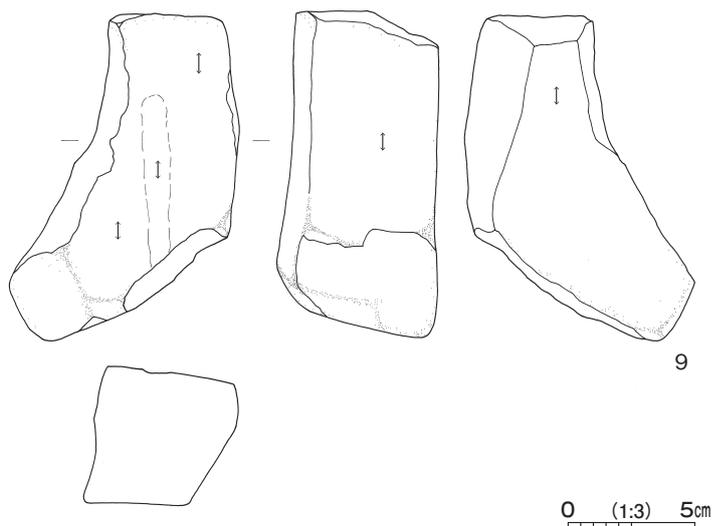
第10図 第1号竪穴建物跡実測図



第 11 図 第 1 号竖穴建物跡掘方実測図



第 12 図 第 1 号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)



第13図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図(2)

第3表 第1号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師器	埴	[11.0]	(44)	-	長石・石英	にぶい橙	良好	口縁部外・内面横ナデ 口縁部外面ヘラ磨き	覆土中	5% PL 6
2	土師器	埴	-	(22)	-	長石・石英	にぶい黄褐	良好	体部外・内面ナデ	覆土中	5%
3	土師器	甕	[14.1]	(25)	-	長石・石英	にぶい黄褐	普通	口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	5%
4	土師器	坏	14.7	4.6	-	長石・石英	にぶい橙	良好	外面ヘラナデ後ヘラ磨き 内面放射状ヘラ磨き 外・内面赤彩	覆土上層	70% PL 6
5	土師器	坏	[13.6]	4.0	-	長石・石英	明赤褐	良好	口縁部外・内面横ナデ 体部外面ヘラ削り 体部内面放射状ヘラ磨き 外・内面赤彩	覆土上層	30%
6	土師器	甕	[20.7]	(48)	-	長石・石英・雲母	明褐	良好	口縁部外・内面ナデ	覆土上層	5%
7	土師器	甕	[17.8]	(60)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	口縁部外・内面ナデ 外面ヘラ削り	覆土上層	5%
8	土師器	手捏土器	3.0	3.7	3.8	長石・石英 針状物質	明赤褐	普通	外・内面指頭によるナデ	覆土中	100% PL 6

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
9	砥石	13.1	9.0	6.4	823.02	砂岩	砥面3面	覆土上層	100% PL 6

第2号竪穴建物跡 (第14・15図 PL 3・6)

位置 調査区西部のB 2 d6区、標高約27mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号竪穴建物、第1号炉に掘り込まれている。

規模と形状 第1号竪穴建物跡の掘方調査によって確認できた炉、ピット、貯蔵穴の配置から、長軸6.60m、短軸4.64mの長方形と推定され、主軸方向はN-64°-Wである。壁は西壁と北壁の一部が確認され、壁高は0~12cmで、ほぼ直立している。

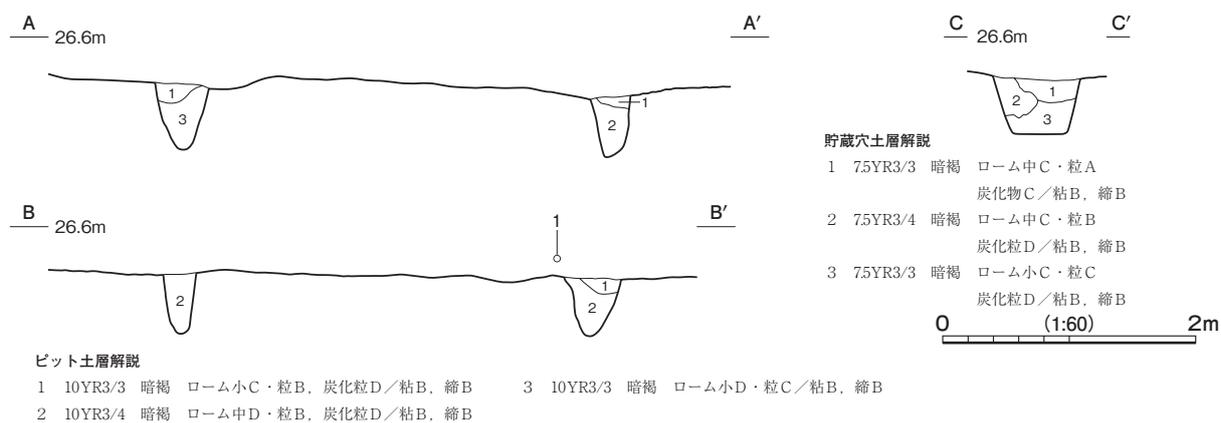
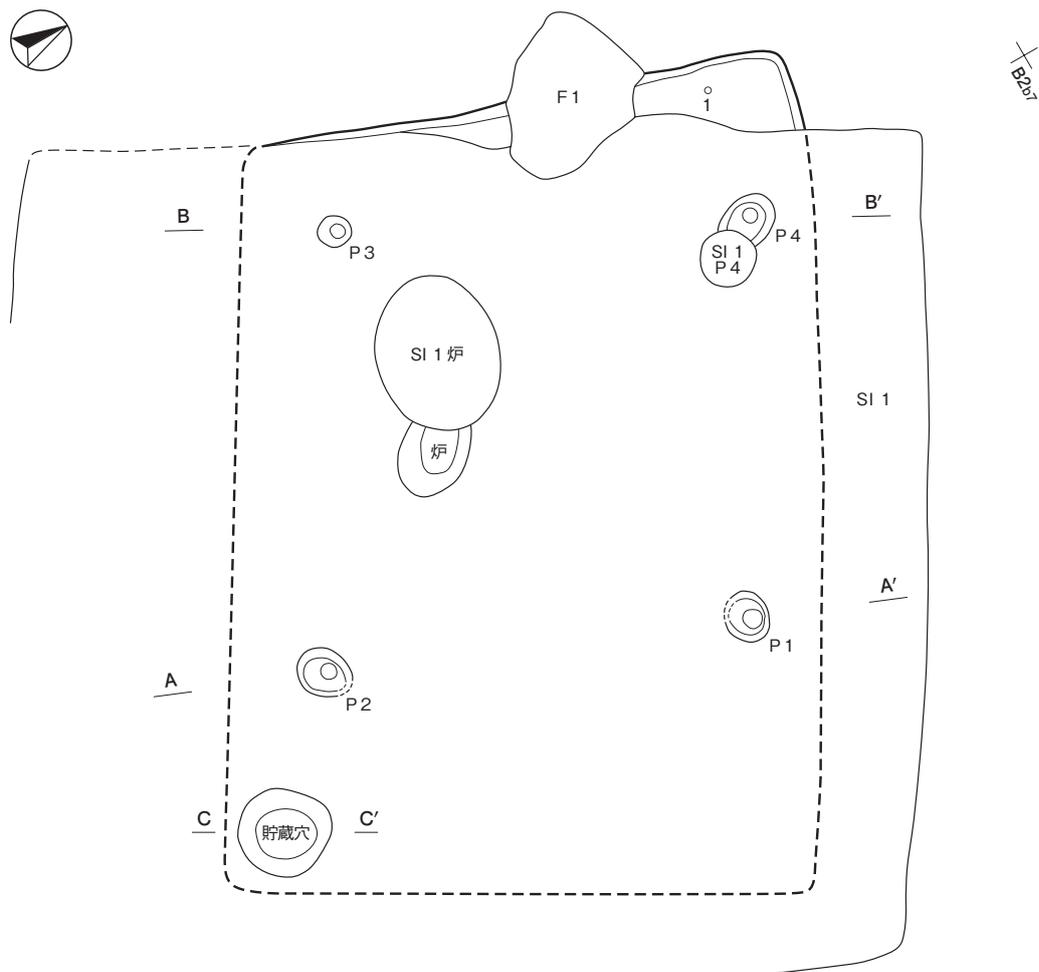
床 西壁際と北壁際で一部が確認され、平坦で、硬化面は確認できなかった。

炉 中央部やや西よりに付設され、平面形が楕円形と推定される地床炉である。第1号竪穴建物跡の炉と重複しているため、東西径は54cmで、南北径は56cmしか確認できなかった。炉床面はわずかに赤変硬化している。

ピット 4か所。P1~P4は、深さ46~54cmで、規模や配置から主柱穴である。

貯蔵穴 南コーナー部に位置していると推定される。長径76cm、短径72cmのほぼ円形で、深さ42cmである。底面は平坦で、壁は外傾して立ち上がる。覆土は3層に分層でき、ロームブロックを含むことから、埋め戻されている。

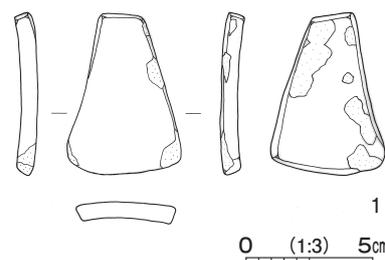
遺物出土状況 古墳時代前期の土師器片34点(埴1, 壺27, 甕6), 土製品1点(土器片砥石)が出土している。



第14図 第2号竪穴建物跡実測図

この他に混入した縄文土器片2点，弥生土器片1点，古墳時代後期の土師器片6点（坏1，甕5）が出土している。1は北東コーナー部の覆土下層から出土している。

所見 時期は，遺構の形態及び出土した土器片砥石の特徴から，古墳時代前期に比定できる。



第15図 第2号竪穴建物跡出土遺物実測図

第4表 第2号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
1	土器片磁石	6.5	4.5	0.7	25.59	長石・石英	にぶい黄橙	ハケ目後ナデ 砥面4面(土器断面)	覆土下層	100% PL 6

第5表 古墳時代竪穴建物跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高 (cm)	床面	壁溝	内部施設					覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸(m)					主柱穴	出入口	ピット	炉・竈	貯蔵穴				
1	B 2 c7	N - 60° - W	方形	7.40 × 7.00		0 ~ 12	平坦	一部	4	-	-	炉1	-	自然	土師器, 石器	前期中葉	SI 2 → 本跡 → F 1
2	B 2 d6	N - 64° - W	[長方形]	[6.60 × 4.64]		0 ~ 12	平坦	-	4	-	-	炉1	1	-	土製品	前期	本跡 → SI 1・F 1

3 中世の遺構と遺物

当時代の遺構は、地下式坑6基、土坑8基、溝跡3条、ピット群1か所、遺物包含層1か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 地下式坑

第1号地下式坑 (第16図 PL 3)

位置 調査区西部のB 2 d3区、標高約26mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 軸長は2.08m、主軸方向はN - 46° - Wである。

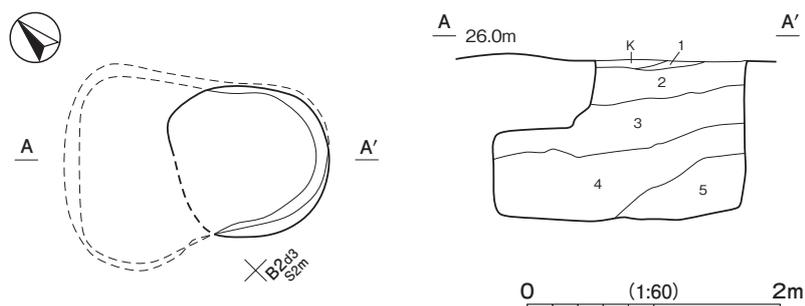
竪坑 主室の南東壁中央部に位置し、長径1.22m、短径1.20mの円形である。深さは128cmで、壁は直立している。底面は平坦で、硬化面は認められない。

主室 奥行0.85m、横幅1.62mの奥壁側が広がる台形を呈する。深さは130cmで、壁は直立している。底面は平坦で、硬化面は認められない。天井部は一部が残存しており、底面から天井部までの高さは72cmである。

覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれている状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片2点(皿)が出土している。細片のため、図示できない。

所見 時期は、遺構の形態及び出土した土師質土器片の特徴から、中世後期と考えられる。



土層解説

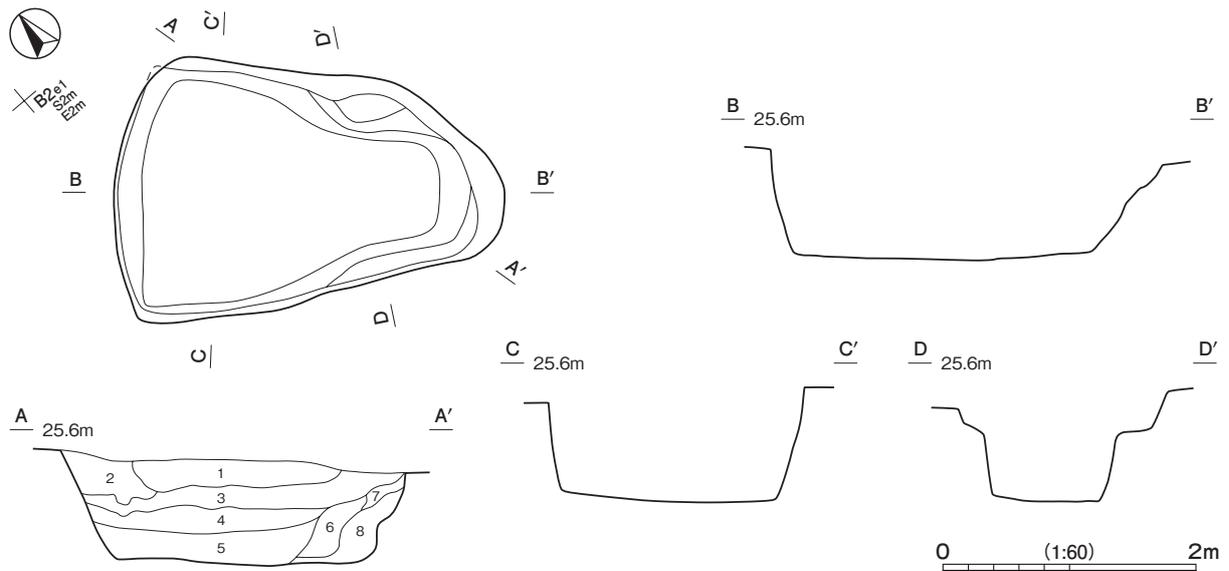
- | | | | |
|--------------|-----------------------------|--------------|--------------------|
| 1 10YR3/2 黒褐 | ローム小A・粒A/粘B, 締B | 4 10YR4/4 褐 | ローム中C・小A・粒A/粘B, 締C |
| 2 10YR3/3 暗褐 | ローム小A・粒A, 焼土粒D, 炭化粒D/粘B, 締C | 5 10YR3/4 暗褐 | ローム小A・粒A/粘B, 締B |
| 3 10YR3/4 暗褐 | ローム中D・小A・粒A/粘B, 締C | | |

第16図 第1号地下式坑実測図

第2号地下式坑 (第17図 PL 3)

位置 調査区西部のB 2 e1区、標高約26mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 軸長は3.07m、主軸方向はN - 47° - Wである。



土層解説

- | | | | |
|----------------|-----------------|--------------|--------------|
| 1 10YR4/3 にお漬堀 | ローム小A/粘A, 締A | 5 10YR4/4 褐 | ローム中B/粘C, 締B |
| 2 10YR5/6 黄褐 | ローム大A/粘B, 締A | 6 10YR3/2 黒褐 | ローム小B/粘C, 締A |
| 3 10YR3/4 暗褐 | ローム中B/粘A, 締A | 7 10YR4/4 褐 | ローム中B/粘C, 締A |
| 4 10YR4/6 褐 | ローム中A・小C/粘C, 締C | 8 10YR4/6 褐 | ローム中B/粘C, 締B |

第 17 図 第 2 号地下式坑実測図

竪坑 主室の南東壁中央部に位置し、奥行 1.26 m、横幅 1.49 m の隅丸長方形と推定される。深さは 70cm で、壁は外傾するが、上位で段を有して開いている。底面は平坦で、硬化面は認められない。

主室 奥行 1.83 m、横幅 2.01 m の奥壁側が広がる台形を呈する。深さは 85cm で、壁は外傾している。底面は平坦で、硬化面は認められない。

覆土 8 層に分層できる。第 1・2 層は、ロームブロックのみを多量に含むことから天井部の崩落土である。第 3～8 層は、ロームブロックを多く含む堆積状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 5 点（内耳鍋）が出土している。細片のため、図示できない。

所見 時期は、遺構の形態及び出土土器の特徴から、中世後期と考えられる。

第 3 号地下式坑（第 18 図 PL 3）

位置 調査区西部の B 2g2 区、標高約 26 m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 50 号土坑に掘り込まれている。

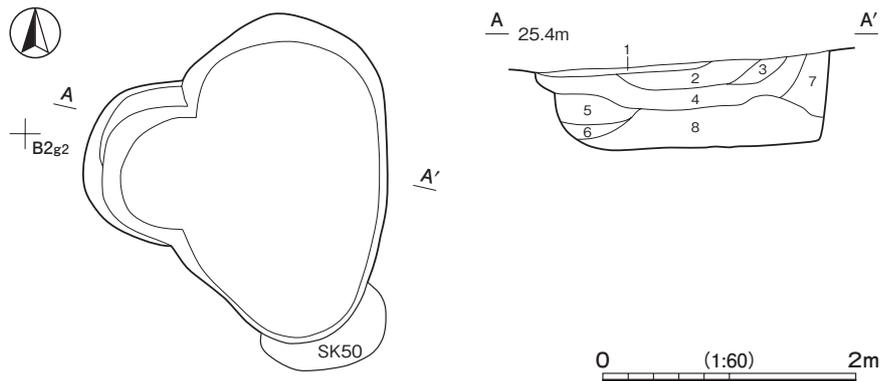
規模と形状 軸長は 2.40 m、主軸方向は N - 78° - W である。

竪坑 主室の西壁中央部に位置し、長径 1.24 m、短径 0.90 m の楕円形と推定される。深さは 64cm で、壁は外傾している。底面は平坦で、硬化面は認められない。

主室 奥行 1.50 m、横幅 2.46 m の楕円形である。深さは 70cm で、壁はほぼ直立している。底面は平坦で、硬化面は認められない。

覆土 8 層に分層できる。第 1～8 層は、ロームブロックを多量に含む堆積状況から、人為堆積である。

所見 時期は、遺構の形態から中世後期と考えられる。



土層解説

- 1 10YR3/4 暗褐 ローム中B・小B・粒B/粘B, 締C
- 2 10YR3/4 暗褐 ローム中D・小A・粒A, 灰白色粘土粒D/粘B, 締C
- 3 10YR3/4 暗褐 ローム小D・粒A/粘B, 締B
- 4 10YR4/3 にふい貴縄 ローム中D・小B・粒A, 灰白色粘土小D・粒D/粘B, 締C
- 5 10YR4/4 褐 ローム小A・粒A, 炭化粒D, 灰白色粘土粒D/粘B, 締C
- 6 10YR3/4 暗褐 ローム小D・粒A/粘B, 締C
- 7 10YR4/2 灰黄褐 ローム中D・小A・粒A, 灰白色粘土小D/粘B, 締C
- 8 10YR3/4 暗褐 ローム中C・小A・粒A/粘B, 締C

第18図 第3号地下式坑実測図

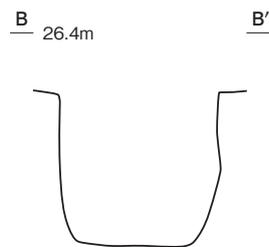
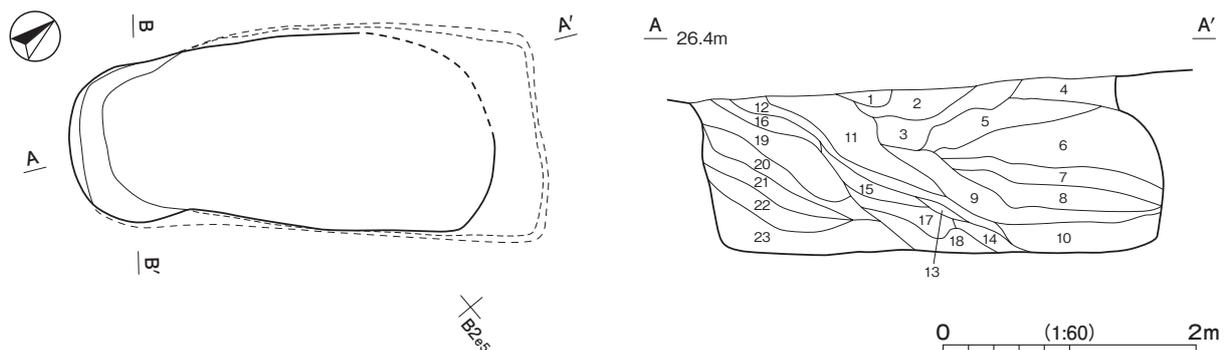
第4号地下式坑 (第19・20図 PL 3・6)

位置 調査区西部のB 2d4区, 標高約26mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 軸長は3.30m, 主軸方向はN-37°-Eである。

竪坑 主室の南西壁中央部に位置し, 長径1.24m, 短径0.90mのほぼ円形と推定される。深さは123cmで, 壁は外傾している。底面は平坦で, 硬化面は認められない。

主室 奥行2.40m, 横幅1.55mの長方形である。深さは140cmで, 壁はほぼ直立しているが, 奥壁は天井に至る壁の一部が残存して内湾している。底面は平坦で, 硬化面は認められない。

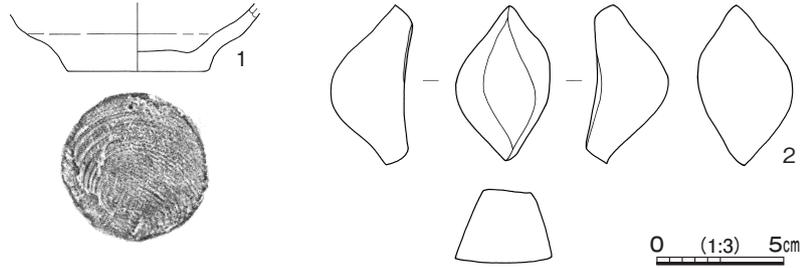


土層解説

- | | | | |
|------------------|-----------------|---------------|--------------------|
| 1 10YR5/8 黄褐 | ローム小B/粘A, 締A | 13 10YR3/4 暗褐 | ローム小D・粒D/粘C, 締C |
| 2 10YR4/6 褐 | ローム小C/粘A, 締A | 14 10YR3/4 暗褐 | ローム小D・粒C/粘C, 締C |
| 3 10YR5/8 黄褐 | ローム中C・小B/粘A, 締A | 15 10YR4/4 褐 | ローム小C・粒C/粘B, 締B |
| 4 10YR5/8 黄褐 | ローム中B・小B/粘A, 締A | 16 10YR4/4 褐 | ローム中C・小B・粒B/粘C, 締B |
| 5 10YR5/8 黄褐 | ローム中C・小C/粘A, 締A | 17 10YR4/4 褐 | ローム小D・粒C/粘C, 締B |
| 6 10YR5/8 黄褐 | ローム中B・小B/粘A, 締A | 18 10YR5/8 黄褐 | ローム中C・小B・粒B/粘A, 締A |
| 7 10YR4/6 褐 | ローム小C・粒B/粘C, 締C | 19 10YR3/3 暗褐 | ローム小C・粒C/粘C, 締A |
| 8 10YR4/6 褐 | ローム小C・粒B/粘C, 締C | 20 10YR4/4 褐 | ローム小C・粒B/粘B, 締A |
| 9 10YR4/6 褐 | ローム小B・粒B/粘C, 締C | 21 10YR4/6 褐 | ローム小C・粒C/粘C, 締A |
| 10 10YR4/6 褐 | ローム大A・中A/粘A, 締A | 22 10YR3/4 暗褐 | ローム小D・粒C/粘C, 締A |
| 11 10YR4/3 にふい貴縄 | ローム小C・粒C/粘C, 締B | 23 10YR4/6 褐 | ローム小B・粒B/粘C, 締B |
| 12 10YR3/3 暗褐 | ローム小C・粒D/粘C, 締B | | |

第19図 第4号地下式坑実測図

覆土 23層に分層できる。第11～23層は、竪坑から流れ込んだような堆積状況から竪坑からの流入土である。第10層はロームブロックのみを多量に含むことから天井部の崩落土で、第1～9層はロームブロックを多量に含む堆積状況から天井部崩落後の埋土である。



第20図 第4号地下式坑出土遺物実測図

遺物出土状況 土師質土器片4点（皿1，内耳鍋3），石器1点（砥石）が出土している。1・2は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土遺物及び遺構の形態から中世後期と考えられる。

第6表 第4号地下式坑出土遺物一覧

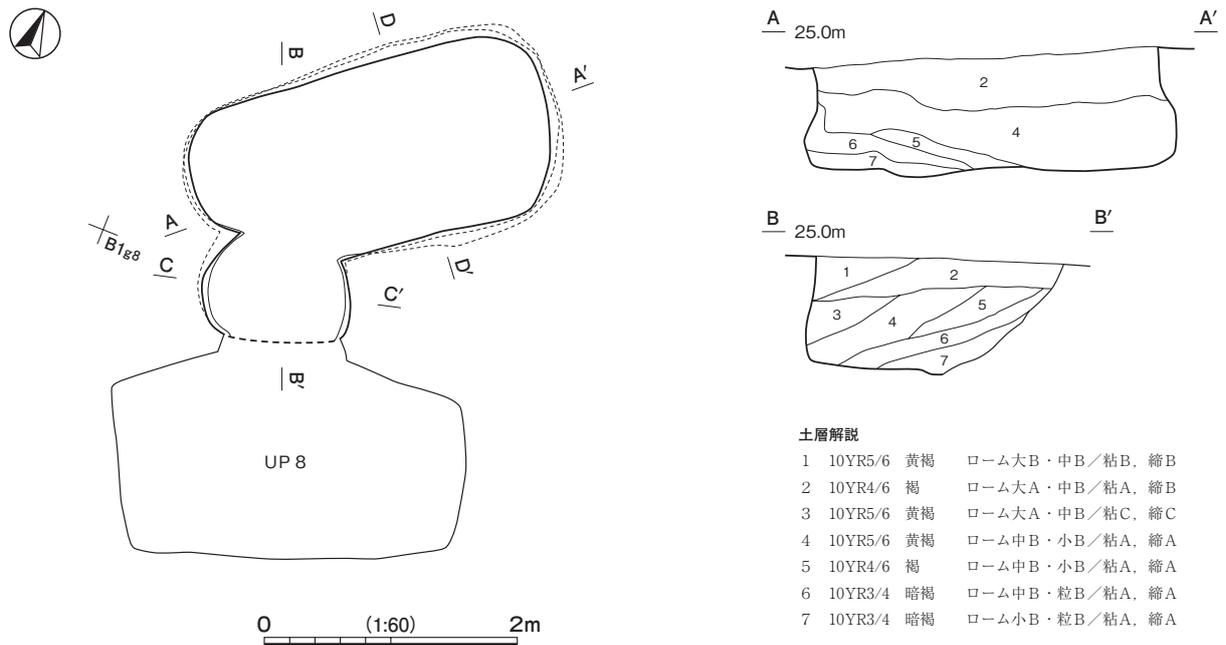
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	-	(2.7)	5.5	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 底部回転糸切り後板目圧痕 見込みは周辺部がわずかに凹む。	覆土中	50%
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
2	砥石	6.2	3.6	3.2	60.41	凝灰岩	砥面4面			覆土中	100% PL 6

第5号地下式坑（第21～23図 PL 3）

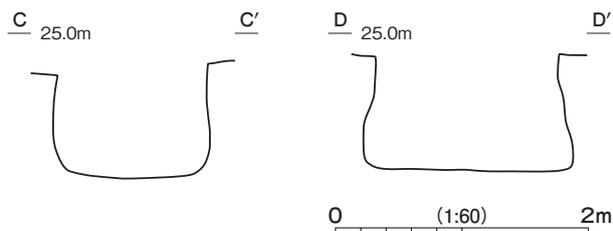
位置 調査区西部のB 1 f8区，標高約25 mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第8号地下式坑を掘り込んでいる。

規模と形状 軸長は2.10 m，主軸方向はN-14°-Wである。



第21図 第5号地下式坑実測図(1)



第22図 第5号地下式坑実測図(2)

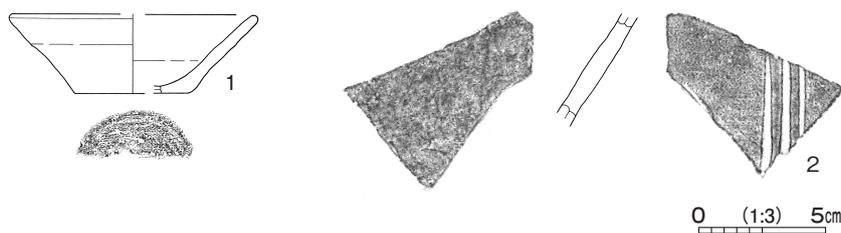
竪坑 主室の南西コーナー部に位置し、長径1.16m、短径0.96mの楕円形と推定される。深さは85cmで、壁は直立しているが、南壁は緩やかに外傾して立ち上がる。底面は平坦で、硬化面は認められない。

主室 奥行1.10m、横幅2.78mの隅丸長方形である。深さは92cmで、壁はほぼ直立している。底面は平坦で、硬化面は認められない。

覆土 7層に分層できる。第1～4層は、ロームブロックのみを多量に含むことから天井の崩落土である。第5～7層は、坑から流れ込んだような堆積状況から竪坑からの流入土である。

遺物出土状況 土師質土器片40点(皿3、播鉢1、内耳鍋36)が出土している。この他に混入した須恵器片1点(蓋)が出土している。1・2は覆土中から出土している。

所見 時期は、決定できる遺物が出土していないが、出土土器及び遺構の形態から中世後期と考えられる。



第23図 第5号地下式坑出土遺物実測図

第7表 第5号地下式坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[9.5]	3.1	[4.6]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外・内面ロクロナデ 見込みナデ 底部回転糸切り後ナデ	覆土中	20%
2	土師質土器	播鉢	-	(44)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外・内面ナデ 内面3条1単位の摺り目	覆土中	5%

第8号地下式坑 (第24図 PL 3)

位置 調査区西部のB1g8区、標高約25mの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第5号地下式坑に掘り込まれている。

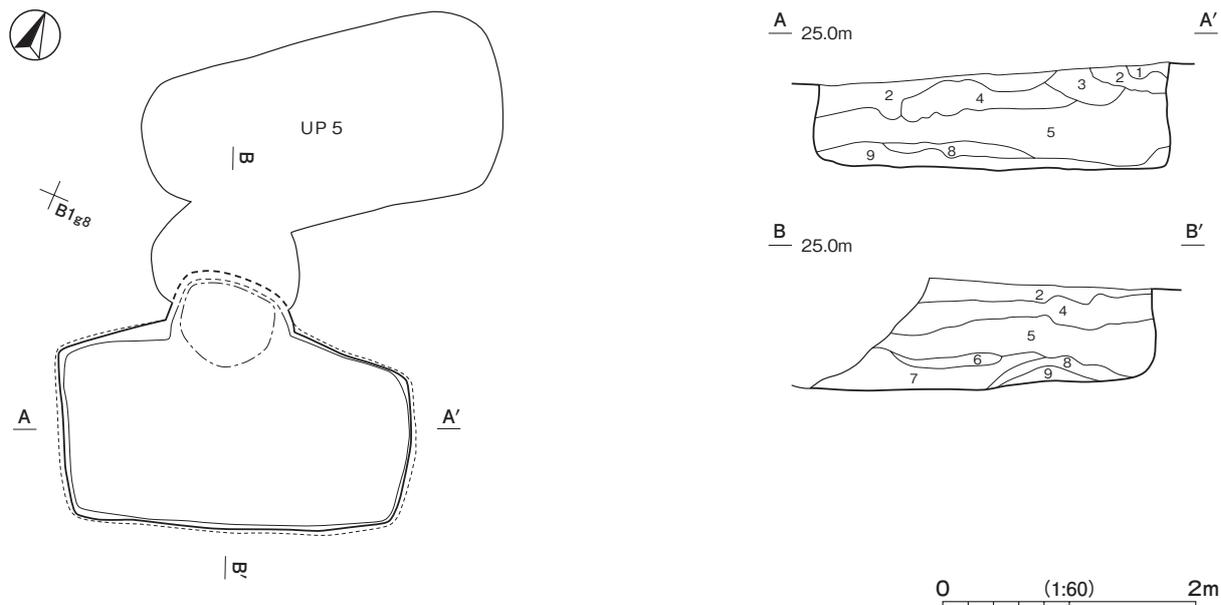
規模と形状 軸長は2.65mと推定され、主軸方向はN-17°-Wである。

竪坑 主室の北壁中央部に位置し、長径1.00m、短径0.98mの円形と推定される。深さは87cmで、壁は直立している。底面は平坦で、中央部に硬化面が認められる。

主室 奥行1.62m、横幅2.70mの長方形である。深さは83cmで、壁は直立している。底面は平坦で、硬化面は認められない。

覆土 9層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれている状況から、人為堆積である。

所見 時期は、決定できる遺物が出土していないが、遺構の形態及び重複関係から、中世後期と考えられる。



土層解説

- | | | | |
|--------------|-----------------|--------------|-----------------|
| 1 10YR5/8 黄褐 | ローム中B・小B/粘A, 締A | 6 10YR4/6 褐 | ローム小B・粒B/粘A, 締A |
| 2 10YR4/6 褐 | ローム中B・小B/粘A, 締B | 7 10YR3/4 暗褐 | ローム小B・粒B/粘A, 締B |
| 3 10YR5/6 黄褐 | ローム小B・粒B/粘A, 締B | 8 10YR3/4 暗褐 | ローム小B・粒B/粘B, 締B |
| 4 10YR4/6 褐 | ローム中A・小B/粘A, 締C | 9 10YR5/6 黄褐 | ローム中B・小B/粘A, 締A |
| 5 10YR4/4 褐 | ローム中A・小B/粘B, 締B | | |

第24図 第8号地下式坑実測図

第8表 中世地下式坑一覧

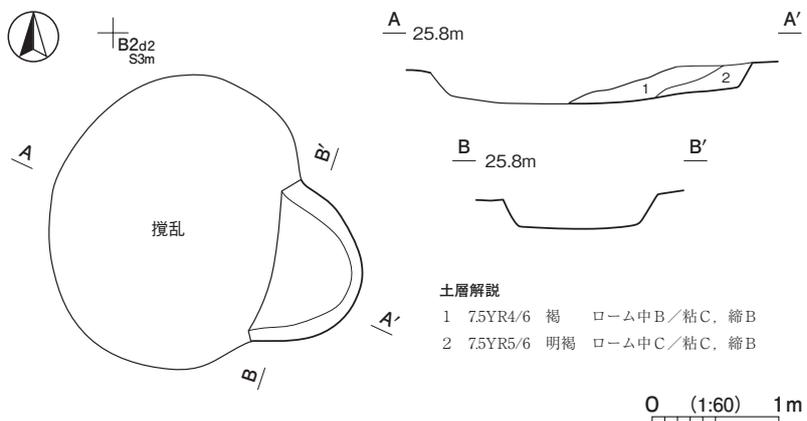
番号	位置	軸方向	平面形		軸長 (m)	竪坑規模			主室規模			覆土	主な出土遺物	備考
			竪坑	主室		奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (cm)	奥行 (m)	横幅 (m)	深さ (cm)			
1	B 2d3	N-46°-W	円形	台形	2.08	1.22	1.20	128	0.85	1.62	130	人為	土師質土器	
2	B 2e1	N-47°-W	[隅丸長方形]	台形	3.07	[1.26]	1.49	70	1.83	2.01	85	人為	土師質土器	
3	B 2g2	N-78°-W	[楕円形]	楕円形	2.40	[0.90]	1.24	64	1.50	2.46	70	人為	土師質土器	本跡→SK50
4	B 2d4	N-37°-E	[円形]	長方形	3.30	[0.90]	1.24	123	2.40	1.55	140	自然・人為	土師質土器, 石器	
5	B 1f8	N-14°-W	[楕円形]	隅丸台形	2.10	[0.96]	1.16	85	1.10	2.78	92	自然	土師質土器	UP 8→本跡
8	B 1g8	N-17°-W	[円形]	長方形	[2.65]	[0.98]	1.00	87	1.62	2.70	83	人為	土師質土器	本跡→UP 5

(2) 土坑

第6号土坑 (第25・26図)

位置 調査区西部のB 2e2区, 標高約26mの台地緩斜面部に位置している。

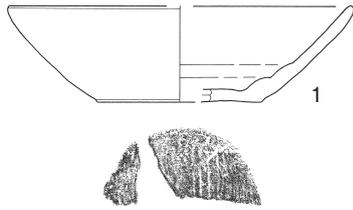
規模と形状 南北径は1.30mで, 東西径は攪乱のため0.68mしか確認できなかった。長径方向はN-46°-Wで, 楕円形と推定される。深さは28cmで, 壁は外傾している。底面は平坦である。



土層解説

- | | |
|---------------|--------------|
| 1 7.5YR4/6 褐 | ローム中B/粘C, 締B |
| 2 7.5YR5/6 明褐 | ローム中C/粘C, 締B |

第25図 第6号土坑実測図



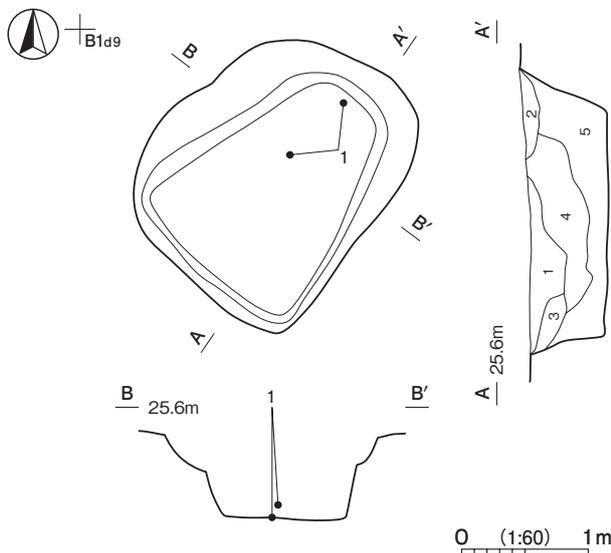
0 (1:3) 5cm

第26図 第6号土坑出土遺物実測図

第9表 第6号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[13.4]	3.8	[6.4]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 目圧痕 見込みは周辺部がわずかに凹む。	覆土中	30%

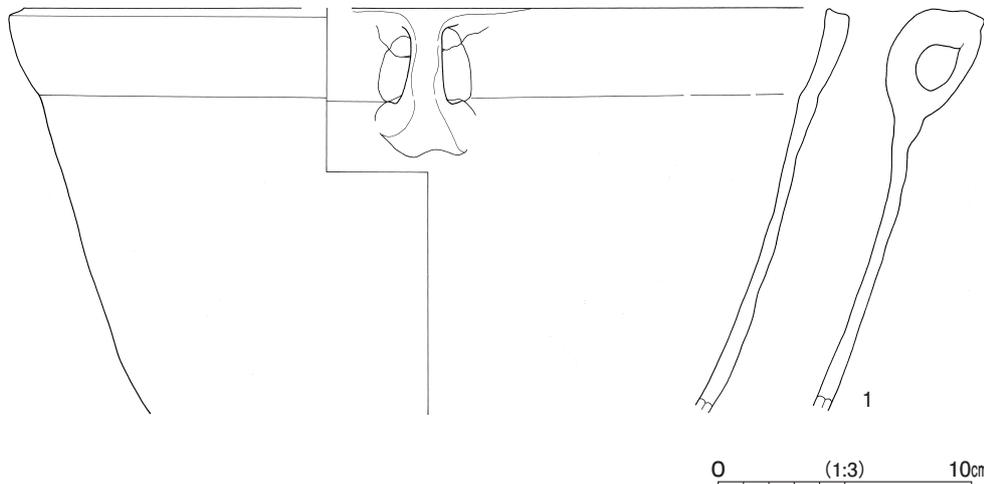
第35号土坑 (第27・28図 PL 4)



土層解説

- | | | | | | |
|-------------|--------------------|--------------|-----------------|-------------|--------------|
| 1 10YR4/4 褐 | ローム中C・小C・粒B/粘B, 締B | 3 10YR3/4 暗褐 | ローム粒B/粘B, 締B | 5 10YR4/4 褐 | ローム粒A/粘B, 締B |
| 2 10YR4/4 褐 | ローム粒B/粘B, 締B | 4 10YR4/6 褐 | ローム小B・粒A/粘B, 締C | | |

第27図 第35号土坑実測図



第28図 第35号土坑出土遺物実測図

覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれている状況から人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片1点(皿)が出土している。1は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土遺物及び遺構の形態から中世後期と考えられる。

位置 調査区西部のB 1 d9区、標高約26mの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長軸2.24m、短軸1.81mの隅丸長方形で、長軸方向はN-45°-Eである。深さは66cmで、壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 5層に分層できる。第1・4層にロームブロックが多く含まれている状況から、人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋)が出土している。1は覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器及び遺構の形態から中世後期と考えられる。

第 10 表 第 35 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	内耳鍋	[33.2]	(16.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外・内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ 耳貼り付け	覆土下層	10% 外面煤付着

第 38 号土坑 (第 29・30 図 PL 7)

位置 調査区西部の B 1 d0 区, 標高約 26 m の台地緩斜面部に位置している。

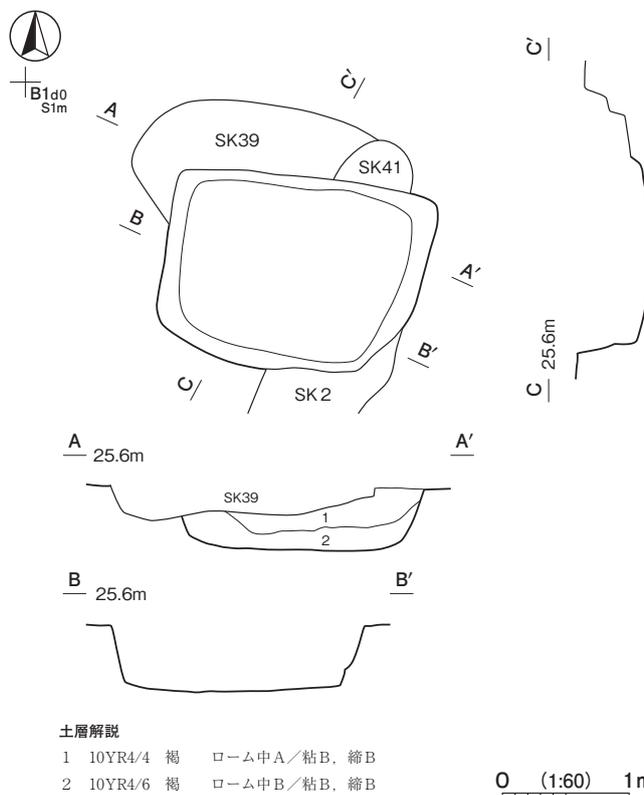
重複関係 第 2・39・41 号土坑に掘り込まれている。第 1 号遺物包含層と重複するが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 長軸 2.06 m, 短軸 1.54 m の隅丸長方形で, 長軸方向は N - 76° - W である。深さは 50cm で, 壁は外傾している。底面は平坦である。

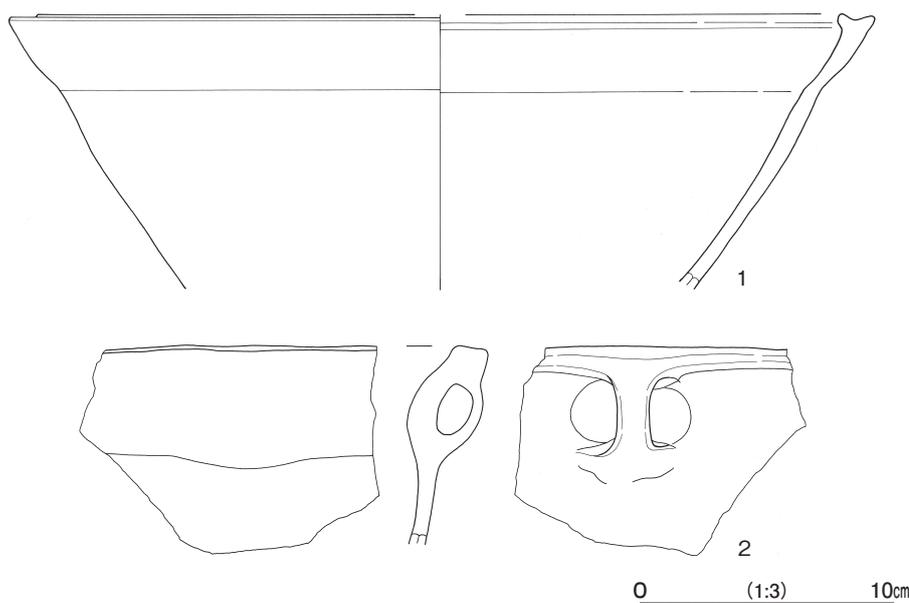
覆土 2 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれている状況から, 人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 3 点 (内耳鍋) が出土している。1・2 は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土遺物及び遺構の形態から中世後期と考えられる。



第 29 図 第 38 号土坑実測図



第 30 図 第 38 号土坑出土遺物実測図

第 11 表 第 38 号土坑出土遺物一覧

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	内耳鍋	[34.2]	(10.9)	-	長石・石英	にぶい赤褐	普通	体部外・内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ	覆土中	20% 外面煤付着
2	土師質土器	内耳鍋	-	(8.3)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外・内面ナデ 口縁部外・内面横ナデ 耳 貼り付け	覆土中	5% 外面煤付着

第 46 号土坑 (第 31 図 PL 4・7)

位置 調査区西部の B 2c1 区, 標高約 26 m の台地緩斜面部に位置している。

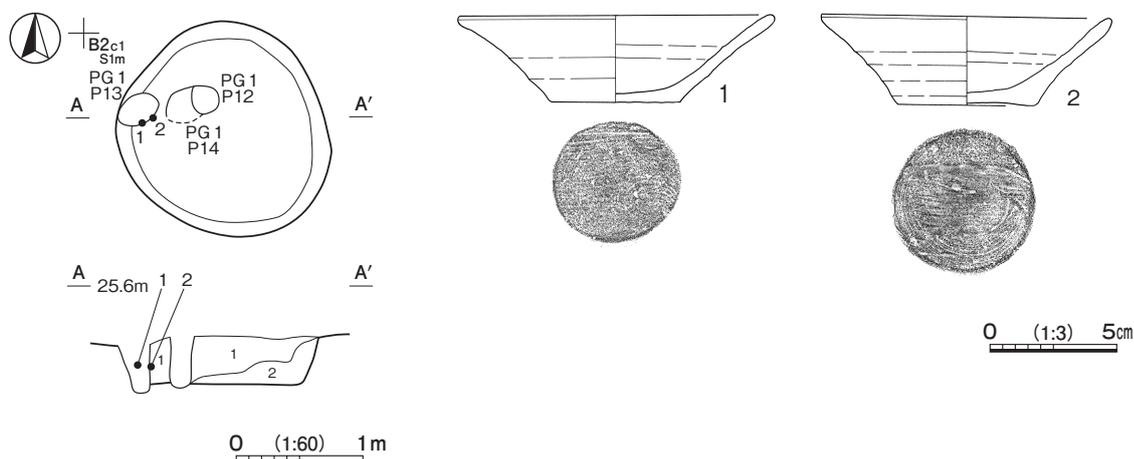
重複関係 本跡は第 1 号遺物包含層の第 7 層上面から掘り込んでおり, 第 1 号ピット群 P12 ~ P14 に掘り込まれている。

規模と形状 長径 1.74 m, 短径 1.60 m のほぼ円形である。深さは 54cm で, 壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 2 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれている状況から, 人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 8 点 (皿 2, 内耳鍋 6) が出土している。1・2 は第 1 層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から中世後期と考えられる。



土層解説

- 1 10YR4/6 褐 ローム小B / 粘B, 締B
- 2 10YR4/4 褐 ローム小C / 粘B, 締C

第 31 図 第 46 号土坑・出土遺物実測図

第 12 表 第 46 号土坑出土遺物一覧

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	特 徴	出土位置	備 考
1	土師質土器	皿	12.2	3.5	5.0	長石・石英・雲母	明褐	普通	体部外・内面クロナデ 見込みナデ 底部回転糸切り後板	第 1 層	100% PL 7
2	土師質土器	皿	11.3	3.5	5.5	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部外・内面クロナデ 見込みナデ 底部回転糸切り後板	第 1 層	100% PL 7

第 82 号土坑 (第 32 図)

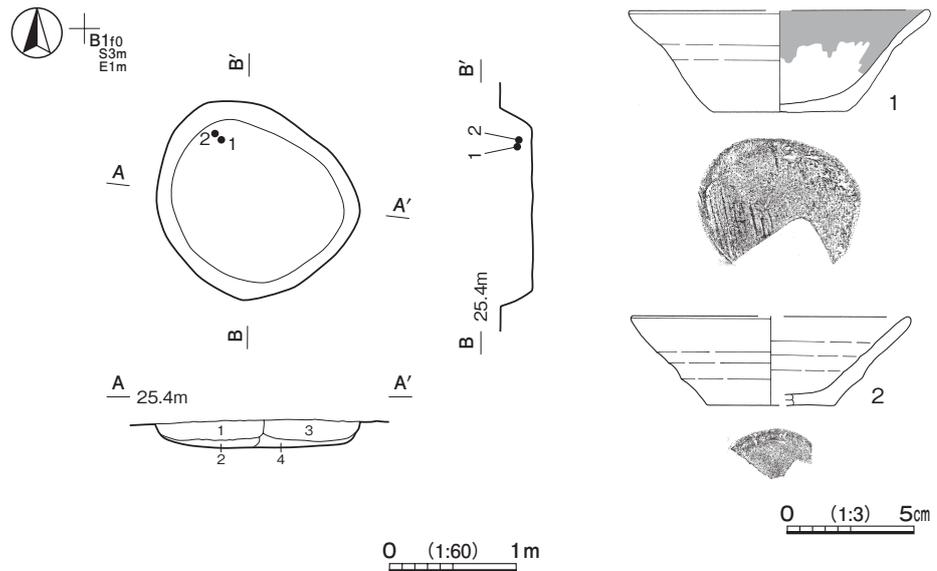
位置 調査区西部の B 1f0 区, 標高約 26 m の台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径 1.59 m, 短径 1.43 m の楕円形で, 長径方向は N - 40° - W である。深さは 25cm で, 壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 4 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれている状況から, 人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 5 点 (皿 3, 内耳鍋 2) が出土している。1・2 は覆土下層から出土している。

所見 時期は, 出土土器から中世後期と考えられる。



土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐 ローム小C・粒B/粘B, 締C 3 10YR4/3 におい噴 ローム中D・小C・粒B/粘B, 締C
 2 10YR4/4 褐 ローム小A・粒A/粘B, 締B 4 10YR3/3 暗褐 ローム小D・粒C/粘B, 締C

第 32 図 第 82 号土坑・出土遺物実測図

第 13 表 第 82 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考	
1	土師質土器	皿	[11.6]	4.1	5.3	長石・石英・雲母	におい褐	普通	体部外・内面ロクロナデ 目圧痕 見込みナデ	底部回転系切り後板	覆土中	40% 口縁部 内面油煙付着
2	土師質土器	皿	[11.0]	3.5	[5.0]	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 目圧痕 見込みナデ	底部回転系切り後板	覆土中	20%

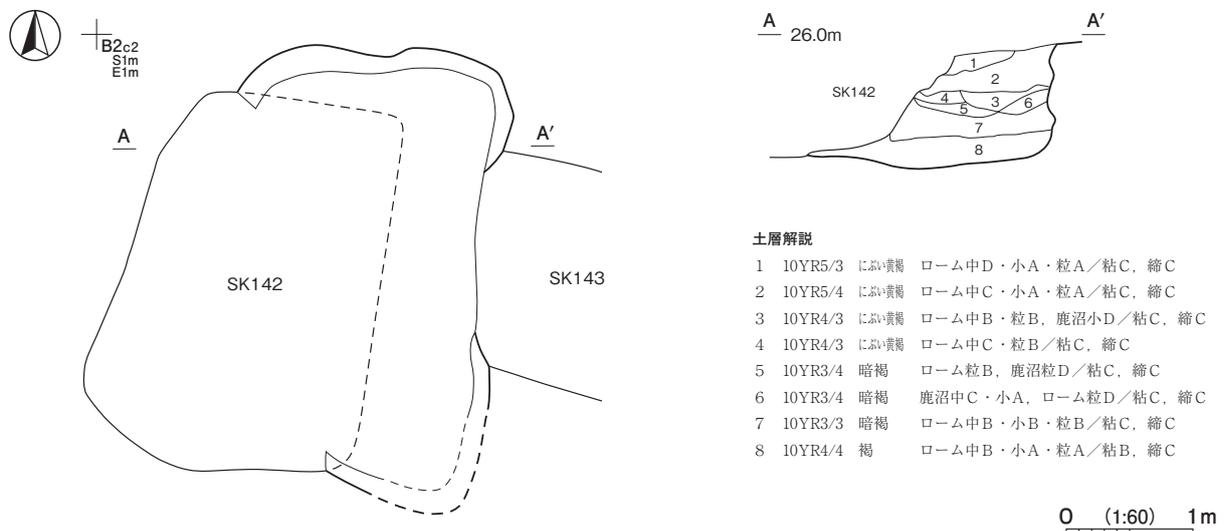
第 141 号土坑 (第 33 図 PL 4)

位置 調査区西部の B 2c2 区, 標高約 26 m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 142 号土坑に掘り込まれている。第 143 号土坑と重複するが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 長軸 3.54 m, 短軸 2.50 m の隅丸長方形と推定され, 長軸方向は N - 8° - E である。深さは 85cm で, 壁は外傾している。底面は平坦である。

覆土 8 層に分層できる。各層にロームブロックが含まれている状況から, 人為堆積である。



土層解説

- 1 10YR5/3 におい噴 ローム中D・小A・粒A/粘C, 締C
 2 10YR5/4 におい噴 ローム中C・小A・粒A/粘C, 締C
 3 10YR4/3 におい噴 ローム中B・粒B, 鹿沼小D/粘C, 締C
 4 10YR4/3 におい噴 ローム中C・粒B/粘C, 締C
 5 10YR3/4 暗褐 ローム粒B, 鹿沼粒D/粘C, 締C
 6 10YR3/4 暗褐 鹿沼中C・小A, ローム粒D/粘C, 締C
 7 10YR3/3 暗褐 ローム中B・小B・粒B/粘C, 締C
 8 10YR4/4 褐 ローム中B・小A・粒A/粘B, 締C

第 33 図 第 141 号土坑実測図

遺物出土状況 土師質土器片 1 点（内耳鍋）が出土している。細片のため、図示できない。

所見 時期は、決定できる遺物が出土していないが、遺構の形態及び重複関係から、中世後期と考えられる。

第 142 号土坑（第 34・35 図 PL 4・6）

位置 調査区西部の B 2c2 区，標高約 26 m の台地緩斜面部に位置している。

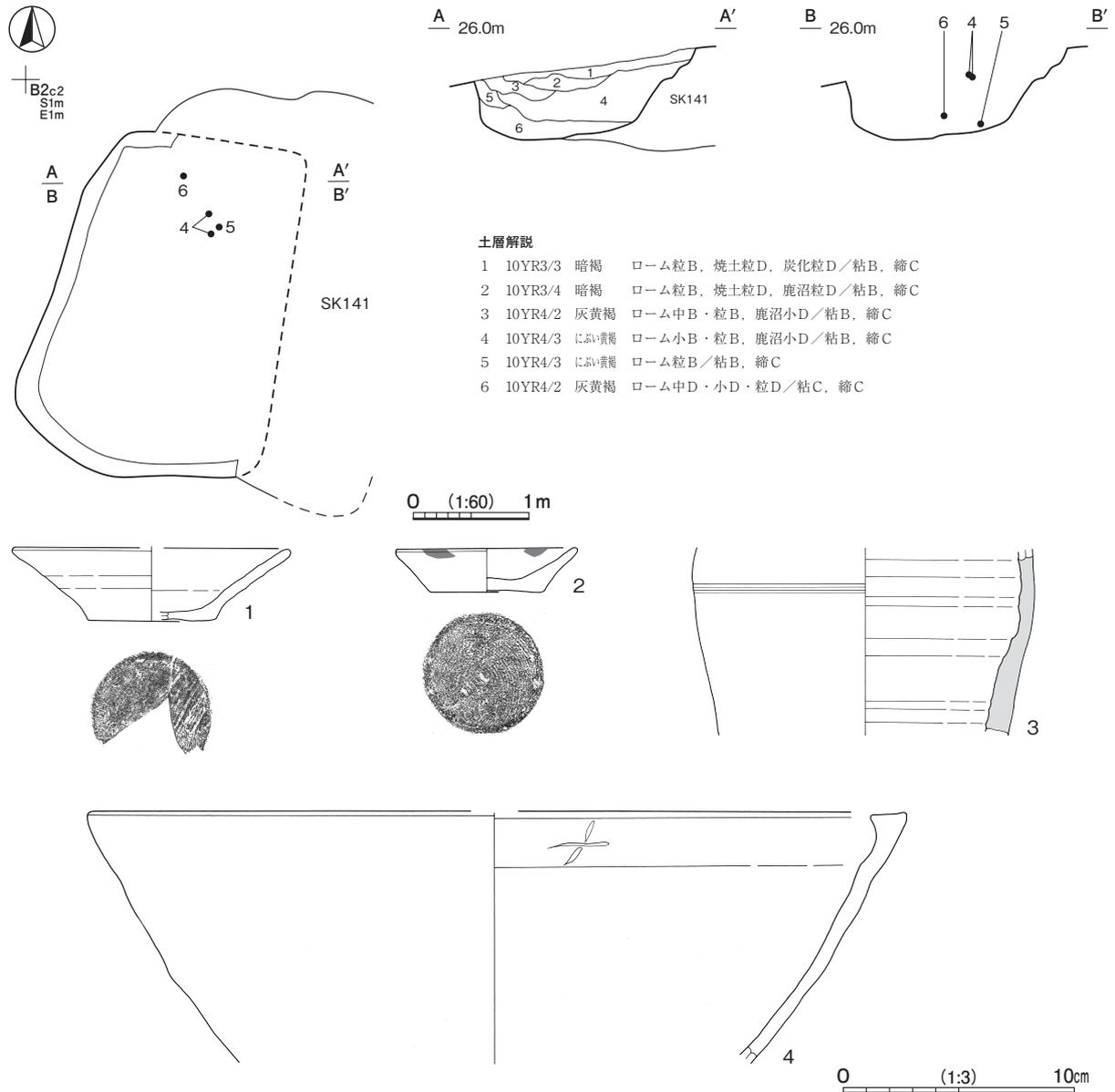
重複関係 第 141 号土坑を掘り込み，第 1 号遺物包含層第 3 層上面から掘り込んでいる。

規模と形状 長軸 3.05 m，短軸 2.10 m の隅丸長方形と推定され，長軸方向は N - 16° - E である。深さは 58 cm で，壁は外傾している。底面はほぼ平坦である。

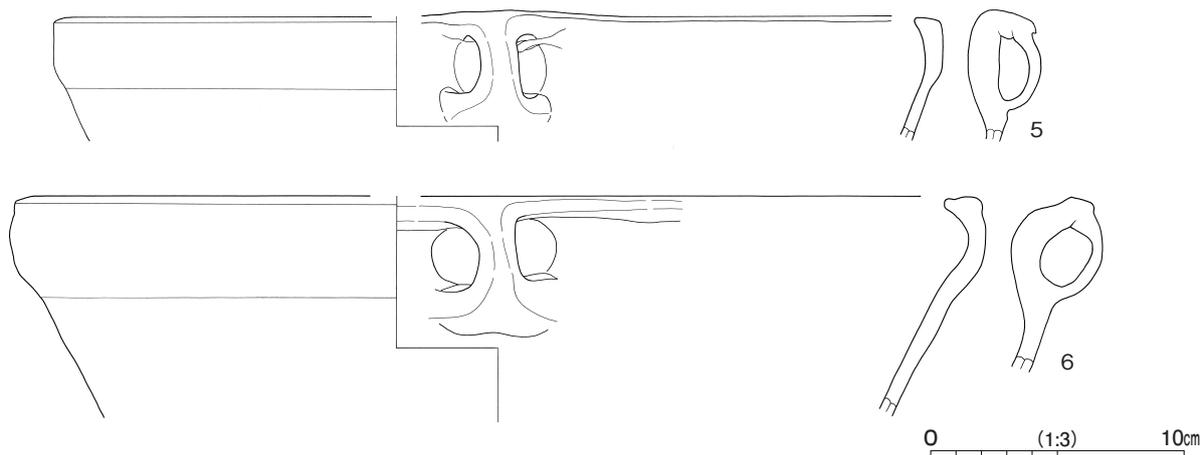
覆土 6 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれている状況から，人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 48 点（皿 2，壺 2，内耳鍋 44），陶器片 1 点（瓶子 1）が出土している。1～3 は覆土中，4 は覆土上層，5・6 は覆土下層から出土している。

所見 時期は，遺構の形態及び重複関係から，中世後期と考えられる。



第 34 図 第 142 号土坑・出土遺物実測図



第 35 図 第 142 号土坑出土遺物実測図

第 14 表 第 142 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考	
1	土師質土器	皿	[11.8]	3.2	5.6	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外・内面口クロナデ 目圧痕 見込みナデ	底部回転糸切り後板	覆土中	60%
2	土師質土器	皿	7.8	1.9	4.9	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部外・内面口クロナデ 目圧痕 見込みナデ	底部回転糸切り後板	覆土中	80% PL 6 口縁部外・内面油煙 付着
4	土師質土器	内耳鍋	[35.0]	(10.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外・内面ナデ 口縁部内面クシによる「十」字印	口縁部外・内面横ナデ	覆土上層	20% PL 6 外面煤付着
5	土師質土器	内耳鍋	[35.0]	(5.2)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外・内面ナデ	口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	5% 外面煤付着
6	土師質土器	内耳鍋	[38.0]	(8.8)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外・内面ナデ	口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	5% PL 6 外面煤付着

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
3	陶器	瓶子	-	(8.2)	-	緻密 灰白	肩部にクシによる平行沈線	灰釉	瀬戸・美濃	覆土中	5% PL 6

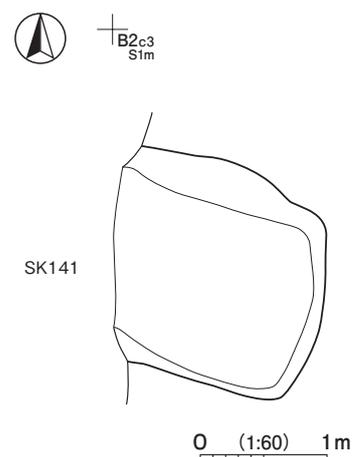
第 143 号土坑 (第 36 図)

位置 調査区西部の B 2c3 区、標高約 26 m の台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第 141 号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 南北軸は 1.74 m で、東西軸は第 141 号土坑と重複しているため 1.80 m しか確認できなかった。長軸方向は N - 72° - W の隅丸長方形と推定される。深さは 85cm で、壁は外傾している。底面は平坦である。

所見 時期は、決定できる遺物が出土していないが、遺構の形態及び重複関係から、中世後期と考えられる。



第 36 図 第 143 号土坑実測図

第 15 表 中世土坑一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
6	B 2 e2	N - 46° - W	[楕円形]	(0.68) × 1.30	28	外傾	平坦	人為	皿	
35	B 1 d9	N - 45° - E	隅丸長方形	2.24 × 1.81	66	外傾	平坦	人為	内耳鍋	
38	B 1 d0	N - 76° - W	隅丸長方形	2.06 × 1.54	50	外傾	平坦	人為	内耳鍋	本跡→SK 2・39・41
46	B 2 c1	-	円形	1.74 × 1.60	54	外傾	平坦	人為	皿	HG 1 第 7 層→本跡 →PG 1 P12~P14
82	B 1 f0	N - 40° - W	楕円形	1.59 × 1.43	25	外傾	平坦	人為	皿	
141	B 2 c2	N - 8° - E	[隅丸長方形]	3.54 × [2.50]	85	外傾	平坦	人為		本跡→SK142
142	B 2 c2	N - 16° - E	[隅丸長方形]	3.05 × [2.10]	58	外傾	平坦	人為	皿, 内耳鍋, 瓶子	SK141 →本跡
143	B 2 c2	N - 72° - W	[隅丸長方形]	(1.80) × 1.74	85	外傾	平坦	人為		

(3) 溝跡

第 1 号溝跡 (第 37 図 PL 4・5)

位置 調査区中央部の B 3 a7 ~ B 3 g3 区, 標高約 27 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第 3 号溝跡及び第 2 号陥し穴を掘り込んでいる。第 112 号土坑と重複するが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 方向は N - 36° - E で, 直線状を呈し, 南北ともに調査区外に至っている。確認できた長さは 28.30 m で, 上幅 230 ~ 300cm, 下幅 40 ~ 114cm で, 深さ 45cm である。断面形は皿状を呈する。

覆土 4 層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれている状況から, 人為堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 22 点 (内耳鍋), 陶器片 2 点 (甕) が出土している。この他に混入した弥生土器片 3 点 (広口壺), 土師器片 4 点 (高坏 1, 甕 3) が出土している。細片のため図示はできない。

所見 時期は, 出土遺物から中世後期と考えられる。

第 2 号溝跡 (第 38 ~ 40 図 PL 4・5・7)

位置 調査区中央部の B 3 a8 ~ B 3 f6 区, 標高約 27 m の台地平坦部に位置している。

重複関係 第 75 ~ 77・79・111 号土坑と重複するが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 方向は N - 35° - E で, 隣接する第 1 号溝跡と一致しており, 直線状を呈して南北ともに調査区外に至ると推定される。確認できた長さは 20.78 m で, 上幅 170 ~ 204cm, 下幅 28 ~ 96cm で, 深さ 52cm である。断面形は皿状を呈する。ほぼ中央部東側に南北 6.10 m, 東西 3.82 m の半円形を呈する突出部を有する。本跡の覆土と近似するため, 本跡の一部と捉えたが, 性格は不明である。

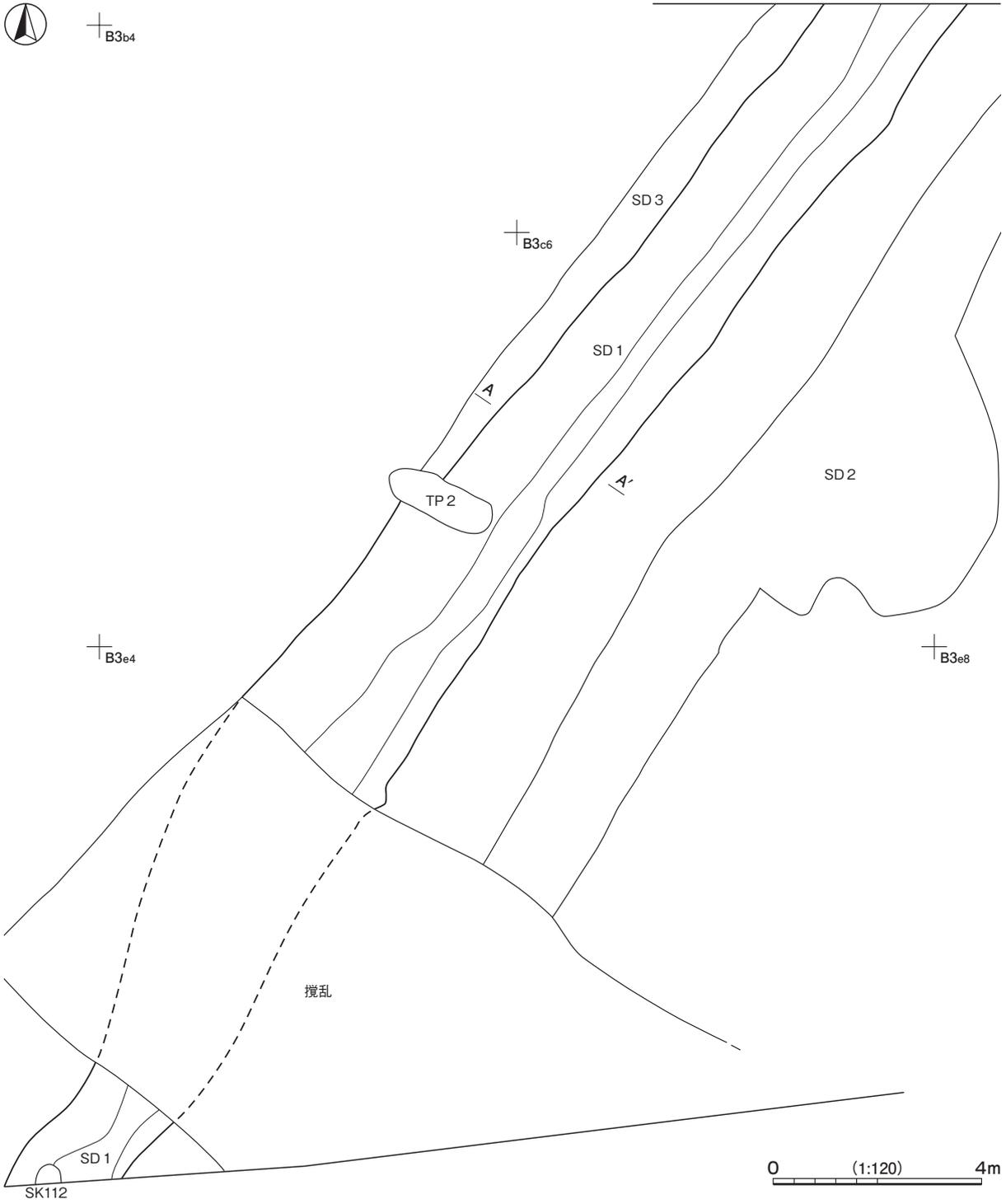
覆土 7 層に分層できる。不規則に堆積している部分もあるが, レンズ状に堆積している状況から, 自然堆積である。

遺物出土状況 土師質土器片 137 点 (内耳鍋), 陶器片 3 点 (碗 2, 皿 1), 石器 1 点 (砥石) が出土している。この他に混入した縄文土器片 3 点 (深鉢) 弥生土器片 4 点 (広口壺) が出土している。1・2・4 は覆土中から, 3・5・6 は覆土上層から出土している。

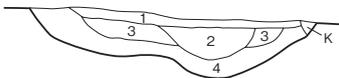
所見 時期は, 出土遺物から中世後期と考えられる。



B3b4



A 27.2m



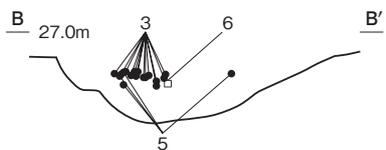
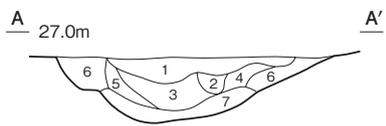
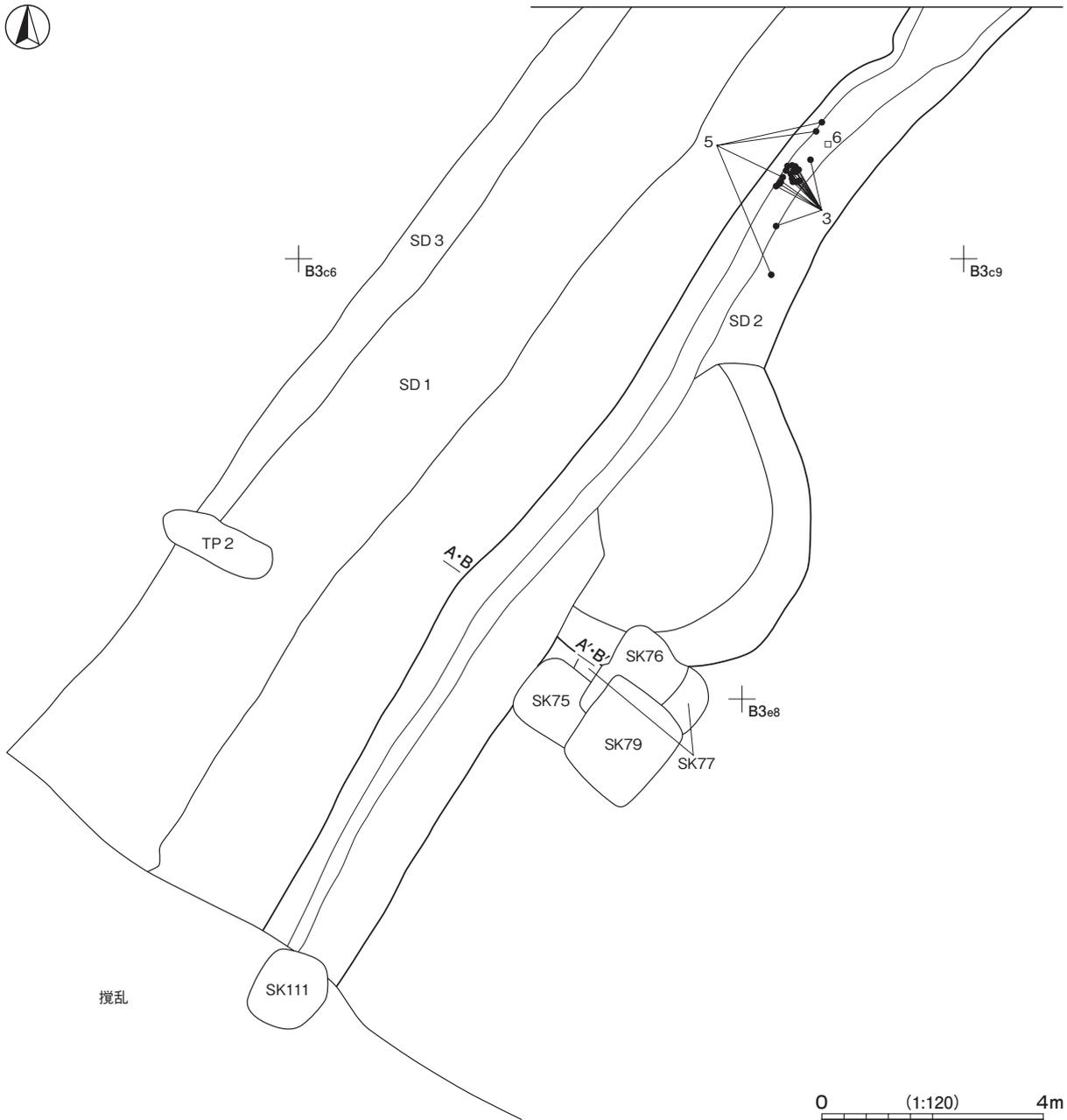
A'

土層解説

- 1 10YR2/3 黒褐 ローム小D・粒B/粘B, 締B
- 2 10YR3/4 にぶい黄褐 ローム小C・粒B/粘B, 締C
- 3 10YR4/3 にぶい黄褐 ローム小B・粒B/粘B, 締C
- 4 10YR4/4 褐 ローム小A・粒A/粘B, 締C

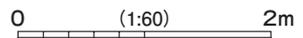
0 (1:60) 2m

第 37 図 第 1 号溝跡実測図

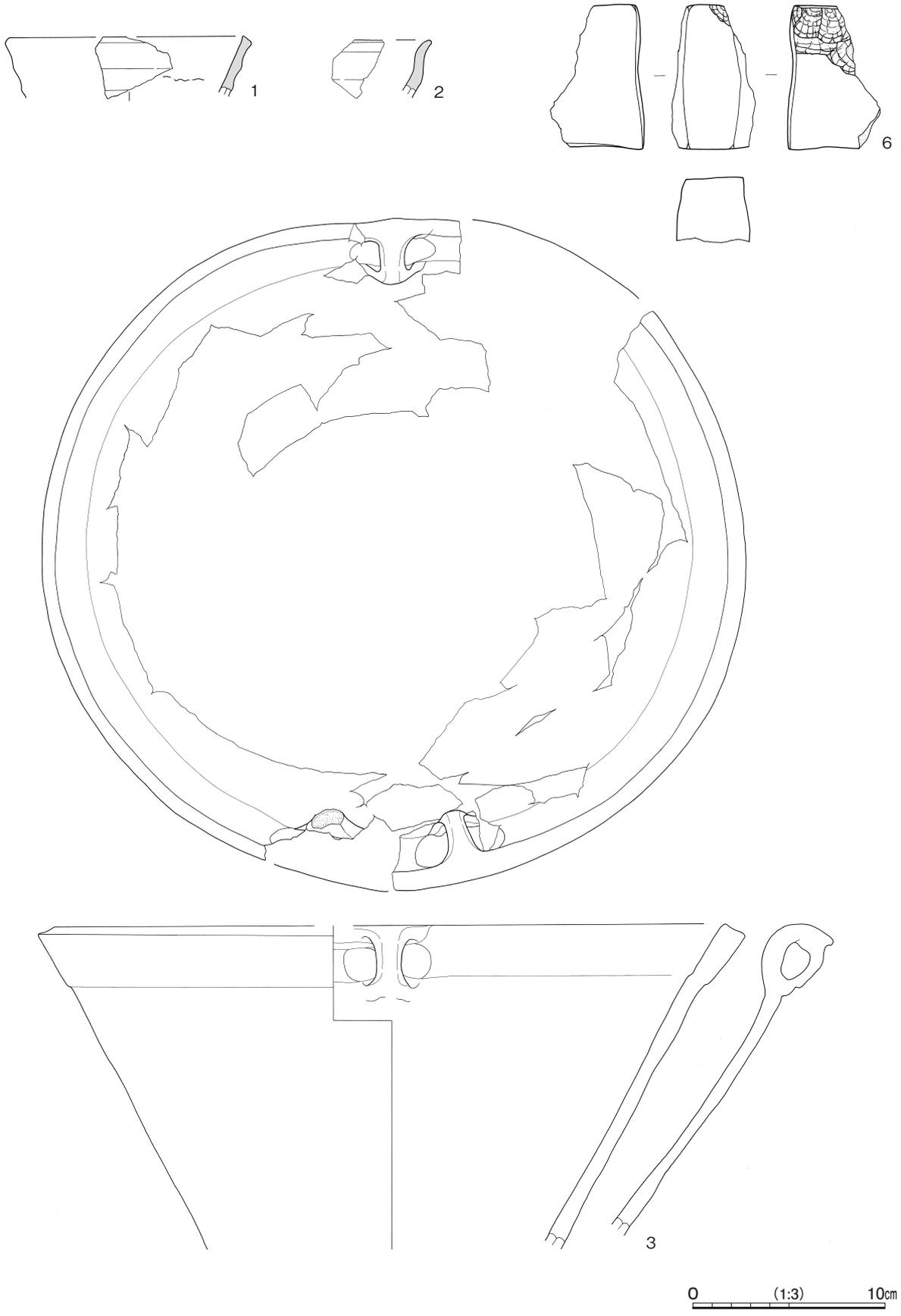


土層解説

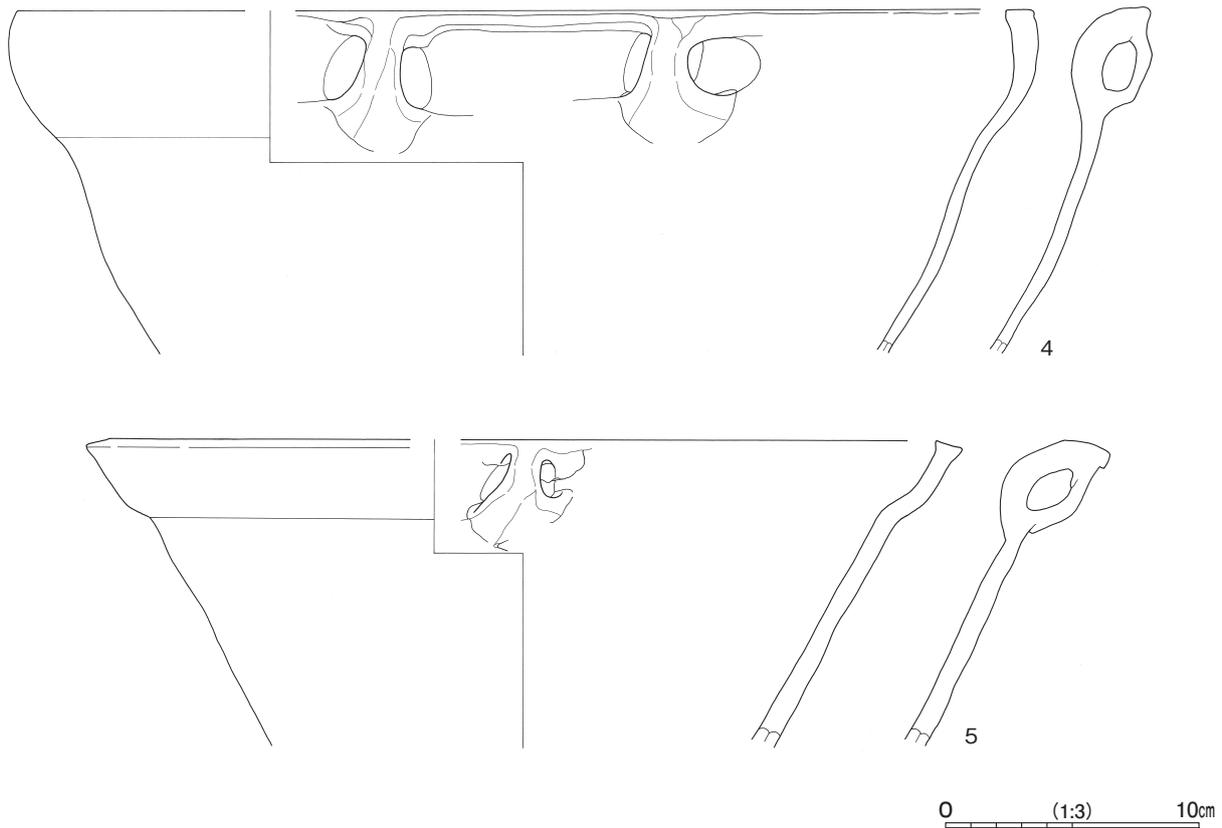
- | | | | |
|---|---------|--------|----------------|
| 1 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | ローム粒B / 粘B, 縮B |
| 2 | 10YR4/3 | にぶい黄褐色 | ローム粒A / 粘B, 縮B |
| 3 | 10YR3/3 | 暗褐色 | ローム粒B / 粘B, 縮B |
| 4 | 10YR4/4 | 褐色 | ローム粒A / 粘B, 縮B |
| 5 | 10YR4/4 | 褐色 | ローム粒A / 粘B, 縮C |
| 6 | 10YR5/6 | 黄褐色 | ローム粒A / 粘B, 縮C |
| 7 | 10YR4/4 | 褐色 | ローム粒A / 粘B, 縮C |



第38図 第2号溝跡実測図



第 39 图 第 2 号沟迹出土遗物实测图(1)



第40図 第2号溝跡出土遺物実測図(2)

第16表 第2号溝跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特徴		釉薬	産地	出土位置	備考
1	陶器	卸皿	[12.0]	(3.2)	-	緻密 灰黄	口唇部が外削ぎ状に尖る。口縁部の下位まで施釉。		灰釉	瀬戸・美濃	覆土中	15% PL 7
2	陶器	天目茶碗	-	(3.0)	-	緻密 灰白	口縁部がS字状に外反する。		鉄釉	瀬戸・美濃	覆土中	10% PL 7

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴		出土位置	備考
3	土師質土器	内耳鍋	36.7	(17.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外・内面ナデ	口縁部外・内面横ナデ	覆土上層	60% PL 7 外面煤付着
4	土師質土器	内耳鍋	[40.0]	(13.6)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい赤褐	普通	体部外・内面ナデ	口縁部外・内面横ナデ	覆土中	20% PL 7 外面煤付着
5	土師質土器	内耳鍋	[34.2]	(12.2)	-	長石・石英	明赤褐	普通	体部外・内面ナデ	口縁部外・内面横ナデ	覆土上層	30% 外面煤付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
6	砥石	7.6	(5.0)	(4.3)	176.58	凝灰岩	砥面1面 側面に調整剥離		覆土上層	50%

第3号溝跡 (第41図 PL 4・5)

位置 調査区中央部のB 3a7～B 3d5区, 標高約27mの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号陥し穴を掘り込み, 第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 B 3d5区から北東方向(N-36°-E)に直線状に延びて調査区外に至る。方向は重複関係にある第1号溝跡と一致している。確認できた長さは11.44mで, 上幅44～84cm, 下幅12～40cmで, 深さ24cmである。断面形は皿状を呈する。

覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれている状況から, 人為堆積である。

所見 時期は, 重複関係及び方向が第1・2号溝跡と一致していることから, 中世後期と考えられる。



+ B3b4

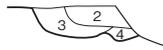
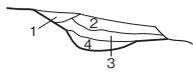


A 27.2m

A'

B 27.2m

B'



0 (1:120) 4m

0 (1:60) 2m

土層解説

1 10YR4/6 褐 □-△中A・小A・粒A/粘B, 締B
 2 10YR2/3 黒褐 □-△中D・小B・粒B/粘B, 締B

3 10YR4/4 褐 □-△中C・小B・粒A/粘B, 締C
 4 10YR3/4 暗褐 □-△中C・小C・粒B/粘B, 締B

第 41 図 第 3 号溝跡実測図

第17表 中世溝跡一覧

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(cm)	下幅(cm)	深さ(cm)					
1	B 3a7 ~ B 3g3	N - 36° - E	直線状	(28.30)	230 ~ 300	40 ~ 114	45	皿状	外傾	人為		SD 3・TP 2→本跡
2	B 3a8 ~ B 3f6	N - 35° - E	直線状	(20.78)	170 ~ 204	28 ~ 96	52	皿状	外傾	自然	卸皿, 天目茶碗, 内耳鍋	
3	B 3a7 ~ B 3d5	N - 36° - E	直線状	(11.44)	44 ~ 84	12 ~ 40	24	皿状	外傾	人為		TP 2→本跡→SD 3

(4) ピット群

第1号ピット群 (第42・43図 PL 1・7)

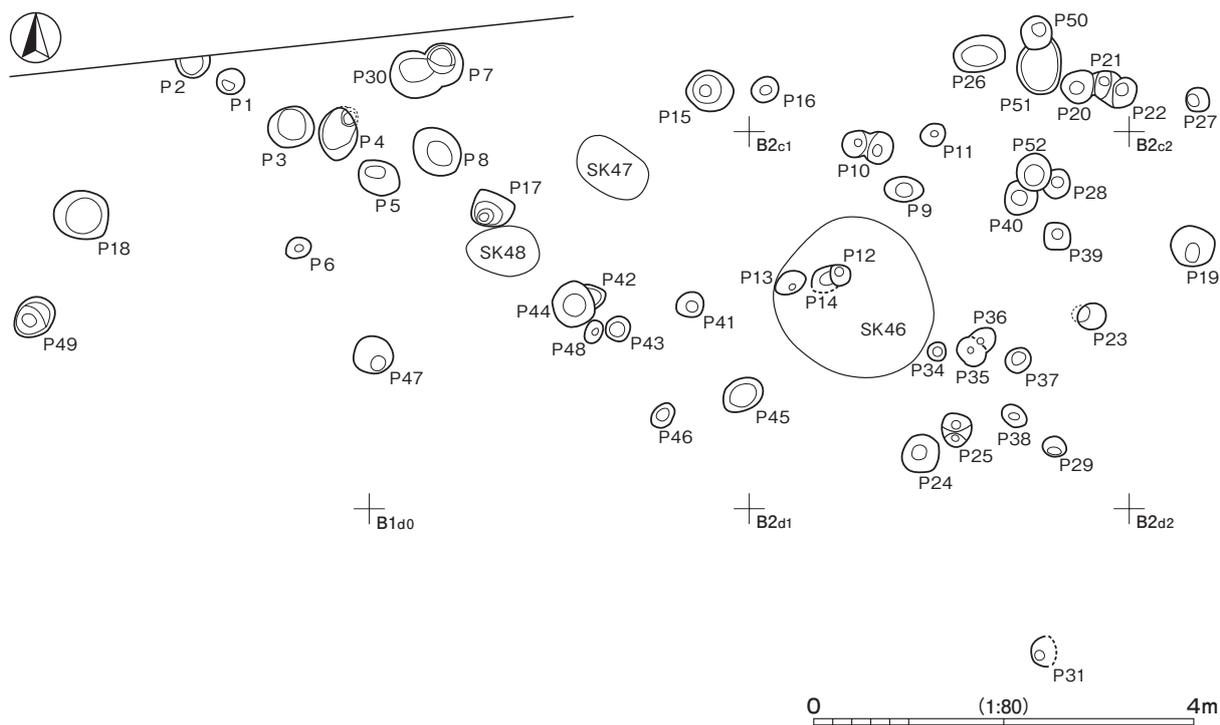
位置 調査区西部のB 1b9 ~ B 2c2区, 標高約26mの台地緩斜面部に位置している。東西12.60m, 南北7.00mの範囲から, ピット53か所を確認した。

重複関係 P12 ~ P14が第46号土坑を, P50・P51が第1号遺物包含層第1層上面を, P23・P52が第1号遺物包含層跡第5層上面を掘り込んでいる。

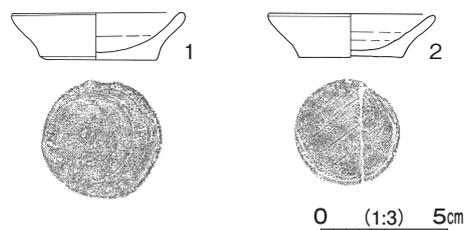
規模と形状 ピットの平面形は長径19 ~ 61cm, 短径16 ~ 51cmの円形または楕円形で, 深さは3 ~ 60cmである。ピットの分布状況から, 掘立柱建物跡などは想定できない。

遺物出土状況 土師質土器片3点(皿2, 内耳鍋1)が出土している。1・2は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土遺物から, 中世後期と考えられる。性格は不明である。



第42図 第1号ピット群実測図



第43図 第1号ピット群出土遺物実測図

第18表 第1号ピット群出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
1	土師質土器	皿	[6.6]	1.8	4.6	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい黄橙	普通	体部外・内面ロクロナデ見込みナデ 底部回転系切り後板	P 7 覆土中	70%
2	土師質土器	皿	6.5	1.7	4.1	長石・石英	黒褐	普通	体部外・内面ロクロナデ目圧痕見込みナデ 底部回転系切り後板	P32 覆土中	80% PL 7

第19表 第1号ピット群ピット一覧

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	B 1 b9	円形	29	27	20	19	B 2 c2	円形	46	44	56	37	B 2 c1	楕円形	28	25	30
2	B 1 b9	[楕円形]	36	(21)	36	20	B 2 b1	円形	36	35	33	38	B 2 c1	楕円形	28	20	11
3	B 1 b9	楕円形	48	42	16	21	B 2 b1	楕円形	30	16	30	39	B 2 c1	円形	28	28	20
4	B 1 b9	楕円形	56	41	42	22	B 2 b1	楕円形	31	25	35	40	B 2 c1	楕円形	44	37	24
5	B 1 c0	楕円形	46	36	48	23	B 2 c1	円形	30	29	32	41	B 1 c0	楕円形	29	26	22
6	B 1 c9	楕円形	28	22	14	24	B 2 c1	円形	40	38	58	42	B 1 c0	[楕円形]	25	(15)	9
7	B 1 b0	楕円形	57	48	25	25	B 2 c1	楕円形	35	31	18~20	43	B 1 c0	円形	26	24	30
8	B 1 c0	楕円形	45	[41]	18	26	B 2 b1	楕円形	54	37	22	44	B 1 c0	楕円形	56	46	41
9	B 2 c1	楕円形	41	26	50	27	B 2 b2	円形	25	24	18	45	B 1 c0	楕円形	45	39	11
10	B 2 c1	楕円形	53	22	30	28	B 2 c1	円形	30	29	22	46	B 1 c0	楕円形	29	21	10
11	B 2 c1	楕円形	27	24	16	29	B 2 c1	楕円形	25	22	43	47	B 1 c9	円形	41	41	57
12	B 2 c1	円形	21	21	3	30	B 1 b0	円形	[52]	50	32	48	B 1 c0	楕円形	30	16	30
13	B 2 c1	楕円形	35	23	28	31	B 2 d1	[楕円形]	32	[26]	42	49	B 1 c9	楕円形	47	39	45
14	B 2 c1	[楕円形]	25	(22)	20	32	B 1 c8	楕円形	58	40	40	50	B 2 b1	楕円形	36	33	14
15	B 2 b1	楕円形	50	43	54	33	B 1 c8	[楕円形]	54	(40)	28	51	B 2 b1	楕円形	61	46	19
16	B 2 b1	円形	28	27	27	34	B 2 c1	円形	19	19	8	52	B 2 b1	楕円形	40	36	27
17	B 1 c0	楕円形	42	37	60	35	B 2 c1	楕円形	32	25	26	53	B 2 d5	円形	46	42	42
18	B 1 c9	楕円形	57	51	19	36	B 2 c1	[楕円形]	25	(20)	25						

(5) 遺物包含層

第1号遺物包含層 (第44・45図 PL 5・8)

位置 調査区西部の B 1 c7 ~ B 2 e2 区、標高約 26 m の台地緩斜面部に分布している。

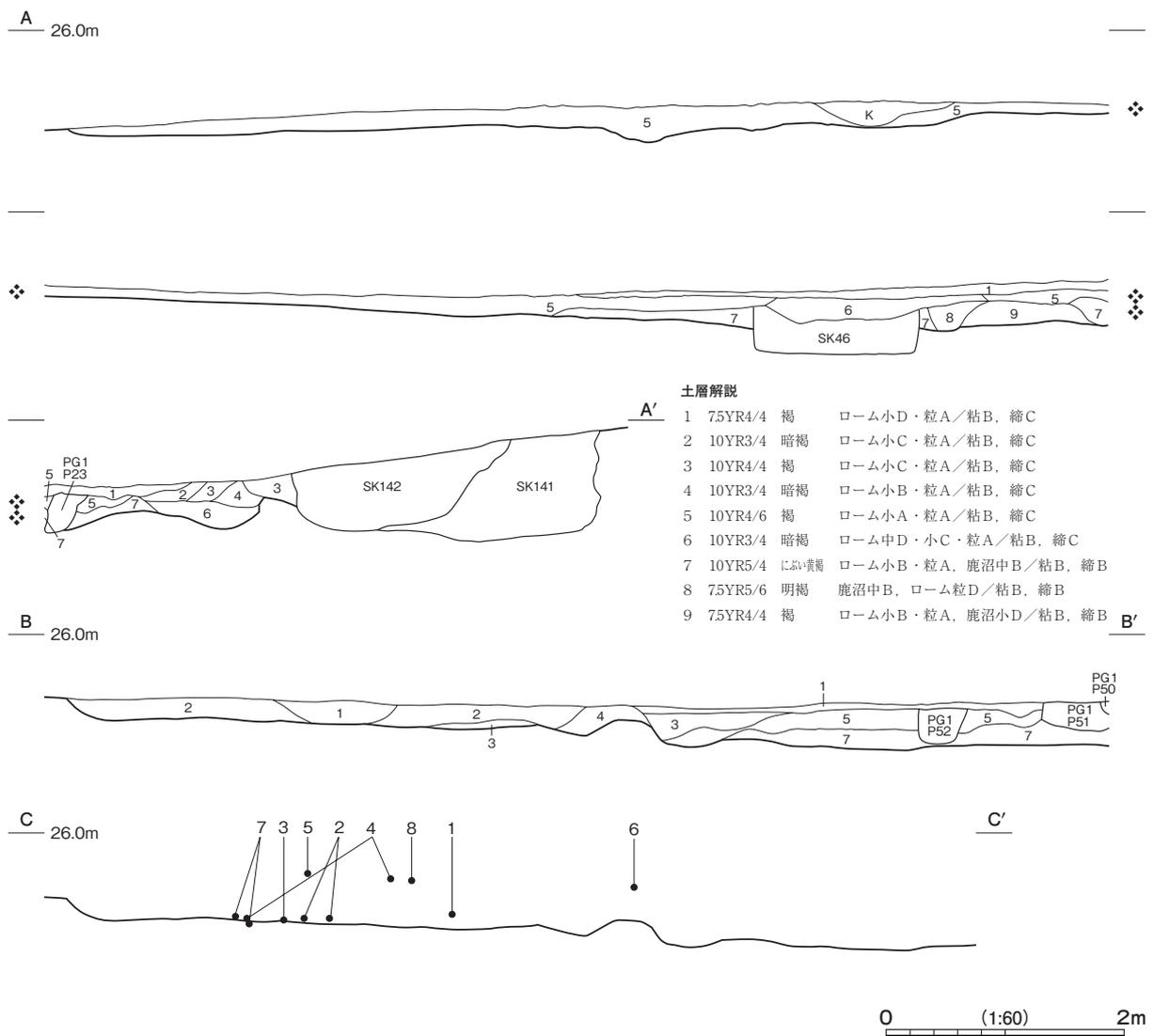
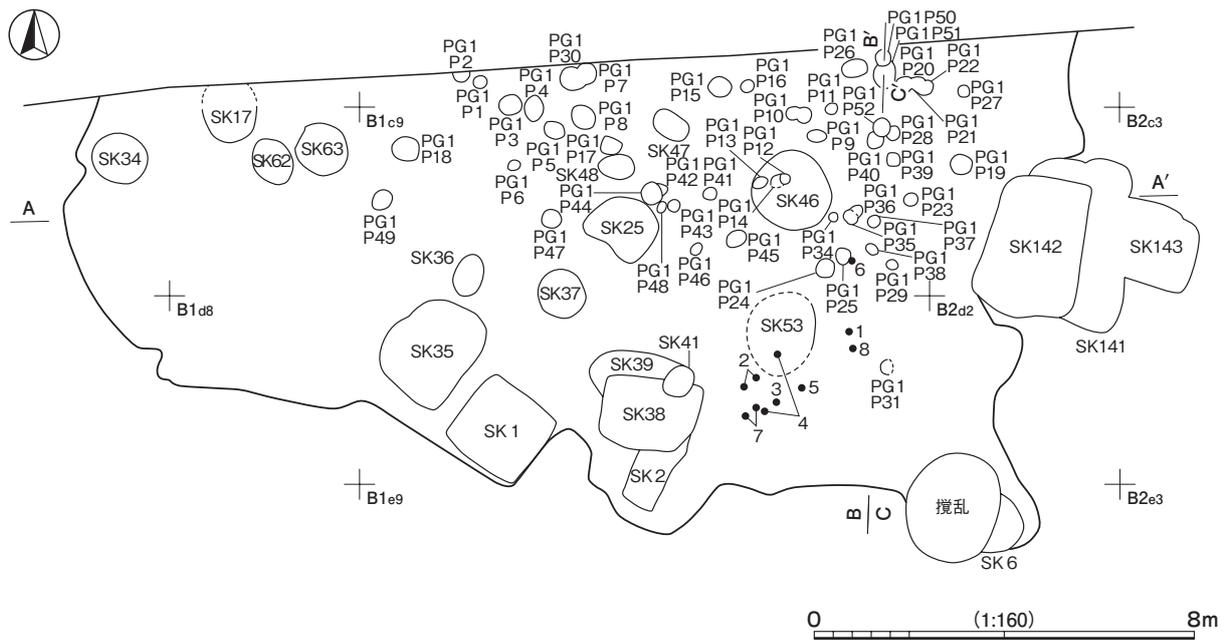
調査の方法 等高線に直交するように A - A' ラインの土層断面を確認するベルトを東西方向に、そのベルトに直交する B - B' ラインのベルトを南北方向に設定して、包含層の広がりや堆積状況を確認した。

重複関係 第1号ピット群 P50・P51 が第1層上面から、第142号土坑が第3層上面から、第1号ピット群 P23・P52 が第5層上面から、第46号土坑が第7層上面から掘り込んでいる。第1・2・6・17・25・34 ~ 39・41・46・47・48・53・62・63号土坑と重複するが、新旧関係は不明である。

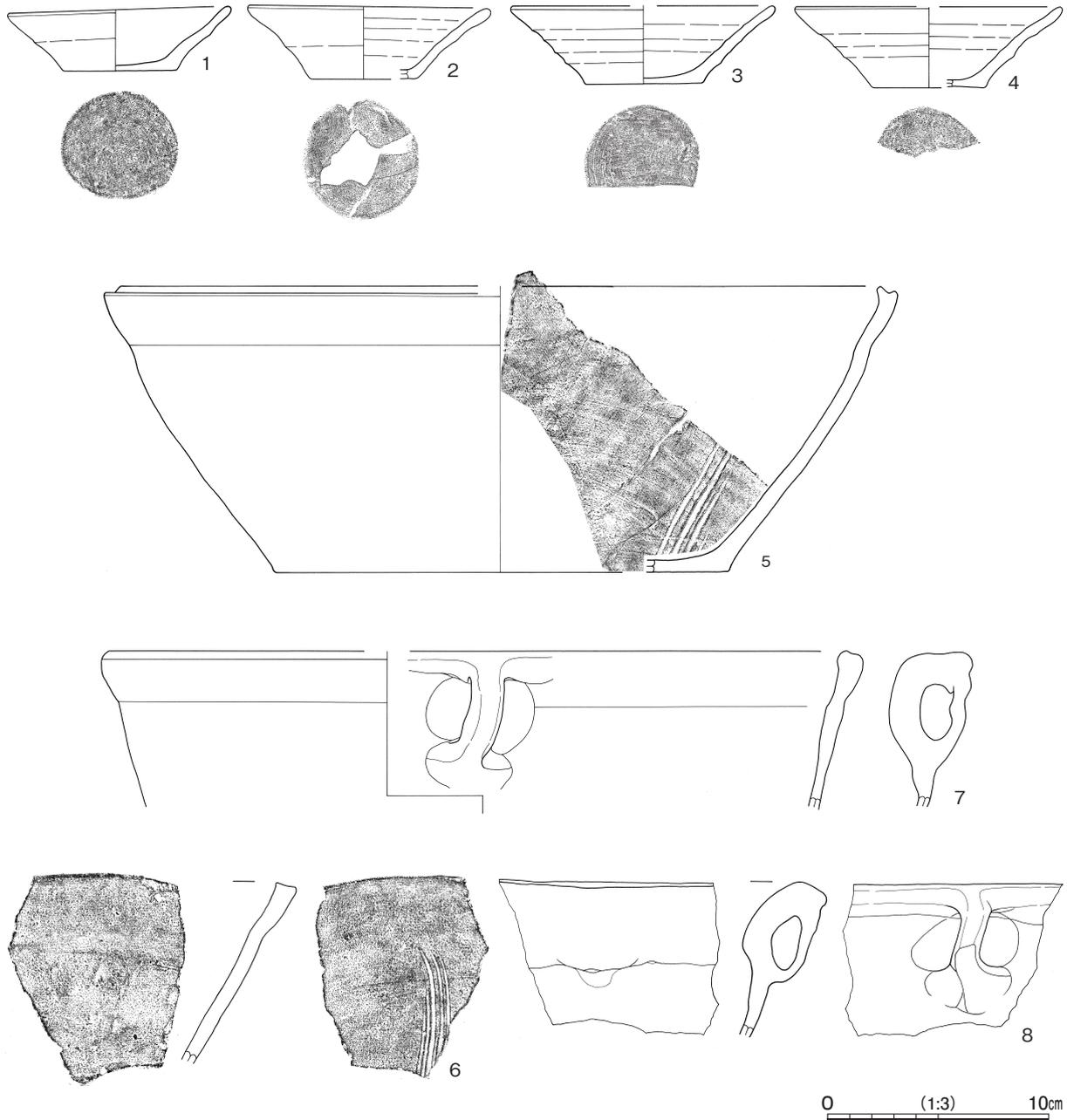
包含層の広がりや堆積状況 北部が調査区域外に延びるため、東西 7.98 m、南北 4.02 m のみを確認した。包含層は9層に分層でき、堆積範囲から大きく2つに分けることができる。第1~4層は南部から東部にかけての包含層の外縁部に、第5~9層は西部から北部にかけての包含層の中央部に堆積している。

遺物出土状況 土師質土器片 84 点 (皿 7、内耳鍋 69、播鉢 7、壺 1)、陶器片 1 点 (碗) が出土している。1・5・8 は当包含層上層から、2・3・6・7 は当包含層下層から出土している。4 は当包含層下層出土の破片と第53号土坑覆土上層出土の破片が接合している。

所見 時期は、出土土器から中世後期と考えられる。本跡は、台地上及び台地緩斜面部の遺構構築時の掘削土とともに遺物を廃棄することによって形成されたと考えられる。



第44図 第1号遺物包含層実測図



第 45 図 第 1 号遺物包含層出土遺物実測図

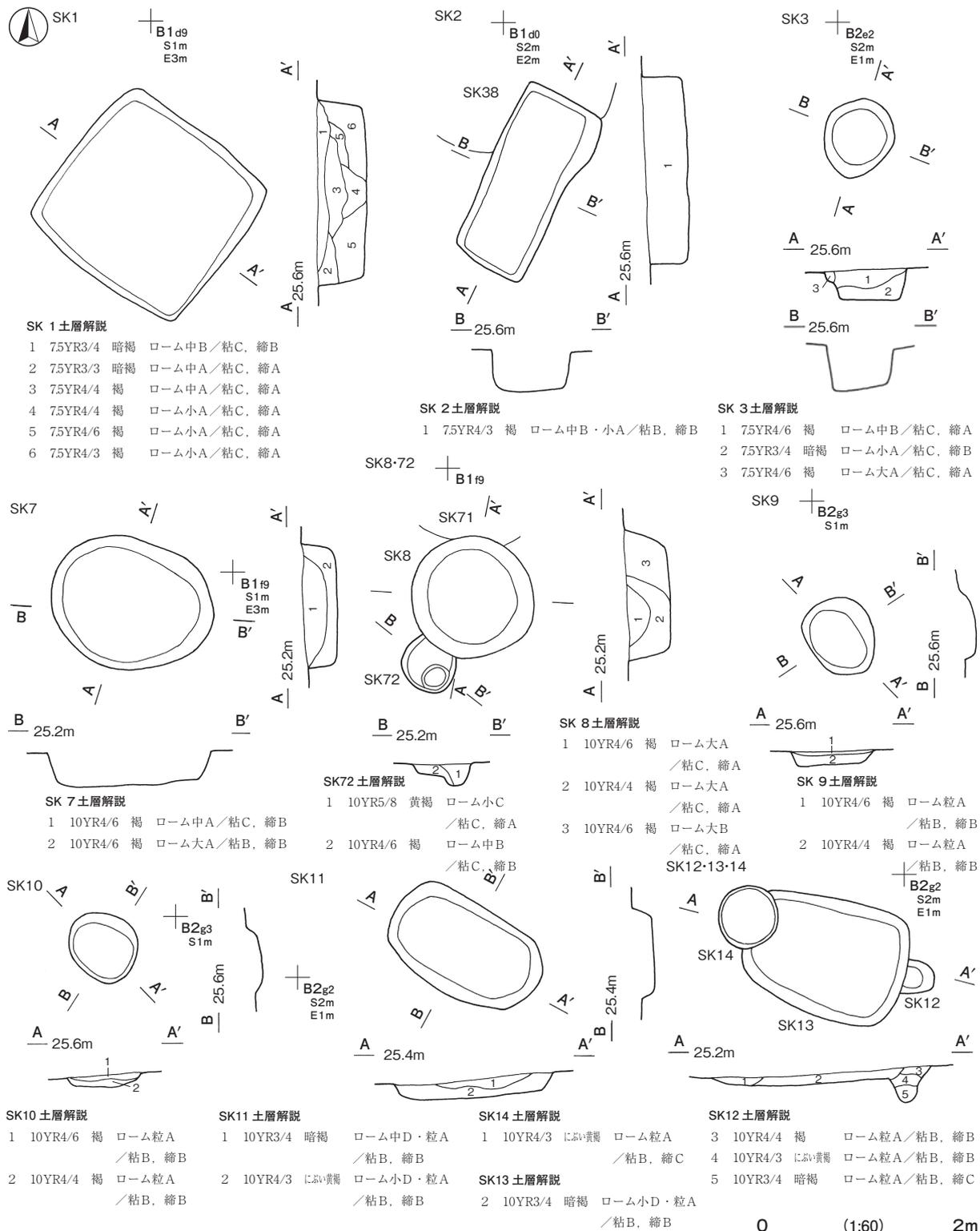
第 20 表 第 1 号遺物包含層出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考	
1	土師質土器	皿	10.1	2.9	5.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	橙	普通	体部外・内面ロクロナデ 見込みナデ	底部回転系切り後ナ	覆土下層	100% PL 8
2	土師質土器	皿	10.8	3.3	5.0	長石・石英・雲母・赤色粒子	黒褐	普通	体部外・内面ロクロナデ 目圧痕 見込みナデ	底部回転系切り後板	覆土下層	80% PL 8
3	土師質土器	皿	11.7	3.5	5.3	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	体部外・内面ロクロナデ 目圧痕 見込みナデ	底部回転系切り後板	覆土下層	50%
4	土師質土器	皿	[11.8]	3.6	[5.0]	長石・石英・雲母・赤色粒子	明褐	普通	体部外・内面ロクロナデ 目圧痕 見込みナデ	底部回転系切り後板	覆土上層	30%
5	土師質土器	播鉢	[35.8]	13.0	[20.4]	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外面ナデ 1 単位の摺り目	口縁部外・内面横ナデ 内面 3 条	覆土上層	20% PL 8
6	土師質土器	播鉢	-	(8.1)	-	長石・石英・雲母	橙	普通	体部外面ナデ 1 単位の摺り目	口縁部外・内面横ナデ 内面 5 条	覆土上層	5% PL 8
7	土師質土器	内耳鍋	[34.0]	(7.2)	-	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	体部外・内面ナデ	口縁部外・内面横ナデ	覆土下層	5% 外面煤付着
8	土師質土器	内耳鍋	-	(7.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部外・内面ナデ	口縁部外・内面横ナデ	覆土上層	5% 外面煤付着

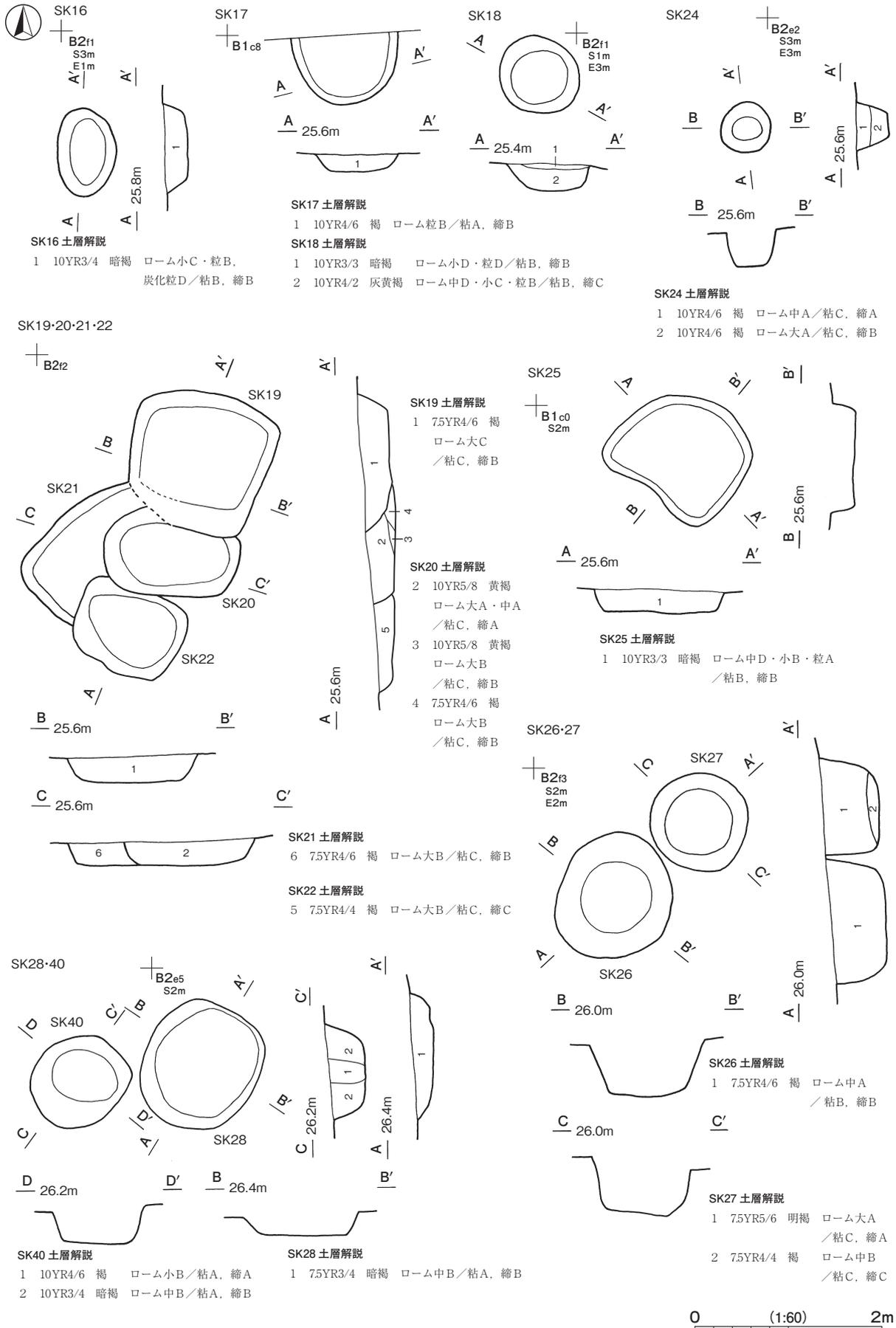
4 その他の遺構と遺物

今回の調査では、時期が明確にできなかった土坑 113 基、溝跡 2 条、ピット群 5 か所、柱穴列 1 条、炉跡 1 基を確認した。以下、各遺構は平面図、土層解説、一覽で掲載し、溝跡及び炉跡については解説を加えた。

(1) 土坑 (第 46 ~ 54 図)



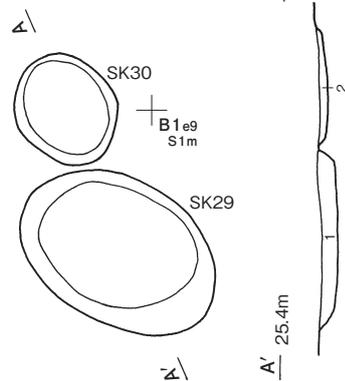
第 46 図 その他の土坑実測図(1)



第 47 図 その他の土坑実測図(2)



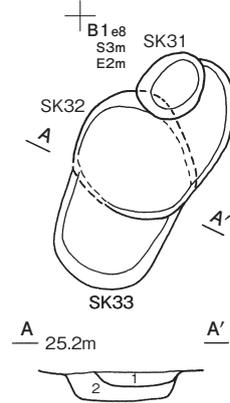
SK29-30



SK29 土層解説

- 1 10YR3/3 暗褐 ローム小D・粒B
／粘B, 締B

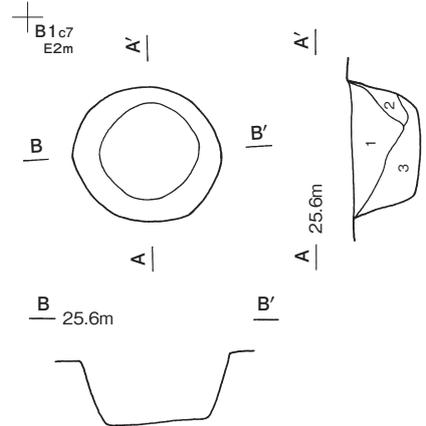
SK31-32-33



SK30 土層解説

- 2 10YR3/3 暗褐 ローム小D・粒B
／粘B, 締B

SK34



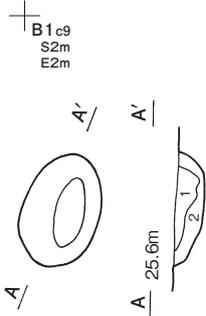
SK32 土層解説

- 1 10YR3/4 暗褐 ローム小D・粒C
／粘B, 締B
- 2 10YR3/4 暗褐 ローム粒C
／粘B, 締B

SK34 土層解説

- 1 10YR4/6 褐 ローム大A
／粘C, 締C
- 2 10YR4/4 褐 ローム中B
／粘C, 締C
- 3 10YR4/4 褐 ローム小A
／粘C, 締C

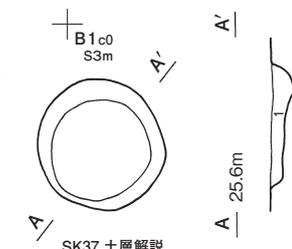
SK36



SK36 土層解説

- 1 10YR3/4 暗褐 ローム粒D
／粘B, 締C
- 2 10YR4/3 にぶい黄褐 ローム粒C
／粘B, 締C

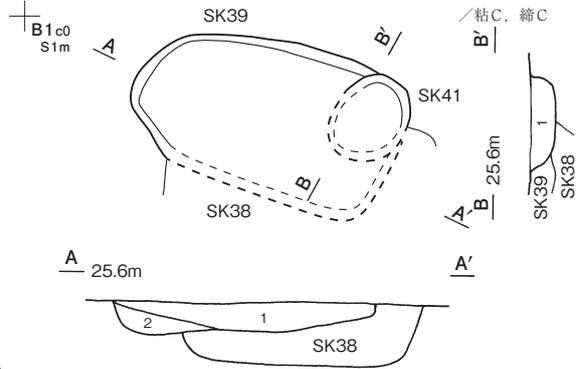
SK37



SK37 土層解説

- 1 7.5YR4/6 褐 ローム粒A
／粘B, 締C

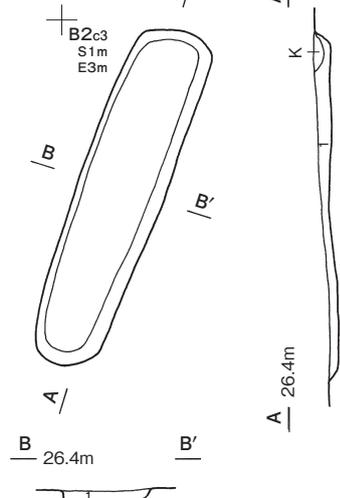
SK39-41



SK39 土層解説

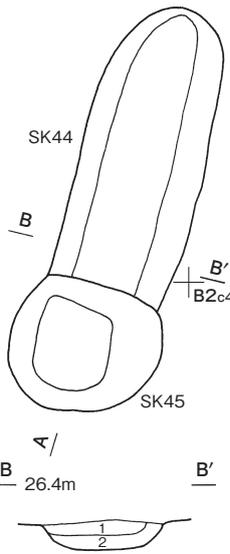
- 1 10YR3/4 暗褐 ローム粒C／粘A, 締A
- 2 10YR3/3 暗褐 ローム小D・粒C／粘B, 締C

SK43



SK43 土層解説

- 1 7.5YR3/4 暗褐 ローム中A
／粘C, 締B



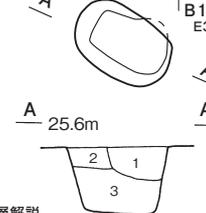
SK45 土層解説

- 1 10YR5/4 にぶい黄褐 ローム大A
／粘B, 締B
- 2 10YR5/4 にぶい黄褐 ローム中A
／粘B, 締B

SK44 土層解説

- 3 10YR4/6 褐 ローム大A
／粘C, 締B
- 4 10YR4/4 褐 ローム大B
／粘C, 締B
- 5 10YR4/4 褐 ローム大C
／粘C, 締B

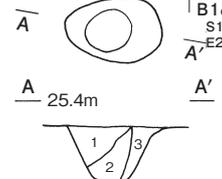
SK47



SK47 土層解説

- 1 10YR6/6 明黄褐 ローム粒A／粘A, 締A
- 2 10YR5/8 黄褐 ローム粒A／粘A, 締A
- 3 10YR5/8 黄褐 ローム粒B／粘C, 締C

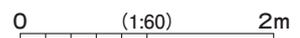
SK48

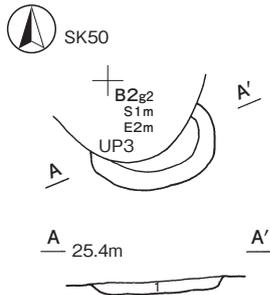


SK48 土層解説

- 1 10YR4/6 褐 ローム中A／粘B, 締B
- 2 10YR5/6 黄褐 ローム中A／粘B, 締B
- 3 10YR5/6 黄褐 ローム小A／粘B, 締B

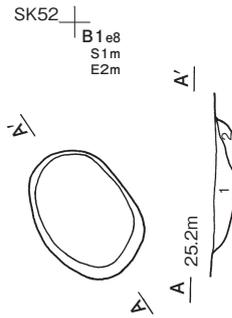
第 48 図 その他の土坑実測図(3)





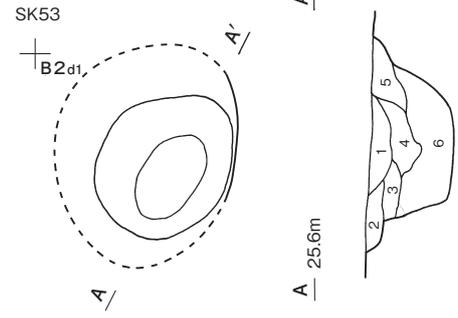
SK50 土層解説

- 10YR4/3 におい黄褐 ローム小D・粒C / 粘B, 縮B



SK52 土層解説

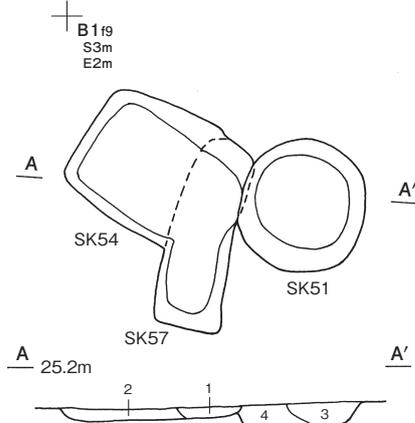
- 10YR3/4 暗褐 ローム粒D / 粘B, 縮B
- 10YR3/3 暗褐 ローム粒D / 粘B, 縮B



SK53 土層解説

- 10YR3/2 黒褐 ローム小C・粒A, 炭化粒D / 粘B, 縮C
- 10YR3/3 暗褐 ローム小D・粒A / 粘B, 縮C
- 10YR4/3 におい黄褐 ローム中C・小B・粒B / 粘B, 縮C
- 10YR5/3 におい黄褐 ローム小A・粒A / 粘B, 縮C
- 10YR4/6 褐 ローム小C・粒A / 粘B, 縮C
- 10YR4/4 褐 ローム中A・小A・粒A / 粘B, 縮C

SK51・54・57



SK57 土層解説

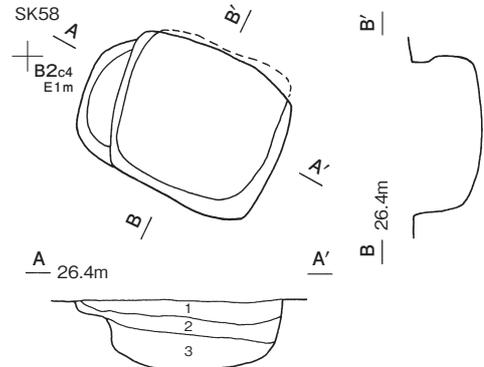
- 10YR4/4 褐 ローム小B・粒B / 粘B, 縮B

SK51 土層解説

- 10YR4/6 褐 ローム中B / 粘B, 縮C
- 10YR4/6 褐 ローム大A / 粘B, 縮C

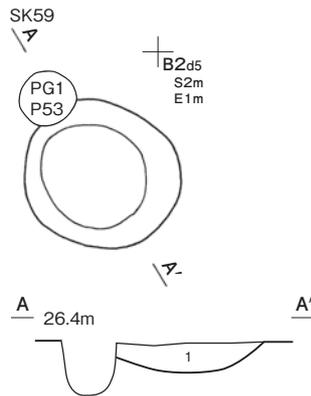
SK54 土層解説

- 10YR5/6 黄褐 ローム中A / 粘B, 縮B



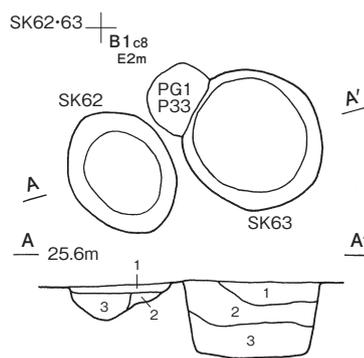
SK58 土層解説

- 10YR4/6 褐 ローム大A / 粘A, 縮A
- 10YR4/6 褐 ローム中A, 炭化物C / 粘B, 縮A
- 10YR4/4 褐 ローム中A, 炭化物C / 粘B, 縮A



SK59 土層解説

- 10YR4/6 褐 ローム粒D・鹿沼粒C / 粘C, 縮A

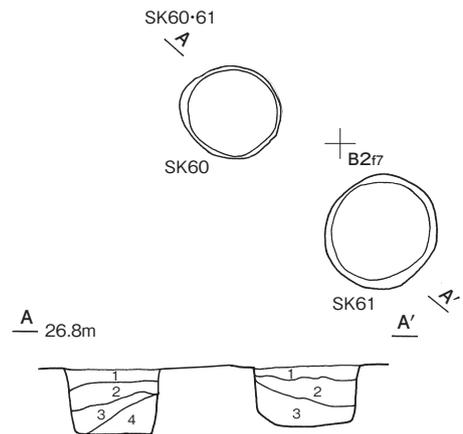


SK62 土層解説

- 10YR5/6 黄褐 ローム小A / 粘A, 縮A
- 10YR5/6 黄褐 ローム大B / 粘A, 縮A
- 10YR4/4 褐 ローム中A / 粘B, 縮A

SK63 土層解説

- 10YR4/6 褐 ローム大A / 粘B, 縮C
- 10YR4/4 褐 ローム大B / 粘B, 縮C
- 10YR4/6 褐 ローム中A / 粘C, 縮B

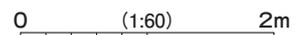


SK60 土層解説

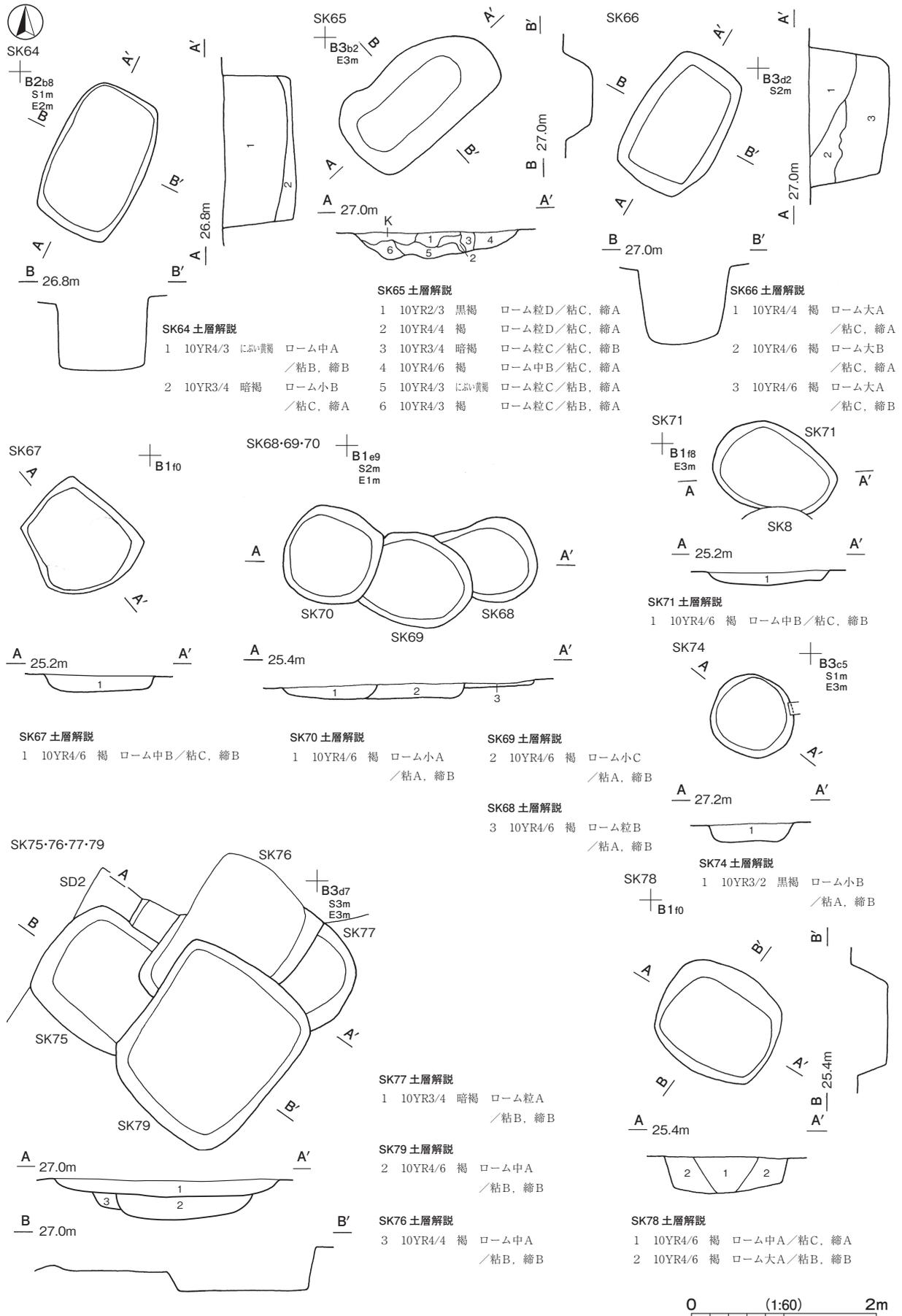
- 10YR4/6 褐 ローム大A / 粘C, 縮A
- 10YR4/6 褐 ローム大A / 粘C, 縮B
- 10YR4/4 褐 ローム小A / 粘B, 縮B
- 10YR4/4 褐 ローム小A / 粘B, 縮B

SK61 土層解説

- 10YR4/6 褐 ローム大A / 粘C, 縮A
- 10YR4/6 褐 ローム大A / 粘C, 縮B
- 10YR4/4 褐 ローム小A / 粘B, 縮B



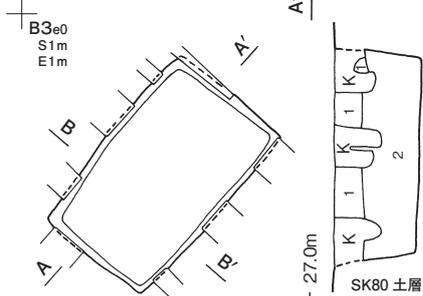
第 49 図 その他の土坑実測図(4)



第50図 その他の土坑実測図(5)



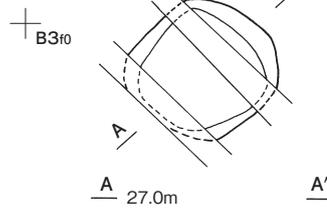
SK80



SK80 土層解説

- 1 10YR4/4 褐 ローム大A /粘C, 縮C
- 2 10YR4/4 褐 ローム中A /粘C, 縮C

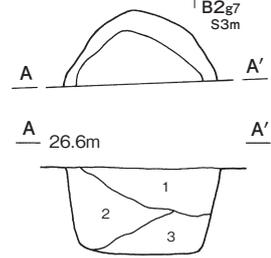
SK81



SK81 土層解説

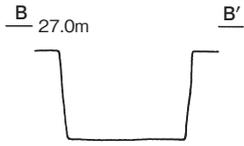
- 1 10YR4/4 褐 ローム大A /粘C, 縮C
- 2 10YR4/4 褐 ローム中A /粘C, 縮C

SK85

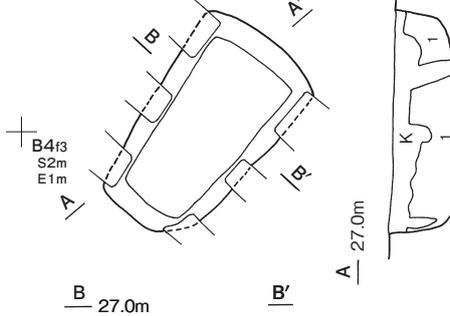


SK85 土層解説

- 1 10YR3/4 暗褐 ローム小B・粒B /粘B, 縮C
- 2 10YR2/3 黒褐 ローム小D・粒C /粘B, 縮C
- 3 10YR3/3 暗褐 ローム小B・粒B /粘B, 縮C



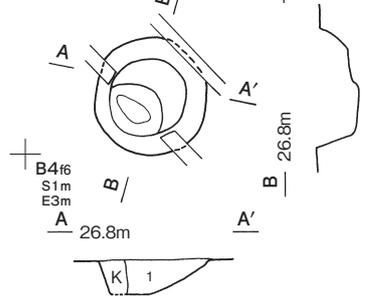
SK83



SK83 土層解説

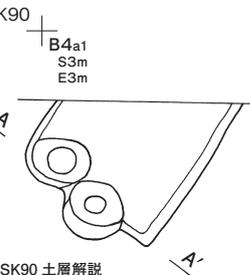
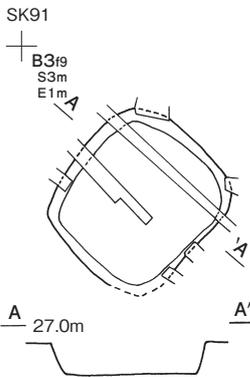
- 1 10YR4/4 褐 ローム中A・小A /粘B, 縮B

SK84



SK84 土層解説

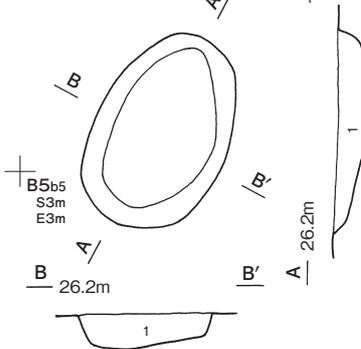
- 1 10YR3/4 暗褐 ローム粒D・炭化粒D /粘B, 縮B



SK90 土層解説

- 1 10YR4/3 にお漬物 ローム粒C /粘B, 縮B
- 2 10YR3/3 暗褐 ローム粒B /粘B, 縮B
- 3 10YR4/6 褐 ローム粒A /粘B, 縮B
- 4 10YR4/4 褐 ローム粒A /粘B, 縮B
- 5 10YR4/6 褐 ローム粒B /粘B, 縮B

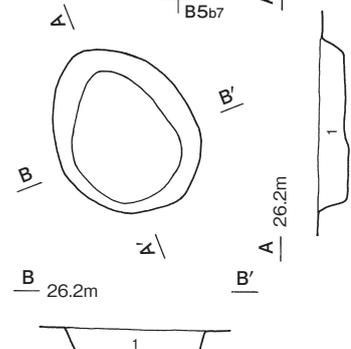
SK95



SK95 土層解説

- 1 75YR3/4 暗褐 ローム中C・粒B, 炭化粒D /粘A, 縮B

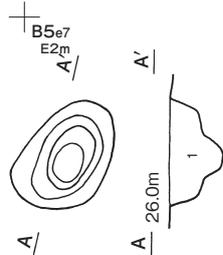
SK96



SK96 土層解説

- 1 75YR3/4 暗褐 ローム中C・粒B /粘B, 縮B

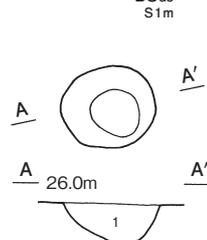
SK99



SK99 土層解説

- 1 75YR3/3 暗褐 ローム中C・粒A /粘B, 縮B

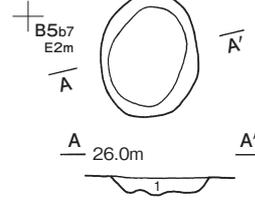
SK100



SK100 土層解説

- 1 75YR5/2 灰褐 ローム小B・微A /粘B, 縮B

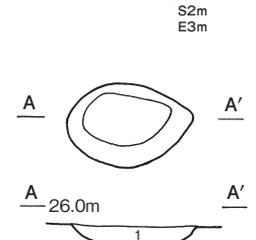
SK101



SK101 土層解説

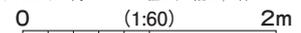
- 1 75YR3/4 暗褐 ローム小B・粒A /粘B, 縮B

SK102

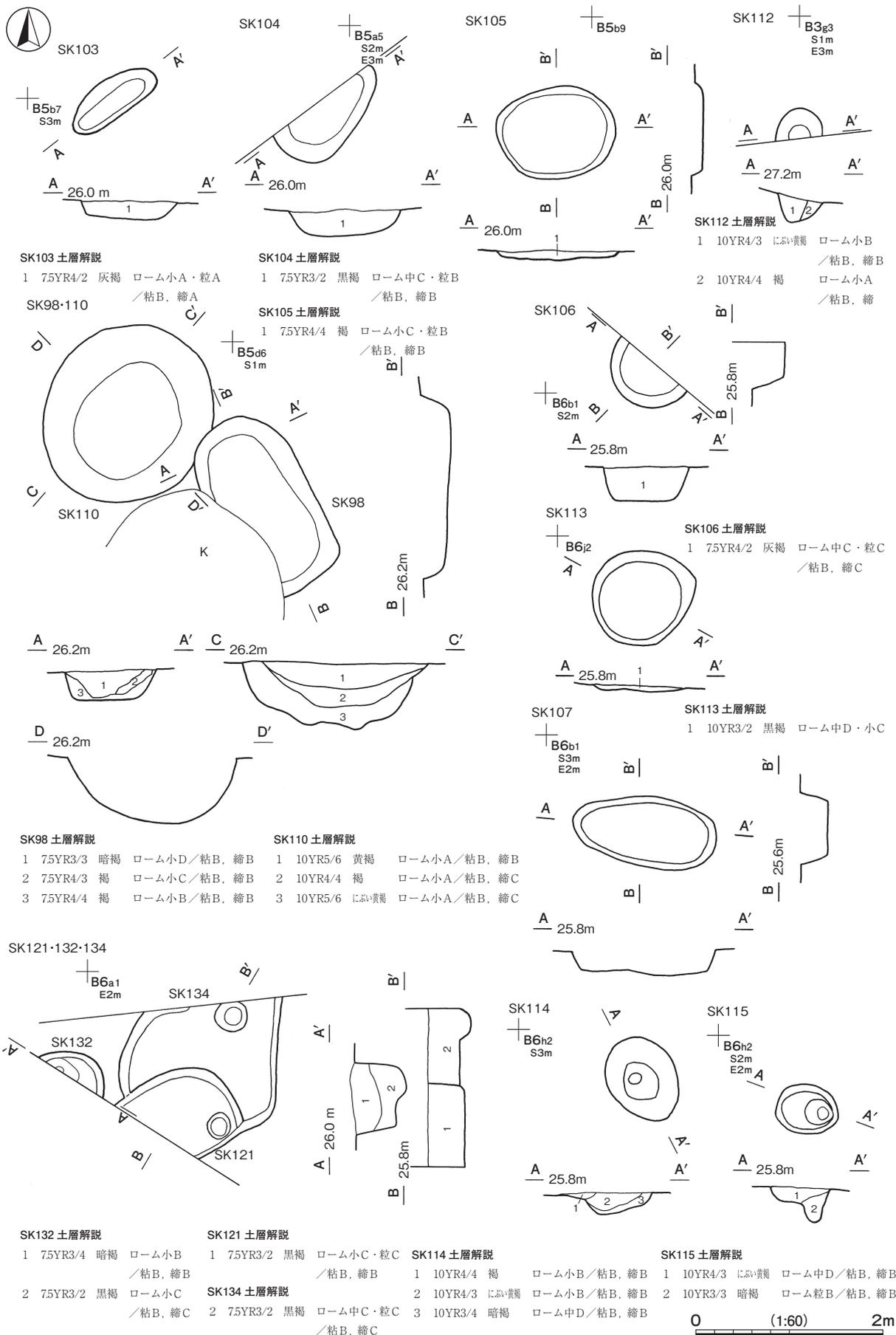


SK102 土層解説

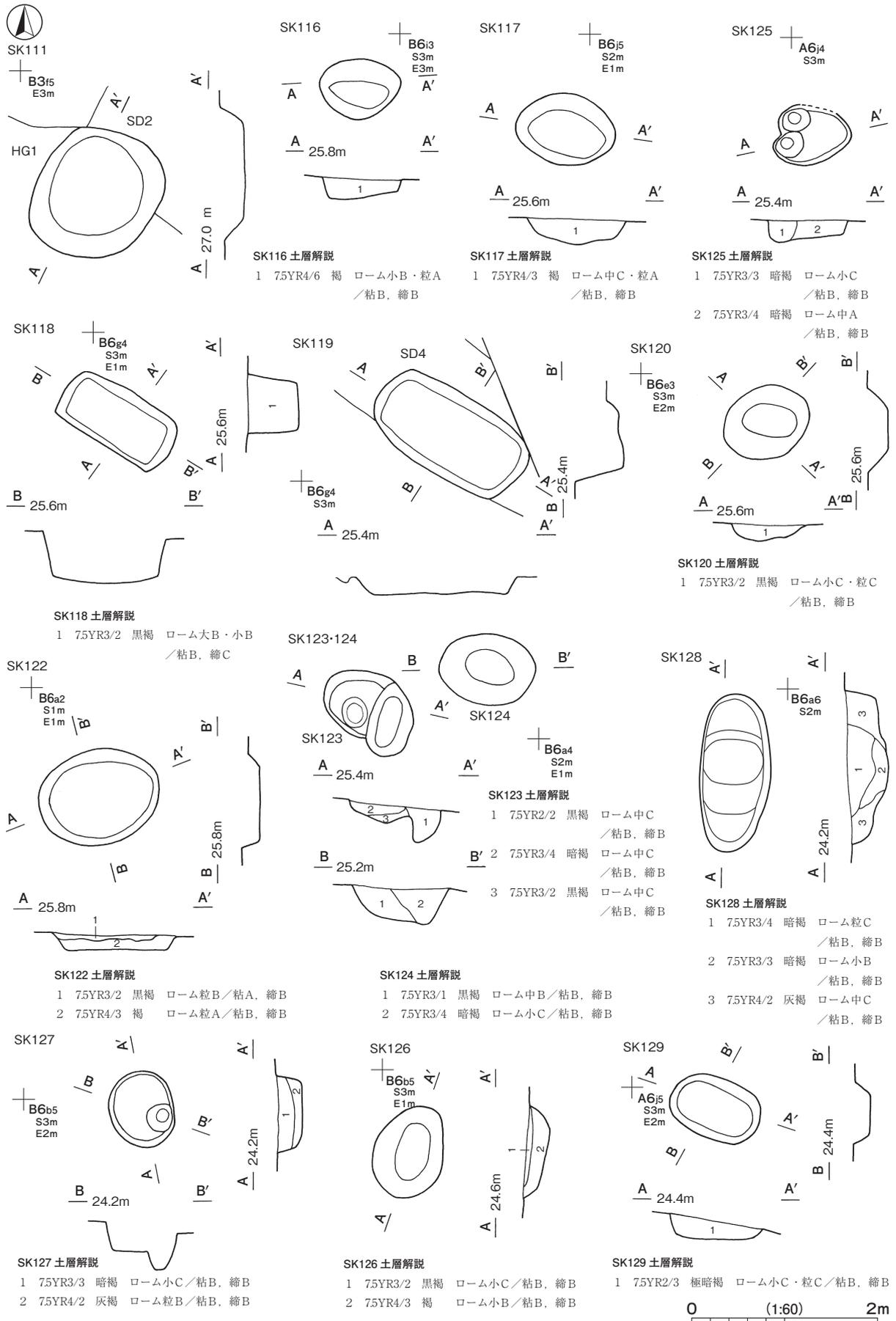
- 1 75YR4/3 褐 ローム粒A /粘B, 縮A



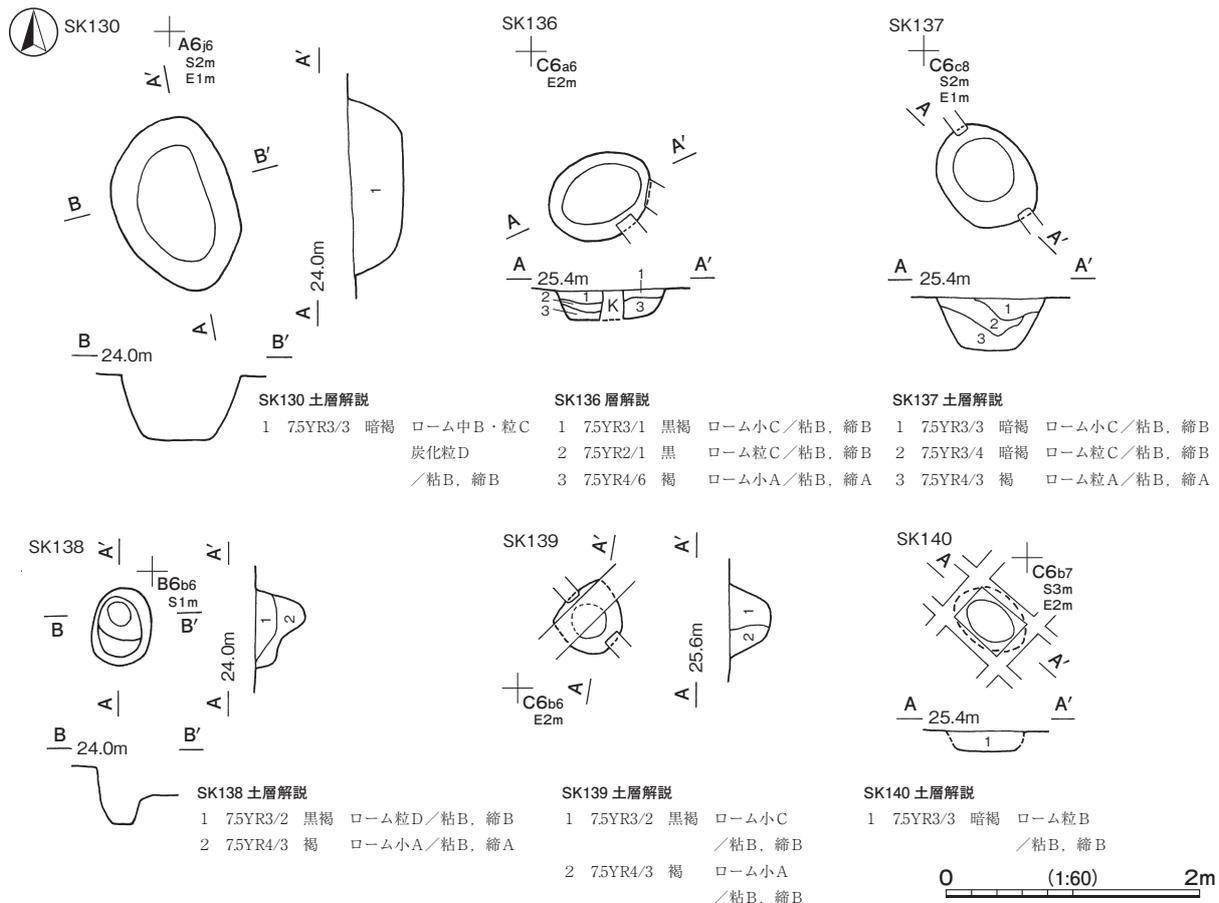
第 51 図 その他の土坑実測図(6)



第 52 図 その他の土坑実測図(7)



第 53 図 その他の土坑実測図(8)



第54図 その他の土坑実測図(9)

第21表 その他の土坑一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	B 1 d9	N - 54° - W	方形	1.84 × 1.80	49	外傾	平坦	人為	-	PL 4
2	B 1 d0	N - 26° - E	長方形	1.88 × 0.90	42	垂直	平坦	人為	-	SK38 →本跡
3	B 2 e2	N - 21° - E	楕円形	0.81 × 0.69	42	外傾	平坦	人為	-	
7	B 1 f9	N - 72° - W	楕円形	1.60 × 1.30	32	外傾	平坦	人為	-	
8	B 1 f9	-	円形	1.22 × 1.22	43	外傾	平坦	人為	-	SK71 →本跡, SK72 新旧不明
9	B 2 g3	N - 45° - W	楕円形	0.81 × 0.67	15	外傾	平坦	人為	-	
10	B 2 g2	N - 45° - W	楕円形	0.73 × 0.64	14	外傾	平坦	人為	-	
11	B 2 g2	N - 63° - W	楕円形	1.55 × 0.92	19	外傾	平坦	人為	-	
12	B 2 g2	N - 70° - W	[楕円形]	0.34 × (0.30)	35	外傾	平坦	人為	-	本跡→SK13・14
13	B 2 g2	N - 70° - W	楕円形	1.60 × 1.17	11	外傾	平坦	人為	-	SK12→本跡→SK14
14	B 2 g1	N - 70° - W	楕円形	0.65 × 0.58	8	外傾	平坦	人為	-	SK12・13 →本跡
16	B 2 f1	N - 3° - E	楕円形	0.96 × 0.68	25	外傾	平坦	人為	-	
17	B 1 c8	N - 5° - W	[楕円形]	1.12 × (0.75)	18	外傾	平坦	人為	-	
18	B 2 f1	-	円形	0.86 × 0.80	29	外傾	平坦	人為	-	
19	B 2 f2	N - 79° - E	方形	1.54 × 1.49	29	外傾	平坦	人為	-	SK20 ~ 22 →本跡
20	B 2 f2	N - 85° - W	楕円形	1.45 × 0.72	25	外傾	平坦	人為	-	SK21 →SK22 →本跡 →SK19
21	B 2 f2	N - 50° - E	[楕円形]	1.52 × 0.80	25	外傾	平坦	人為	-	本跡→SK19・20・22

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主 な 出 土 遺 物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
22	B 2f2	N - 69° - W	楕円形	1.18 × 0.91	18	外傾	平坦	人為	-	SK21 → 本跡 → SK19・20
24	B 2f2	-	円形	0.56 × 0.55	39	外傾	平坦	人為	-	
25	B 1c0	N - 44° - W	不整形	1.37 × 1.18	25	外傾	平坦	人為	-	
26	B 2f3	N - 22° - E	楕円形	1.40 × 1.20	58	外傾	平坦	人為	-	
27	B 2f3	-	円形	1.07 × 1.05	60	外傾	平坦	人為	-	
28	B 2e5	N - 32° - E	楕円形	1.38 × 1.25	22	外傾	平坦	人為	-	
29	B 1e8	N - 52° - W	楕円形	1.65 × 1.14	14	外傾	平坦	人為	-	
30	B 1e8	N - 23° - W	楕円形	0.92 × 0.78	6	外傾	平坦	人為	-	
31	B 1e8	N - 35° - E	楕円形	0.58 × 0.47	9	外傾	平坦	人為	-	SK32・33 → 本跡
32	B 1f8	N - 40° - W	楕円形	1.05 × 0.82	10	外傾	平坦	人為	-	SK33 → 本跡 → SK31
33	B 1e8	N - 27° - E	楕円形	2.01 × 0.88	22	外傾	平坦	人為	-	本跡 → SK31・32
34	B 1c7	N - 88° - W	楕円形	1.17 × 1.06	50	外傾	平坦	人為	-	SX 1 重複
36	B 1c9	N - 18° - E	楕円形	0.93 × 0.60	22	外傾	平坦	人為	-	
37	B 1c0	-	円形	1.06 × 0.97	17	外傾	凹凸	人為	-	
39	B 1d0	N - 72° - W	[楕円形]	[2.10 × 1.28]	24	外傾	平坦	人為	-	SK38 → 本跡
40	B 2e4	N - 43° - E	楕円形	1.04 × 0.94	28	外傾	平坦	人為	-	
41	B 1d0	N - 30° - E	[楕円形]	[0.80 × 0.60]	20	外傾	平坦	人為	-	SK38・39 → 本跡
43	B 2c3	N - 21° - E	楕円形	2.82 × 0.69	11	外傾	平坦	人為	-	
44	B 2b3	N - 15° - E	[楕円形]	(2.29) × 1.00	27	外傾	平坦	人為	-	本跡 → SK45
45	B 2c3	N - 74° - W	楕円形	1.19 × 1.07	43	外傾	平坦	人為	-	SK44 → 本跡
47	B 1c0	N - 58° - W	楕円形	0.80 × 0.53	51	外傾	平坦	人為	-	
48	B 1c0	N - 88° - W	楕円形	0.76 × 0.53	44	外傾	平坦	人為	-	
50	B 2g2	N - 73° - E	楕円形	1.00 × 0.70	10	外傾	平坦	人為	-	UP 3 → 本跡
51	B 1g9	N - 3° - E	楕円形	1.05 × 0.95	19	外傾	平坦	人為	-	本跡 → SK57
52	B 1e8	N - 34° - W	楕円形	1.07 × 0.78	16	外傾	平坦	人為	-	
53	B 2d1	N - 13° - E	[楕円形]	[1.82 × 1.42]	22 ~ 66	外傾	有段	人為	-	
54	B 1g9	N - 60° - W	隅丸長方形	[1.38] × 1.05	9	外傾	平坦	人為	-	本跡 → SK57
57	B 1g9	N - 14° - E	隅丸長方形	[1.54] × 0.52	8	外傾	平坦	人為	-	SK51・54 → 本跡
58	B 2c4	N - 67° - W	隅丸長方形	1.63 × 1.22	55	一部内傾	平坦	人為	-	
59	B 2d5	-	円形	1.25 × 1.15	25	外傾	皿状	人為	-	本跡 → PG 1 P53
60	B 2e6	-	円形	0.77 × 0.76	52	外傾	平坦	人為	-	
61	B 2f7	-	円形	0.92 × 0.90	50	外傾	平坦	人為	-	
62	B 1c8	N - 30° - W	[楕円形]	1.04 × 0.82	27	外傾	皿状	人為	-	
63	B 1c8	-	円形	1.16 × 1.08	60	外傾	平坦	人為	-	PG 1 P33 → 本跡
64	B 2b8	N - 26° - E	隅丸長方形	1.61 × 1.01	77	垂直	平坦	人為	-	
65	B 3b2	N - 59° - E	楕円形	1.82 × 0.98	30	外傾	平坦	人為	-	
66	B 3d1	N - 30° - E	隅丸長方形	1.53 × 1.01	85	垂直	平坦	人為	-	
67	B 1f9	N - 40° - W	方形	1.17 × 1.12	16	外傾	平坦	人為	-	
68	B 1e9	N - 80° - E	[楕円形]	0.93 × (0.72)	5	外傾	平坦	人為	-	本跡 → SK69
69	B 1e9	N - 70° - W	[楕円形]	(1.08) × 1.01	16	外傾	平坦	人為	-	SK68 → 本跡 → SK70
70	B 1e9	-	円形	1.07 × 1.05	16	外傾	平坦	人為	-	SK69 → 本跡
71	B 1f9	N - 60° - W	楕円形	1.30 × 0.94	14	外傾	平坦	人為	-	本跡 → SK 8
72	B 1f8	N - 53° - W	[楕円形]	0.54 × (0.45)	21	外傾	有段	人為	-	SK 8 新旧不明
74	B 3c5	-	円形	0.91 × 0.88	20	外傾	平坦	人為	-	
75	B 3e7	N - 55° - W	[長方形]	1.34 × (1.30)	10	外傾	平坦	人為	-	
76	B 3d7	N - 34° - E	[長方形]	[1.95 × 1.35]	39	外傾	平坦	人為	-	本跡 → SK77・79

番号	位置	長径方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
77	B 3 d7	N - 54° - W	不整形	[2.45] × (0.82)	18	外傾	平坦	人為	-	SK76・79 →本跡
78	B 1 f0	N - 59° - W	楕円形	1.34 × 1.20	37	外傾	平坦	人為	-	
79	B 3 e7	N - 36° - E	長方形	2.00 × 1.63	44	外傾	平坦	人為	-	SK76 →本跡 → SK77
80	B 3 e0	N - 40° - E	長方形	1.72 × 1.07	71	垂直	平坦	人為	-	
81	B 3 f0	-	[円形]	[10.80] × 10.50	44	外傾	平坦	人為	-	
83	B 4 f3	N - 41° - E	楕円形	1.78 × 1.04	53	外傾	平坦	人為	-	
84	B 4 f6	-	円形	0.91 × 0.92	29	外傾	平坦	人為	-	
85	B 2 g6	-	[円形]	1.20 × (0.59)	68	外傾	平坦	人為	-	
90	B 4 a1	N - 24° - E	[長方形]	(1.20) × 1.25	12	外傾	平坦	人為	-	ピット2か所
91	B 3 g9	N - 42° - E	隅丸長方形	1.31 × 1.17	26	外傾	平坦	人為	-	
95	B 5 b6	N - 27° - E	楕円形	1.62 × 1.05	27	外傾	平坦	人為	-	
96	B 5 b6	N - 22° - W	楕円形	1.32 × 1.10	23	外傾	平坦	人為	-	
98	B 5 d6	N - 24° - W	楕円形	1.98 × 1.14	31	外傾	平坦	人為	-	SK97 →本跡
99	B 5 e7	N - 24° - E	楕円形	0.93 × 0.67	42	外傾	有段	人為	-	
100	B 5 d7	N - 79° - E	楕円形	0.74 × 0.65	31	外傾	皿状	人為	-	
101	B 5 b7	N - 2° - W	楕円形	0.97 × 0.77	14	外傾	平坦	人為	-	
102	B 5 b7	N - 88° - W	楕円形	0.98 × 0.70	14	外傾	平坦	人為	-	
103	B 5 b7	N - 52° - E	楕円形	1.04 × 0.39	20	外傾	平坦	人為	-	
104	B 5 a5	N - 42° - E	[楕円形]	1.28 × (0.49)	28	外傾	平坦	人為	-	
105	B 5 b8	N - 85° - E	楕円形	1.26 × 0.99	12	外傾	平坦	人為	-	
106	B 6 b1	-	[円形]	0.90 × (0.49)	35	外傾	平坦	人為	-	
107	B 6 b1	N - 81° - W	楕円形	1.54 × 0.75	29	外傾	平坦	人為	-	
110	B 5 d5	N - 20° - E	楕円形	2.00 × 1.75	70	外傾	皿状	人為	-	本跡 → SK98
111	B 3 f5	N - 28° - E	楕円形	1.46 × 1.26	27	外傾	平坦	人為	-	
112	B 3 g3	N - 18° - E	[楕円形]	0.49 × (0.31)	27	外傾	皿状	人為	-	SD 1 →本跡
113	B 6 j2	-	円形	1.14 × 1.04	6	外傾	平坦	人為	-	
114	B 6 h2	N - 30° - W	楕円形	0.96 × 0.73	23	外傾	有段	人為	-	
115	B 6 h2	N - 77° - W	楕円形	0.66 × 0.55	36	外傾	有段	人為	-	ピット1か所
116	B 6 i3	N - 62° - W	楕円形	0.78 × 0.68	22	外傾	平坦	人為	-	
117	B 6 j5	N - 83° - W	楕円形	1.08 × 0.79	26	外傾	皿状	人為	-	
118	B 6 g4	N - 56° - W	隅丸長方形	1.32 × 0.68	55	外傾	平坦	人為	-	
119	B 6 g4	N - 55° - W	隅丸長方形	1.74 × 0.88	20 ~ 50	外傾	平坦	人為	-	SD 4 新旧不明
120	B 6 e3	N - 63° - E	楕円形	0.97 × 0.76	18	外傾	平坦	人為	-	
121	B 6 a1	N - 66° - E	[楕円形]	(0.94) × 0.99	40	外傾	平坦	人為	-	
122	B 6 a2	N - 68° - E	楕円形	1.32 × 1.13	16	外傾	平坦	人為	-	
123	B 6 a3	N - 55° - W	不定形	1.05 × 0.74	20 ~ 35	外傾	凹凸	人為	-	ピット1か所
124	B 6 a4	N - 74° - W	楕円形	1.05 × 0.77	39	外傾	傾斜	人為	-	
125	B 6 a4	N - 78° - E	不定形	0.85 × 0.65	20	外傾	平坦	人為	-	ピット2か所
126	B 6 b5	N - 19° - E	楕円形	1.01 × 0.76	23	外傾	傾斜	人為	-	
127	B 6 b5	N - 12° - W	楕円形	0.81 × 0.69	28	外傾	有段	人為	-	ピット1か所
128	B 6 a5	N - 4° - E	楕円形	1.70 × 0.74	45	外傾	平坦	人為	-	
129	A 6 j5	N - 66° - W	楕円形	0.99 × 0.65	22	外傾	平坦	人為	-	
130	A 6 j6	N - 13° - W	楕円形	1.38 × 0.94	51	外傾	平坦	人為	-	
132	B 6 a1	N - 58° - W	[楕円形]	0.80 × (0.30)	61	外傾	有段	人為	-	
134	B 6 a1	N - 30° - E	不定形	(1.48) × 1.74	46	外傾	平坦	人為	-	
136	C 6 a6	N - 58° - E	楕円形	0.86 × 0.65	23	外傾	平坦	人為	-	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		壁 面	底 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
137	C 6 c8	N - 35° - W	楕円形	0.85 × 0.69	41	外傾	平坦	人為	-	
138	B 6 b5	N - 6° - E	楕円形	0.61 × 0.46	37	外傾	有段	人為	-	
139	C 6 a6	N - 49° - E	楕円形	0.55 × 0.50	33	外傾	平坦	人為	-	
140	C 6 b7	N - 49° - W	楕円形	0.40 × 0.29	16	外傾	平坦	人為	-	

(2) 溝跡

第4号溝跡 (第55図 付図 PL 5)

位置 調査区東部の B 5 i9 ~ B 6 g4 区, 標高約 26 m の台地平坦部に位置している。

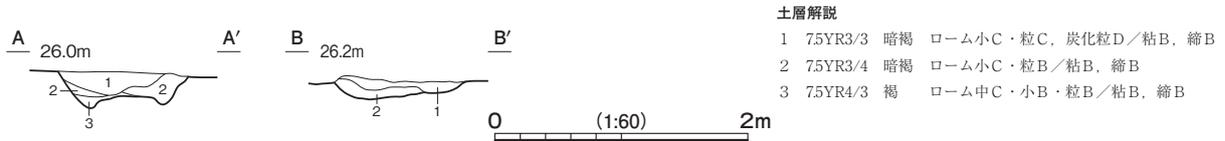
重複関係 第4・6号陥し穴を掘り込んでいる。第119号土坑と重複しているが, 新旧関係は不明である。

規模と形状 方向は N - 58° - E で, L 字状を呈し, 南北ともに調査区外に至る。確認できた長さは 25.05 m で, 上幅 80 ~ 150 cm, 下幅 50 ~ 90 cm で, 深さ 28 cm である。断面形は皿状を呈する。

覆土 3層に分層できる。レンズ状に堆積している状況から, 自然堆積である。

遺物出土状況 混入したと考えられる土師質土器片1点(内耳鍋)が出土している。

所見 時期は, 決定できる遺物が出土していないため, 不明である。



第55図 第4号溝跡実測図

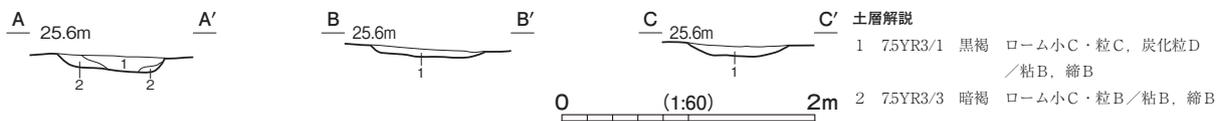
第5号溝跡 (第56図 付図 PL 5)

位置 調査区東部の B 5 a9 ~ B 6 f3 区, 標高約 26 m の台地平坦部に位置している。

規模と形状 方向は N - 45° - W で, 緩やかな曲線状を呈し, 南は第4号溝跡から分岐し, 北は調査区外に至る。確認できた長さは 28.70 m で, 上幅 40 ~ 120 cm, 下幅 20 ~ 102 cm で, 深さ 10 cm である。断面形は皿状を呈する。

覆土 2層に分層できる。レンズ状に堆積している状況から, 自然堆積である。

所見 当跡は, 第4号溝跡と同一遺構の可能性はあるが, 規模や形状が異なることから, 別遺構と捉えた。時期は, 決定できる遺物が出土していないため, 不明である。



第56図 第5号溝跡実測図

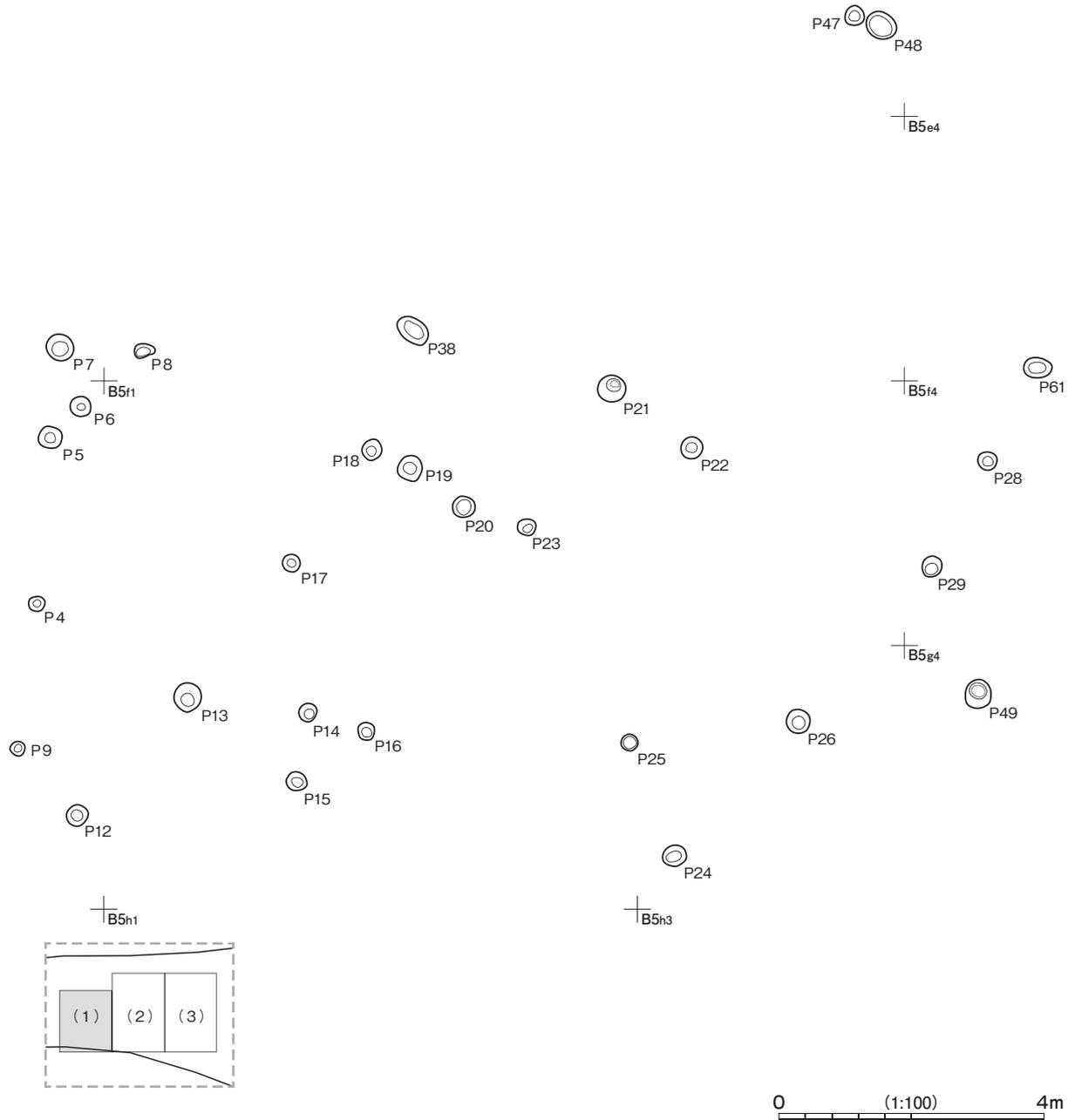
第22表 その他の溝跡一覧

番号	位置	方向	平面形	規 模				断 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長さ (m)	上幅 (cm)	下幅 (cm)	深さ (cm)					
4	B 5 i9 ~ B 6 g4	N - 58° - E	L 字状	(25.05)	80 ~ 150	50 ~ 90	28	皿状	外傾	自然	-	TP 4・6 → 本跡
5	B 5 a9 ~ B 6 f3	N - 45° - W	曲線状	(28.70)	40 ~ 120	20 ~ 102	10	皿状	外傾	自然	-	

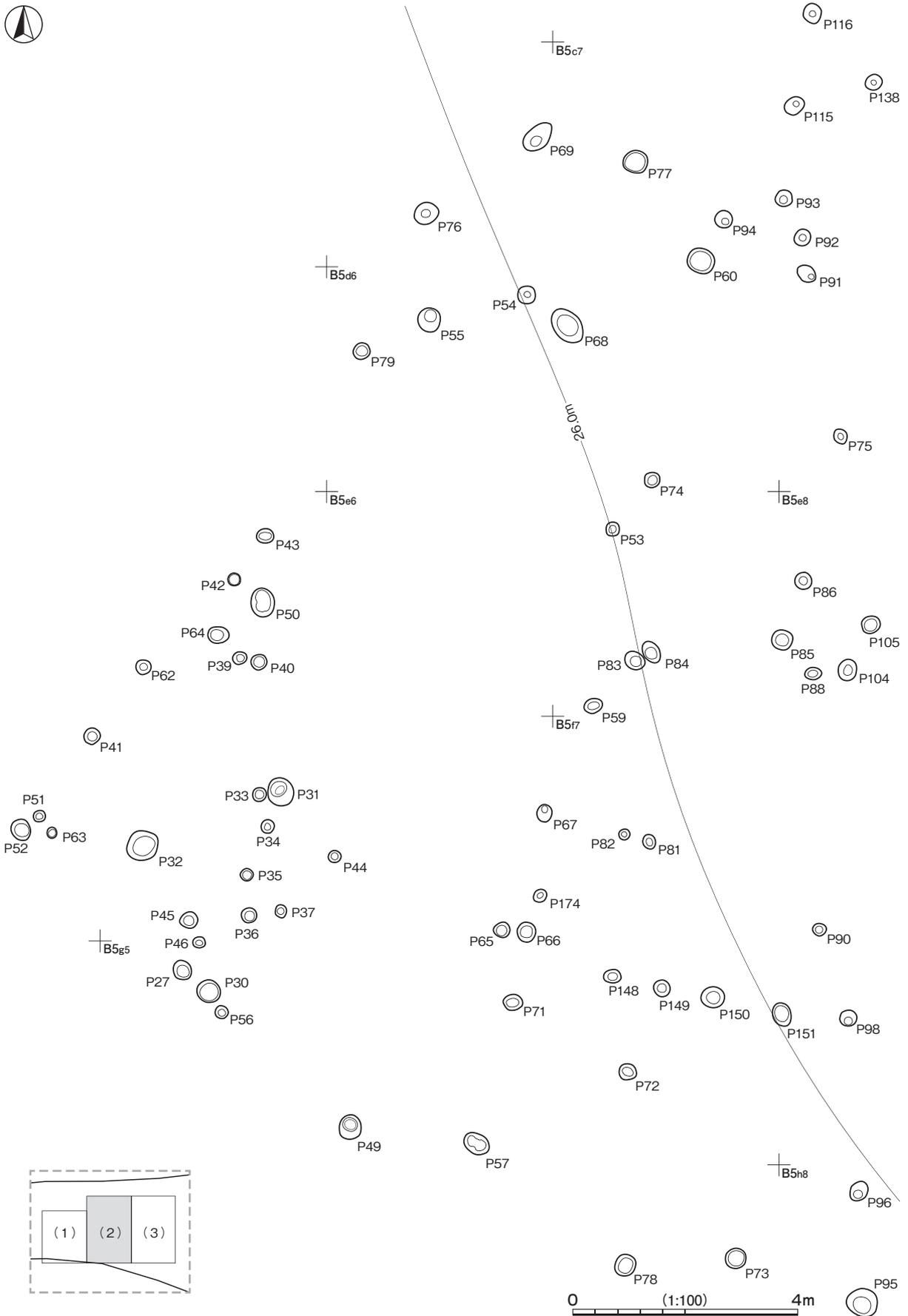
(3) ピット群

5か所を確認した。第4・6号ピット群は平面図を掲載し、第2・3・5号ピット群は平面図を遺構全体図（付図）への掲載に止めた。規模は一覧で記載した。

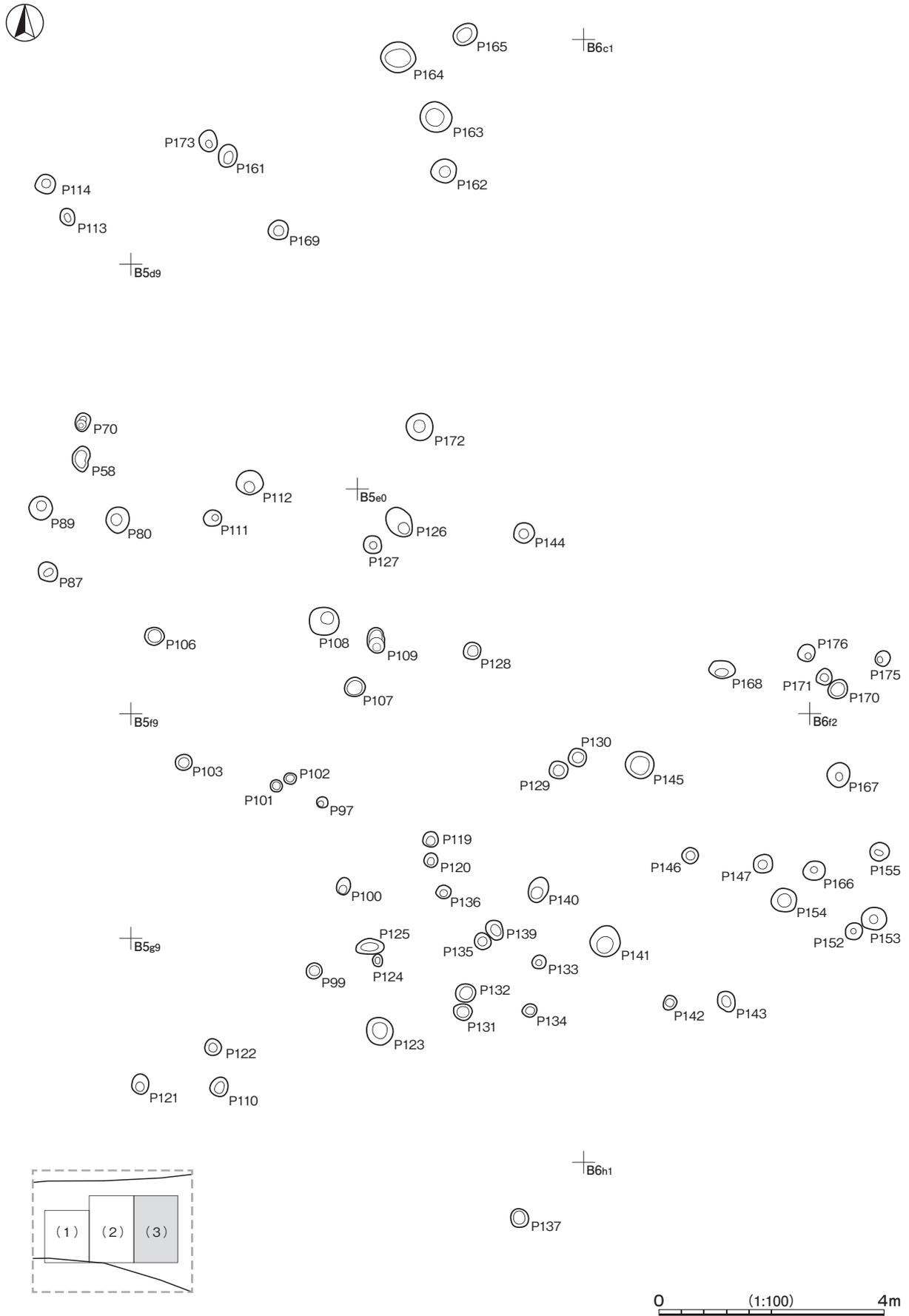
第4号ピット群（第57～59図）



第57図 第4号ピット群実測図(1)

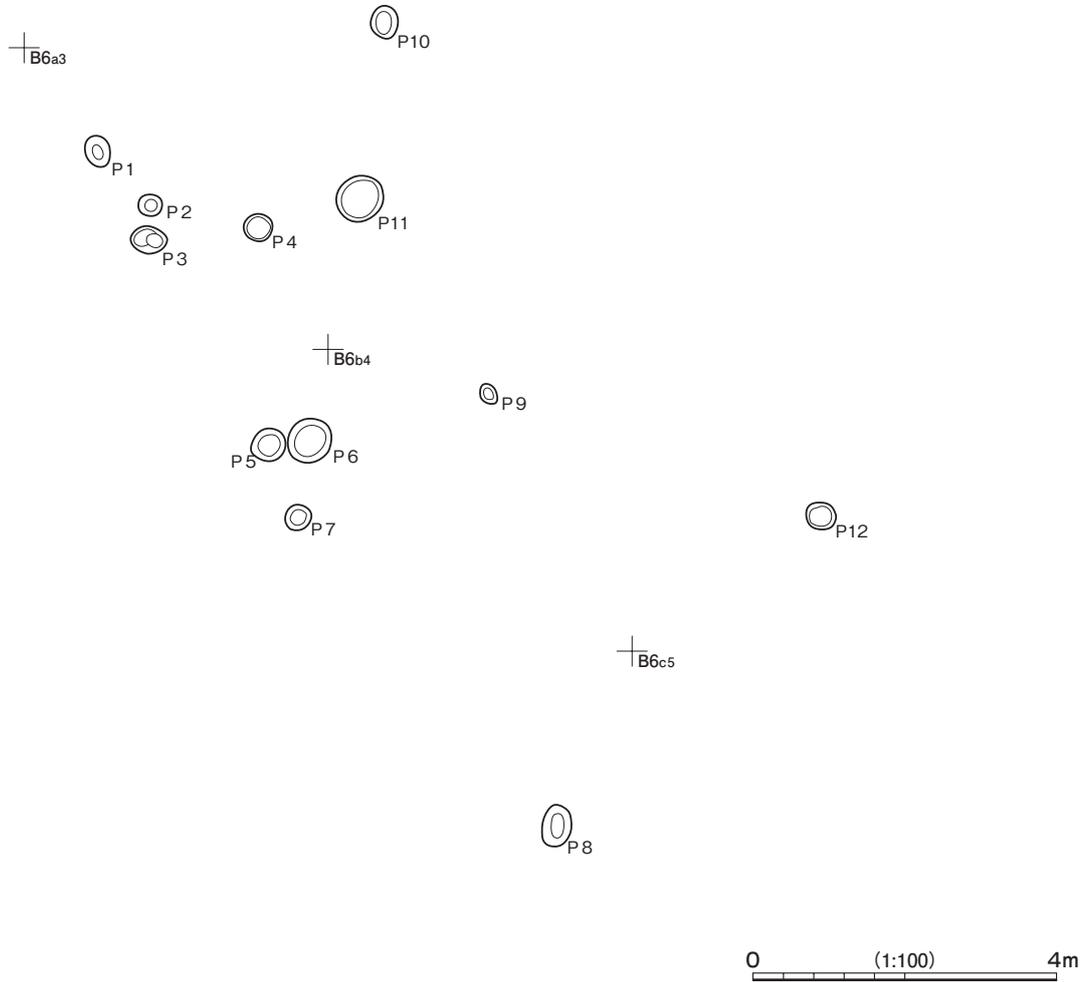


第 58 図 第 4 号ピット群実測図(2)



第59図 第4号ピット群実測図(3)

第6号ピット群 (第60図)



第60図 第6号ピット群実測図

第23表 第2号ピット群ピット一覧

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	B 2 e8	楕円形	64	45	10	6	B 2 f9	楕円形	4	35	5	11	B 2 b0	楕円形	49	40	26~54
2	B 2 e8	楕円形	3	25	12	7	B 2 f9	円形	31	30	19	12	B 2 c0	楕円形	58	44	22
3	B 2 f8	円形	27	25	6	8	B 3 f1	円形	28	27	8	13	B 3 c1	楕円形	42	36	34
4	B 2 f9	円形	28	26	14	9	B 2 c4	楕円形	3	20	26	14	B 3 d2	楕円形	42	33	24
5	B 2 f9	円形	31	30	6	10	B 2 d4	楕円形	27	23	20	15	B 3 c1	楕円形	44	39	43

第24表 第3号ピット群ピット一覧

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規模 (cm)			ピット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	B 4 b4	[円形]	52	[52]	15	5	B 4 b6	楕円形	94	67	20	9	B 4 e3	楕円形	43	37	23
2	B 4 b4	楕円形	56	49	41	6	B 4 c9	[楕円形]	[68]	55	17	10	B 4 d5	楕円形	44	[33]	27
3	B 4 b6	円形	54	50	46	7	B 4 d8	円形	35	32	46						
4	B 4 b6	円形	60	57	18	8	B 4 f5	[円形]	50	[50]	30						

第25表 第4号ピット群ピット一覧

ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)			ピット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ				長径	短径	深さ				長径	短径	深さ
1	B 4 g8	楕円形	48	41	18	46	B 5 g5	楕円形	23	19	12	91	B 5 d8	楕円形	34	27	55
2	B 4 g0	円形	52	52	12	47	B 5 d3	円形	29	27	26	92	B 5 c8	円形	30	27	15
3	B 4 f0	円形	44	41	16	48	B 5 d3	楕円形	48	40	13	93	B 5 c8	円形	31	30	24
4	B 4 f0	円形	24	23	16	49	B 5 g6	円形	43	39	61	94	B 5 c7	円形	31	31	43
5	B 4 f0	円形	36	33	16	50	B 5 e5	楕円形	53	41	41	95	B 5 h8	円形	54	50	34
6	B 4 f0	円形	30	30	18	51	B 5 f4	円形	21	21	15	96	B 5 h8	楕円形	37	29	20
7	B 4 e0	円形	41	40	46	52	B 5 f4	楕円形	39	33	31	97	B 5 f9	円形	20	19	37
8	B 5 e1	楕円形	32	22	15	53	B 5 e7	円形	25	25	25	98	B 5 g8	円形	31	28	18
9	B 4 g0	円形	22	22	12	54	B 5 d6	円形	31	30	45	99	B 5 g9	楕円形	28	28	27
10	B 4 g0	楕円形	27	24	12	55	B 5 d6	円形	44	41	45	100	B 5 f9	楕円形	31	24	37
11	B 4 g0	楕円形	28	22	30	56	B 5 g5	円形	23	23	15	101	B 5 f9	円形	22	20	35
12	B 4 g0	円形	34	32	16	57	B 5 g6	楕円形	50	46	43	102	B 5 f9	円形	22	21	19
13	B 5 g1	円形	43	42	37	58	B 5 d8	楕円形	45	31	24	103	B 5 f9	円形	33	31	28
14	B 5 g1	円形	29	27	22	59	B 5 e7	楕円形	33	26	24	104	B 5 e8	楕円形	39	33	39
15	B 5 g1	円形	32	29	18	60	B 5 c7	円形	48	45	15	105	B 5 e8	円形	34	31	28
16	B 5 g1	円形	27	26	15	61	B 5 e4	楕円形	42	32	21	106	B 5 e9	楕円形	35	31	22
17	B 5 f1	円形	27	27	30	62	B 5 e5	円形	27	26	33	107	B 5 e9	円形	37	35	23
18	B 5 f1	楕円形	34	30	41	63	B 5 f4	楕円形	19	17	23	108	B 5 e9	円形	55	50	33
19	B 5 f2	円形	39	37	31	64	B 5 e5	楕円形	37	30	34	109	B 5 e0	楕円形	46	31	41
20	B 5 f2	円形	34	34	42	65	B 5 f6	楕円形	30	27	33	110	B 5 g9	楕円形	35	31	30
21	B 5 f2	円形	43	41	41	66	B 5 f6	円形	36	34	35	111	B 5 e9	円形	32	28	35
22	B 5 f3	円形	33	32	16	67	B 5 f6	楕円形	31	26	29	112	B 5 d9	楕円形	49	44	22
23	B 5 f2	円形	29	26	13	68	B 5 d7	楕円形	70	48	16	113	B 5 c8	楕円形	31	26	25
24	B 5 g3	楕円形	37	32	29	69	B 5 c6	楕円形	62	48	28	114	B 5 c8	円形	36	35	18
25	B 5 g2	円形	24	24	40	70	B 5 d8	楕円形	35	25	42	115	B 5 c8	楕円形	36	29	31
26	B 5 g3	円形	38	35	35	71	B 5 g6	楕円形	35	28	20	116	B 5 b8	円形	35	33	65
27	B 5 g5	円形	36	32	19	72	B 5 g7	円形	31	29	26	117	B 5 b7	円形	40	40	21
28	B 5 f4	円形	29	28	35	73	B 5 h7	円形	36	36	28	118	B 5 b7	円形	39	36	29
29	B 5 f4	楕円形	35	28	36	74	B 5 d7	円形	29	27	26	119	B 5 f0	円形	28	28	18
30	B 5 g5	円形	42	39	39	75	B 5 d8	楕円形	28	25	16	120	B 5 f0	円形	26	25	19
31	B 5 f5	円形	51	47	41	76	B 5 c6	楕円形	45	38	29	121	B 5 g9	楕円形	40	31	20
32	B 5 f5	楕円形	61	53	70	77	B 5 c7	円形	44	43	26	122	B 5 g9	円形	30	29	26
33	B 5 f5	円形	24	24	18	78	B 5 h7	円形	40	38	33	123	B 5 g0	円形	50	46	41
34	B 5 f5	円形	24	24	18	79	B 5 d6	円形	31	28	20	124	B 5 g0	楕円形	22	17	28
35	B 5 f5	円形	23	22	49	80	B 5 e8	楕円形	46	41	35	125	B 5 g0	楕円形	50	28	23
36	B 5 f5	円形	28	26	18	81	B 5 f7	楕円形	26	22	16	126	B 5 e0	楕円形	58	43	37
37	B 5 f5	楕円形	24	21	13	82	B 5 f7	楕円形	20	18	13	127	B 5 e0	円形	35	32	20
38	B 5 e2	楕円形	50	36	12	83	B 5 e7	楕円形	36	30	39	128	B 5 e0	楕円形	37	31	38
39	B 5 e5	楕円形	26	22	17	84	B 5 e7	楕円形	36	30	15	129	B 5 f0	円形	33	32	39
40	B 5 e5	円形	28	28	18	85	B 5 e8	円形	38	37	21	130	B 5 f0	円形	32	32	39
41	B 5 f4	円形	30	28	21	86	B 5 e8	円形	30	30	18	131	B 5 g0	楕円形	33	29	26
42	B 5 e5	円形	22	21	44	87	B 5 e8	楕円形	38	34	36	132	B 5 g0	円形	35	35	28
43	B 5 e5	楕円形	30	25	40	88	B 5 e8	楕円形	29	22	26	133	B 5 g0	円形	24	24	34
44	B 5 f6	円形	22	22	12	89	B 5 e8	円形	41	41	25	134	B 5 g0	円形	26	24	23
45	B 5 f5	円形	31	29	13	90	B 5 f8	円形	24	22	19	135	B 5 g0	円形	30	29	50

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
136	B 5 f0	円形	26	24	49
137	B 5 h0	円形	35	32	19
138	B 5 c8	楕円形	31	28	33
139	B 5 f0	楕円形	36	27	29
140	B 5 f0	楕円形	46	34	45
141	B 6 g1	円形	55	52	20
142	B 6 g1	円形	25	23	21
143	B 6 g1	楕円形	38	31	46
144	B 5 e0	円形	36	36	42
145	B 6 f1	円形	50	50	44
146	B 6 f1	円形	30	29	26
147	B 6 f1	円形	37	34	19
148	B 5 g7	楕円形	29	24	17
149	B 5 g7	円形	30	29	29

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
150	B 5 g7	楕円形	42	38	25
151	B 5 g8	楕円形	43	34	30
152	B 6 f2	円形	30	28	32
153	B 6 f2	楕円形	45	38	34
154	B 6 f1	円形	45	42	17
155	B 6 f2	円形	35	33	38
156	B 5 b9	楕円形	47	34	47
157	B 5 a9	不定形	86	45	52
158	B 5 a7	楕円形	45	39	30
159	B 5 a6	楕円形	40	36	24
160	B 5 a6	円形	48	46	30
161	B 5 c9	楕円形	51	33	39
162	B 5 c0	円形	46	42	22
163	B 5 c0	円形	57	54	23

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
164	B 5 c0	円形	56	54	22
165	B 5 b0	楕円形	46	35	23
166	B 6 f2	楕円形	40	34	19
167	B 6 f2	円形	44	40	52
168	B 6 e1	楕円形	47	31	27
169	B 5 c9	円形	36	34	35
170	B 6 e2	楕円形	36	31	18
171	B 6 e2	楕円形	30	27	27
172	B 5 d0	円形	51	48	27
173	B 5 c9	楕円形	49	30	33
174	B 5 f6	楕円形	25	21	22
175	B 6 e2	楕円形	29	26	25
176	B 6 e2	円形	30	30	25

第26表 第5号ビット群ビット一覧

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	B 6 h2	円形	28	26	25
2	B 6 i2	楕円形	36	28	31
3	B 6 i2	楕円形	52	34	27
4	B 6 i3	楕円形	34	27	18
5	B 6 i3	円形	3	29	50
6	B 6 i3	円形	29	28	21
7	B 6 i3	楕円形	4	35	33
8	B 6 j2	円形	38	38	20
9	B 6 j3	円形	5	47	26
10	B 6 j3	楕円形	52	47	32
11	B 6 j3	円形	39	37	20
12	B 6 j4	円形	37	35	47
13	B 6 i4	円形	37	35	44

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
14	B 6 j4	楕円形	41	32	28
15	B 6 j5	円形	42	41	22
16	B 6 j6	円形	38	38	25
17	B 6 j6	円形	52	51	42
18	B 6 h1	円形	36	33	34
19	B 6 f3	円形	62	61	32
20	B 6 f3	円形	39	36	43
21	B 6 e3	円形	52	5	28
22	B 6 e3	[円形楕円形]	45	(22)	32
23	B 6 d2	円形	32	3	21
24	B 6 c2	楕円形	5	42	27
25	B 6 j5	[円形楕円形]	6	(18)	33
26	C 6 a6	楕円形	46	38	10

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
27	C 6 b7	楕円形	45	38	26
28	C 6 c7	円形	25	24	18
29	C 6 d7	円形	33	32	23
30	C 6 d7	円形	34	32	18
31	C 6 d8	楕円形	6	52	17
32	C 6 f9	[円形楕円形]	32	(19)	11
33	C 6 f0	[円形楕円形]	47	(25)	10
34	C 6 f0	円形	37	35	20
35	C 6 b6	円形	33	31	20
36	C 6 a6	円形	4	37	27
37	C 6 c8	楕円形	44	37	17

第27表 第6号ビット群ビット一覧

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	B 6 a3	楕円形	42	32	38
2	B 6 a3	円形	31	29	29
3	B 6 a3	楕円形	48	36	30
4	B 6 a3	円形	38	37	28

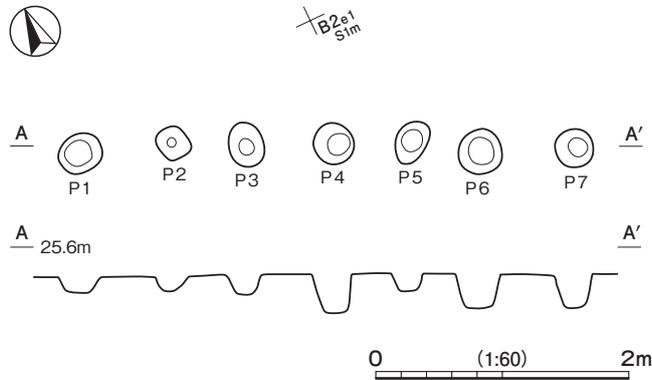
ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
5	B 6 b3	円形	47	43	21
6	B 6 b3	円形	57	57	32
7	B 6 b3	円形	36	33	20
8	B 6 c4	楕円形	55	38	29

ビット 番号	位 置	形 状	規 模 (cm)		
			長径	短径	深さ
9	B 6 b4	楕円形	29	22	34
10	A 6 j4	楕円形	44	36	26
11	B 6 a4	円形	62	61	37
12	B 6 b5	楕円形	39	35	17

(4) 柱穴列

調査区西部に柱穴列1条を確認した。平面図及びピット一覧で掲載する。

第1号柱穴列 (第61図)



第61図 第1号柱穴列実測図

第28表 第1号柱穴列ピット一覧

ピット番号	位置	形状	規模 (cm)		
			長径	短径	深さ
1	B 1 e0	円形	35	32	13
2	B 1 e0	円形	26	24	13
3	B 1 e0	楕円形	35	28	15
4	B 1 e0	円形	33	32	30
5	B 2 e1	楕円形	36	25	13
6	B 2 e1	円形	35	35	28
7	B 2 e1	円形	30	30	26

(5) 炉跡

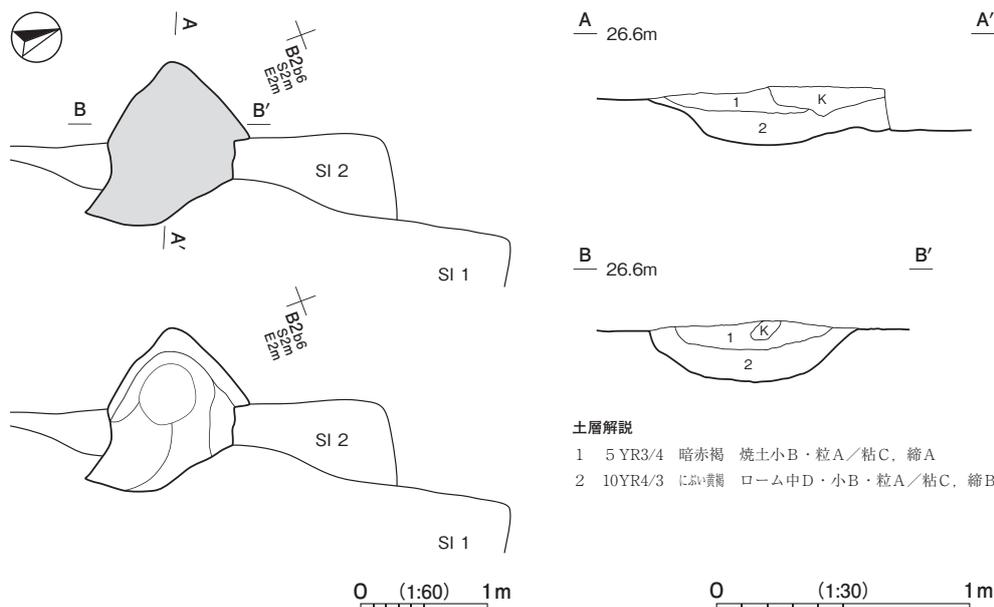
第1号炉跡 (第62図)

位置 調査区西部のB 2 b6区、標高約27mの台地平坦部に位置している。

重複関係 古墳時代前期に比定される第1・2号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 東西軸1.30m、南北軸1.02mの不整形である。炉床面は削平されており、残存していない。

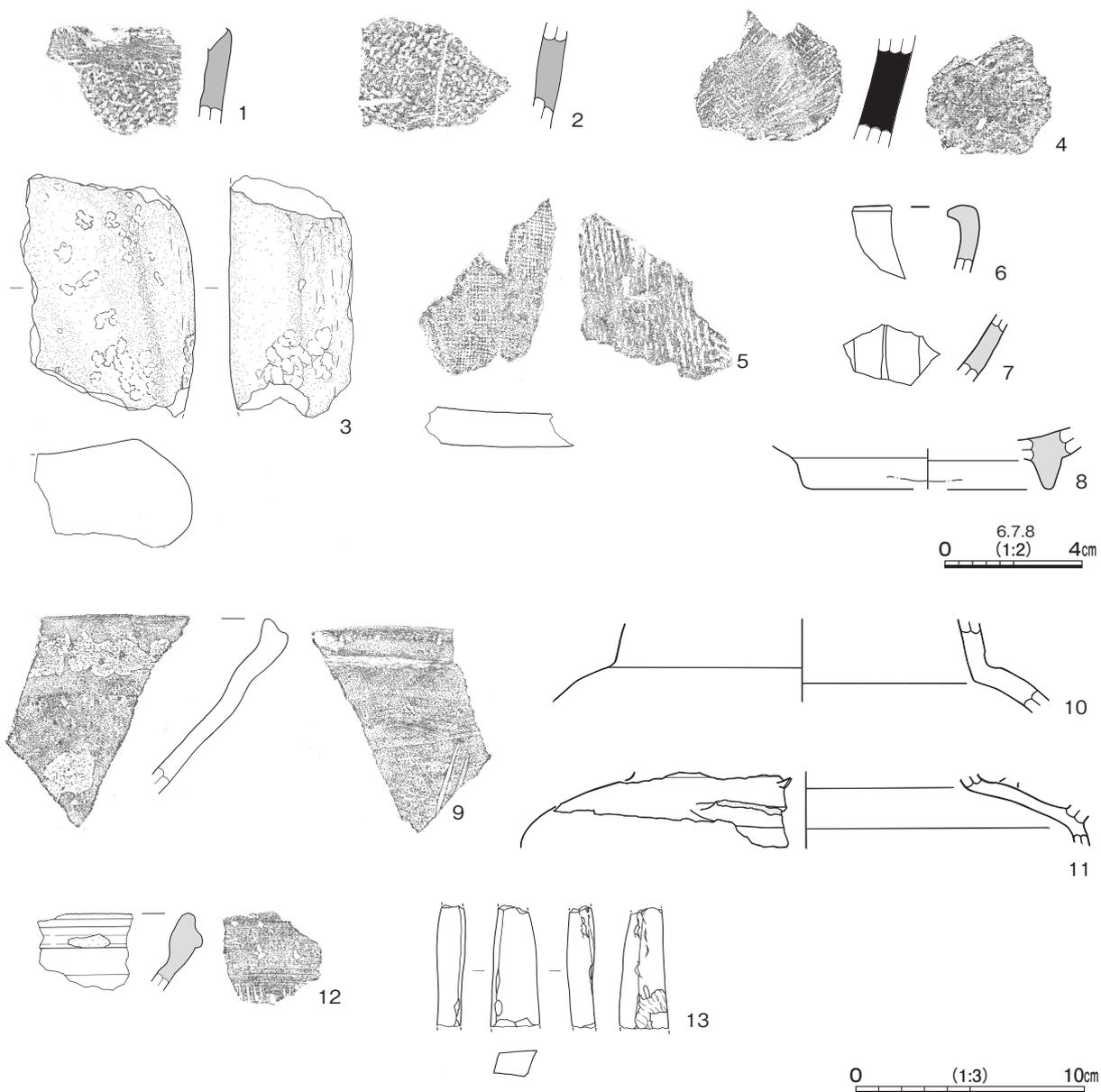
所見 本跡は、第1号竪穴建物跡の廃絶後に投棄された遺物と位置づけをした6世紀後葉の遺物に伴う竈とも考えられるが、本跡が焼失家屋である第1号竪穴建物跡の覆土上層上面に構築されており、本跡に伴う床面や柱穴が確認できないことから、単独の炉跡とした。時期は、重複関係から古墳時代前期に比定される第1・2号竪穴建物跡より新しいが、限定できない。



第62図 第1号炉跡・掘方実測図

(6) 遺構外出土遺物

遺構に伴わない遺物については、遺物実測図（第 63 図）及び遺物一覧（第 29 表）で掲載する。



第 63 図 遺構外出土遺物実測図

第 29 表 遺構外出土遺物一覧

番号	種別	器種	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐	RL 単節縄文を横位に施文	SD 2 覆土中	5% PL 8
2	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	RL と LR 単節縄文を横位に施文	SD 2 覆土中	5%
4	須恵器	甕	長石・石英	褐灰	体部外面平行叩き 内面同心円状の当て具痕	SK 1 覆土中	5%
9	土師質土器	擂鉢	長石・石英	にぶい赤褐	体部外面ナデ 口縁部外・内面横ナデ 内面摺り目	表土	5%

番号	種別	器種	瓦当幅	瓦当高	長さ	胎土	色調	焼成	文様・手法の特徴ほか	出土位置	備考
5	瓦	平瓦	(6.9)	(1.8)	(8.0)	長石・石英・針状 鈹物	灰白	普通	凸面縄叩き 凹面布目痕	攪乱	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
3	石皿	(10.7)	(7.6)	(5.4)	524.42	安山岩	楕円形石皿	表土	5% PL 8
13	砥石	(5.3)	2.1	1.2	17.04	凝灰岩	砥面4面	表土	5% PL 8

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
6	磁器	香炉	-	(21)	-	緻密 灰白	口唇部が内面に短く屈曲する。	灰釉	龍泉窯	SI 1 覆土中	5%
7	磁器	碗	-	(1.8)	-	緻密 灰	間弁のない幅の広い蓮弁文	灰釉	龍泉窯	表土	5%
8	磁器	碗	-	(1.2)	[7.0]	緻密 灰	高台が豊付の狭い断面三角形を呈する。豊付は露胎。	灰釉	龍泉窯	表土	5%
12	陶器	搦鉢	-	(3.3)	-	長石・石英 灰褐	内面に摺り目	-	信楽	表土	5% PL 8

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
10	土師質土器	茶釜	-	(4.2)	-	長石・石英・雲母	にぶい褐	普通	体部は内湾し、口縁部はわずかに内傾する。	表土	5% PL 8
11	土師質土器	茶釜	-	(3.0)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	体部は内湾する。把手を有する外耳は欠損。	表土	5%

第4節 総括

1 はじめに

今回の調査で、縄文時代の陥し穴、古墳時代の竪穴建物跡、中世の地下式坑、溝跡、土坑、遺物包含層などを確認した。ここでは、各時代の遺構と遺物についての特徴を整理するとともに、若干の考察を加えることで総括としたい。

2 縄文時代

縄文時代の陥し穴6基が確認された。これらの陥し穴は、規模及び形態により次のように2つに分類することができる。

1類 底面の長軸長が1.50 m以上で、底面形が溝状を呈するもの

2類 底面の長軸長が1.50 m未満で、底面形が楕円形を呈するもの

この分類に確認された陥し穴を当てはめてみると、1類には第1・2・3号が、2類には第4・5・6号陥し穴が該当する。分類した陥し穴についての配置及び配列を見てみると、次のように捉えられる。

1類 単独で配置される。

2類 列状に配置される。

特に、2類に属する陥し穴は、主軸方向を列の方向と直交させて約8 m間隔で配置し、その配列は西側が膨らむ弧線を描いている。配列の両端は調査区外で、さらに配列が延びることが想定され、北東方向は谷に向かう斜面部となり、その延長線上は谷底へと至る。

縄文時代の陥し穴については、鈴木素行氏によるひたちなか市の武田西塙遺跡の調査例¹⁾と、中村信博氏による栃木県茂木町の登谷遺跡の調査例²⁾が好例である。

鈴木素行氏は、武田西塙遺跡で確認された48基の陥し穴について、平面形が長楕円形あるいは楕円形を呈し、断面形がV字状で、底面の長軸長が1.50 m未満のものをB1類に分類し、台地縁辺部に所在する東列の20基、西列の22基、ハの字状配置の2基を1単位とし、埋没谷の谷頭に所在する6基の3群に分けて捉えた。時期は、土器の出土状況から、中期の加曾利E式期以降と推定している。

中村信博氏は、登谷遺跡で確認された213基の陥し穴を対象とし、基本土層ごとの遺構確認調査による掘込面及び覆土の確認、出土遺物の所見、他遺構との重複関係などの観点から詳細な調査を実施するとともに、基本土層ごとに確認した陥し穴の時期を縄文時代草創期から平安時代までの8期に区分した上で、時期ごとの形態分類、時期ごとの配置及び配列、使用方法について考察した。その結果、円形陥し穴は平安時代のもの、楕円形陥し穴は、イノシシを捕獲対象とし、縄文時代草創期、早期前半、早期末葉、縄文時代後期から古墳時代、平安時代の各時期に見られるもの、溝形陥し穴は、シカを捕獲対象とし、草創期後半から早期初頭にかけてのものとの見解を示している。また、楕円形陥し穴は、単独あるいは数基単位で、主に谷底の獣道に配置されていること、溝形陥し穴は尾根の延びる方向に配列していることを指摘している。

当遺跡の陥し穴は、時期について明確に比定することができないが、中村氏の見解及び配置状況から、1類がシカを捕獲対象とし、単独で配置されるもの、2類がイノシシを捕獲対象とし、獣道に列状に配置されるものと理解できる。

3 古墳時代

(1) 古墳時代前期遺跡群の様相

当遺跡では竪穴建物跡が2棟、当遺跡の南東0.5kmに所在する並木新田台北遺跡では竪穴建物跡が10棟、当遺跡の南東0.6kmに所在する並木新田台遺跡では竪穴建物跡が8棟確認され、総数20棟の竪穴建物跡が調査されている。当遺跡を含む3遺跡は、同一の台地上に近接して立地しており、古墳時代前期のほぼ同じ時期に3遺跡に展開する集落が形成されていることから、一つの遺跡群と捉えることができる。ここでは、3遺跡を大字名の「大谷」を冠して大谷遺跡群と総称し、遺跡群の変遷を検討する。

時間軸は、谷仲俊雄氏を中心とする茨城県考古学協会シンポジウム「考古学からみる茨城の交易・交流」実行委員会古墳部会編年³⁾(以後、「茨城古墳部会編年」と略す。)を使用する。茨城古墳部会編年は、前期をⅠ期からⅢ期までの3期に分けている。Ⅰ期は、鈴木素行氏による十王台式土器編年^{4~6)}の4期(武田式西埦段階新期・小祝式梶巾段階古期)と併行する時期とし、Ⅱ期は、さらに鈴木素行氏による十王台式土器編年の5期(武田式石高段階・小祝式梶巾段階新期)のものが共伴する前半期(Ⅱa期)と、弥生土器が共伴せず、いわゆる「小型丸底土器」が出現する後半期(Ⅱb期)に細分し、Ⅲ期は、高坏に柱状脚が出現する時期と定義している。

大谷遺跡群で確認された20棟の竪穴建物跡について茨城古墳部会編年に照合してみると、Ⅰ期とⅢ期に位置付けられるものはなく、おおむねⅡ期に該当し、Ⅱa期に位置付けられるもの、細別できないもの、時期を確定できないものに分けることができる。

<Ⅱa期>

並木新田台遺跡 5棟 (SI 1・2・6・9・10)

並木新田台北遺跡 3棟 (SI 1・2・7)

<Ⅱ期>

並木新田台北遺跡 6棟 (SI 3・4・6・10・11・12)

船玉台遺跡 2棟 (SI 1・2)

<不明>

並木新田台遺跡 3棟 (SI 4・5・8)

並木新田台北遺跡 1棟 (SI 8)

以上のことから、大谷遺跡群における古墳時代前期の存続期間は、Ⅱ期の範疇で示すことができ、主体はⅡa期で、Ⅱb期で終焉を迎えると考えられる。

(2) 古墳時代後期土器の様相

当遺跡では、古墳時代後期の土師器片48点が第1号竪穴建物跡の廃絶後の覆土上層に廃棄された状態で出土している。その内、器形が復元できる5点を図示(第12図)した。第12図4は須恵器坏蓋模倣の坏、5の坏は須恵器坏身模倣の坏で、いずれも赤彩が施されている。6の甕は、口唇端部が外上方へつまみ上げたような形状を呈する常総型甕である。以上の特徴を有する土器群を榎村宣行氏の編年⁷⁾と吹野富美夫の編年⁸⁾に照合してみると、つくば市柴崎遺跡Ⅲ区第175号竪穴建物跡出土遺物⁹⁾を標識とし、TK43型式に併行する段階に位置付けることができる。また、吹野は、赤彩率が高く、蓋模倣坏が主体になることを特徴とする石岡・稲敷地域を小地域として設定¹⁰⁾した。当遺跡を含む石岡・稲敷地域は、当遺跡の赤彩された坏の出土により、赤彩を施す手法が6世紀後葉まで継続することが確認できた。

4 中世

(1) 土器類の様相

ここでは、中世の土器類について、特徴を整理するとともに、類例と比較することで、土器類の時期及びその様相を検討する。

中世の土器類は、618点（個体及び破片の総数）が出土している。その内訳は、土師質土器603点（皿27、内耳鍋555、播鉢12、壺類7、茶釜2）、瀬戸・美濃系陶器8点（碗6、卸皿1、瓶子1）、常滑系陶器4点（甕）、龍泉窯系青磁3点（碗2、香炉1）である。数量で見ると、煮炊具である内耳鍋が最も多く、全体の89.8%を占め、次いで皿の4.4%になる。

土師質土器の皿は、口径で見ると、12cm前後の大形、9～11cmの中形、7cm前後の小形に分類できる。大形及び中形の皿は、器形及び見込みなどの特徴から、次のように分類できる。

A類 器壁がやや薄く、体部が外傾し、口縁部でわずかに外反する。見込みはなめらかにナデられている。

B類 器壁がやや薄く、体部が外傾し、口縁部でわずかに内湾する。見込みは周縁部がわずかに凹む。

C類 器壁が厚く、体部が外傾し、口縁部でわずかに内湾する。見込みは周縁部がわずかに凹む。

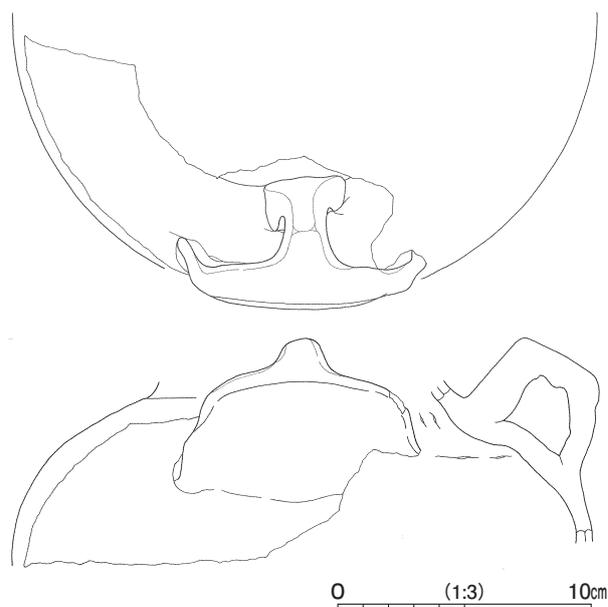
大形及び中形の皿については、第6号土坑出土遺物（第26図1）がB類、第4号地下式坑出土遺物（第20図1）がC類で、それ以外はA類に分類できる。

内耳鍋は、体部が外傾して直線的に立ち上がり、口縁部は直線的なものと内湾するものがある。口唇部は、断面形が方形となるものが主体であるが、第38号土坑出土遺物（第30図1）のように口縁端部を内面に短く屈曲させるものもある。

茶釜は、遺構外から2点（第63図10・11）が出土している。茶釜は、破片であるため、外耳の形状が不明であったが、類例である金田西坪B遺跡第40号溝跡出土遺物¹¹⁾（第64図）から、下部に半円形の把手の付く外耳であることを確認した。

瀬戸・美濃系陶器は、第142号土坑出土遺物の瓶子1点（第34図3）と、第2号溝跡出土遺物の卸皿1点と天目茶碗1点（第39図1・2）を掲載した。第142号土坑出土遺物の瓶子は、肩部にクシによる平行沈線が施され、緩やかな肩部になると推定されることから、藤澤良祐氏の編年¹²⁾の前Ⅳ期に比定できる。第2号溝跡出土遺物の卸皿は口縁端部が外削ぎ状になることから、藤澤編年¹³⁾のH類に分類され、前Ⅲ期に比定できる。いずれも13世紀後葉に位置付けられる¹⁴⁾。龍泉窯系青磁は、遺構外から3点（第63図6～8）が出土している。第63図7の碗は、間弁がなく、幅の広い蓮弁文を有するもので、上田秀夫氏の編年¹⁵⁾のBⅠ類に分類され、14世紀代に位置付けられる。

当遺跡の土器類について、以上のように特徴を整理できたが、瀬戸・美濃系陶器などは破片



第64図 茶釜の類例遺物実測図（※再実測）
（金田西坪B遺跡第40号溝跡出土遺物）

資料であり、時期判断をするには困難であるため、類例を確認して照合することで、時期を検討したい。

当遺跡出土土器類の類例としては、石岡市の外城遺跡第10・11号遺構出土土器¹⁶⁾が候補になる。出土遺物は、皿が主体である。皿については、口径により大形、中形、小形に分類でき、大形及び中形の皿は、器壁がやや薄く、体部が外傾し、口縁部でわずかに外反するA類の特徴を有している。石岡市の外城遺跡第10・11号遺構出土土器は、当遺跡出土の皿の特徴と共通していることから、類例として認定することができる。また、共伴遺物として、赤羽一郎氏と中野晴久氏の編年¹⁷⁾の10型式に該当する常滑系甕片が出土している。当遺跡土器類の時期は、共伴する常滑系甕の長期間使用される特性を考慮することにより、15世紀後半から16世紀前半にかけての時期と位置付けられる。

(2) 遺跡の様相

当遺跡の中世遺構は、調査区西部に位置する台地緩斜面部の遺構群（以後、「調査区西部遺構群」と呼称する。）と、調査区中央部に位置する3条の溝跡に大別できる。ここでは、2か所の遺構群の特徴を整理することで、遺跡の様相を検討する。

調査区西部遺構群は、地下式坑、土坑、ピット群、遺物包含層によって構成されている。

地下式坑は、6基が確認され、主軸方向と主室の平面形により3つの群に分けることができる。

1群 主軸方向が北西を向き、主室の平面形が台形を呈するもの（UP 1・2）

2群 主軸方向が北東を向き、主室の平面形が長方形あるいは隅丸長方形を呈するもの（UP 4・5）

3群 主軸方向が東あるいは南東を向き、主室の平面形が楕円形あるいは長方形を呈するもの
（UP 3・8）

地下式坑の機能については、研究者による見解は統一されていないが、その中で有力視されているのが、笹生衛氏による穀物類等の貯蔵施設説¹⁸⁾と齊藤弘氏による葬送施設説¹⁹⁾である。今回の調査では、機能に関する成果は得られていないので、群構成の提示にとどめる。

土坑は、中世に帰属する8基が確認されている。第46号土坑は、完形の皿2点が出土していることが注目される。第141～143号土坑は、平面形が長方形を基調とした大形の土坑である。方形竪穴遺構の可能性はあるが、柱穴や出入口などが確認できていないので、不明である。今回の調査では、当遺跡で確認された土坑の性格や機能を明らかにすることはできなかった。

遺物包含層は、遺物包含層を含めた調査区西部遺構群から遺物の廃棄とともに、台地上及び台地緩斜面部の遺構掘削土の廃棄によって形成されたものと理解した。遺物包含層を含め、調査区西部遺構群から出土した遺物は、調理具である内耳鍋が主体である。

調査区中央部に位置する3条の溝跡は、舌状台地の延長線上に直交した方向に延びており、舌状台地を縦に分断している。溝跡の変遷は、新旧関係のある第1・3号溝跡が埋め戻されており、第2号溝跡がおおむね自然堆積を呈している状況から、第3号溝跡、第1号溝跡、第2号溝跡の順になると推定できる。機能としては、ある程度の防御性を有し、土地の境界に構築したものと考えられる。

調査区西部遺構群及び調査区中央部の溝跡の時期については、時期の比定ができないものを含め、15世紀後半から16世紀前半にかけてと位置付けられる。また、遺物包含層の形成要因が主に台地上の遺構掘削によるものと推定されること、青磁碗、青磁香炉、茶釜などの破片が遺構外から出土していることから、調査区北側の台地中央部には、一般農民層より有力な土豪層の屋敷跡が所在している可能性が高い。当調査区域は、土豪層の屋敷跡を含む集落跡の縁辺部に当たると考えられる。

5 おわりに

当遺跡は、中世を主体とする遺跡であり、土豪層の屋敷跡を含む集落跡と位置付けた。茨城県においては、中世の城館跡の調査が増加して、その調査成果によりその実態が明らかになりつつあるが、集落跡の調査については上野古屋敷遺跡の調査²⁰⁾などにとどまり、いまだに調査例が少ないことが現状である。当遺跡の調査は、集落跡の縁辺部に当たる区域での限定的な調査であったが、茨城県における中世集落跡研究の一助になれば幸いである。

註

- 1) 鈴木素行 『武田西塙遺跡 旧石器・縄文・弥生時代編』 財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第21集 平成13年3月
- 2) 中村信博 『登谷遺跡』 茂木町埋蔵文化財調査報告書第3集 平成14年4月
- 3) 谷仲俊雄ほか 「弥生土器から土師器へー土器からみた地域間交流ー」 『シンポジウム考古学からみる茨城の交易・交流』 茨城県考古学協会 平成28年1月
- 4) 鈴木素行 「ぼんぼり山遺跡における十王台式土器の分析ー「小祝式梶巾段階」と「武田式西塙段階」の土器群ー」 『ぼんぼり山遺跡・貉谷津遺跡』 財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第27集 平成15年3月
- 5) 鈴木素行 「半分山遺跡における十王台式土器の分析ー「小祝式梶巾段階」と「武田式西塙・石高段階」の土器群ー」 『半分山遺跡』 財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第30集 平成16年3月
- 6) 鈴木素行 「船窪遺跡における十王台式土器の分析ー「武田式土器」の変遷ー」 『船窪遺跡』 財団法人ひたちなか市文化・スポーツ振興公社文化財調査報告第32集 平成17年3月
- 7) 櫻村宣行 「常総型甕 編年小考」 『列島の考古学ー渡辺誠先生還暦記念論集ー』 平成10年2月
- 8) 吹野富美夫 「常陸南部における古墳時代後期の土器様相」 『列島の考古学ー渡辺誠先生還暦記念論集ー』 平成10年2月
- 9) 土生朗治 『柴崎遺跡Ⅲ区 研究学園都市柴崎土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』 茨城県教育財団文化財調査報告第72集 平成4年3月
- 10) 註8文献と同じ
- 11) 野田良直 『金田西坪B遺跡 中根・金田台地区埋蔵文化財調査報告書XXI』 茨城県教育財団文化財調査報告第443集 令和2年3月
- 12) 藤澤良祐 「瀬戸古窯址群Ⅲー古瀬戸前期様式の編年ー」 『財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』 第3輯 平成7年3月
- 13) 註12文献とおなじ
- 14) 藤澤良祐 「瀬戸系(施釉陶器生産技術の伝播)」 『全国シンポジウム中世窯業の諸相ー生産技術の展開と編年ー発表要旨集』 平成17年9月
- 15) 上田秀夫 「14～16世紀の青磁椀の分類」 『貿易陶磁研究』 第2号 昭和57年8月
- 16) 伊東重敏 『外城遺跡発掘調査報告書』 石岡市教育委員会 昭和61年3月
- 17) 赤羽一郎・中野晴久 「生産地による編年について」 『シンポジウム「中世常滑焼をおって」資料集』 平成6年1月
- 18) 笹生衛 「地下式坑の掘られた風景」 『戦国時代の考古学』 高志書院 平成15年9月
- 19) 齊藤弘 「地下式坑葬送施設論」 『地下式坑を考える 地下式坑の全国集成とその検討資料集』 房総中世考古学研究会 平成19年2月
- 20) 三谷正 大塚雅明 桑村裕 『上野古屋敷遺跡1 中根・金田台特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅸ』 茨城県教育財団文化財調査報告第285集 平成19年3月

写 真 图 版



調査区遠景（北西から）



調査区西部調査終了状況

PL2



第1号陥し穴



第1号陥し穴土層断面



第2号陥し穴



第4号陥し穴



第5号陥し穴



第6号陥し穴



第1号豎穴建物跡遺物出土状況(1)



第1号豎穴建物跡遺物出土状況(2)



第 1 号竖穴建物跡



第 1・2 号竖穴建物跡掘方



第 1 号地下式坑土層断面



第 1 号地下式坑



第 2 号地下式坑



第 3 号地下式坑



第 4 号地下式坑



第 5・8 号地下式坑

PL4



第1号土坑



第35号土坑遺物出土状況



第46号土坑遺物出土状況



第121・134号土坑



第132号土坑



第141・142号土坑土層断面



第1・2・3号溝跡土層断面(1)



第1・2・3号溝跡土層断面(2)



第1・2・3号溝跡遺物出土状況



第2号溝跡遺物出土状況



第1・2・3号溝跡



第4号溝跡土層断面



第4・5号溝跡



第1号柱穴列



第1号遺物包含層土層断面(1)



第1号遺物包含層土層断面(2)

PL6

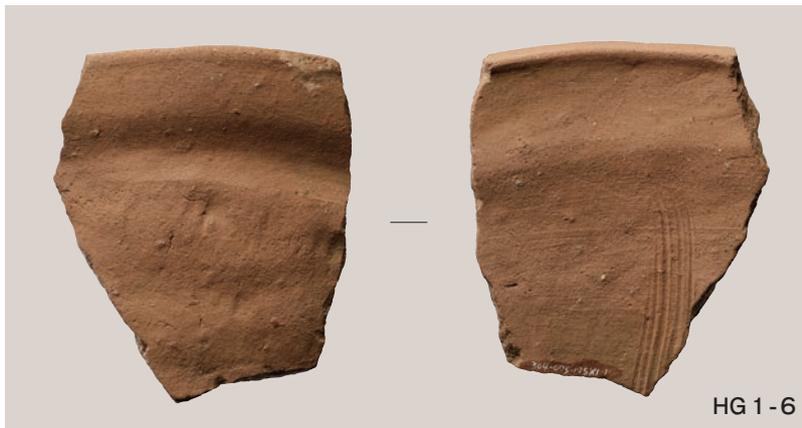


第1・2号竖穴建物跡，第4号地下式坑，第142号土坑出土遺物



第38・46号土坑，第2号溝跡，第1号ピット群出土遺物

PL8



第1号遺物包含層，遺構外出土遺物

抄 録

ふりがな	ふなたまだいいせき							
書名	船玉台遺跡							
副書名	(仮) 常磐道石岡小美玉スマート IC と茨城空港を結ぶ道路整備事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第 461 集							
著者名	吹野富美夫							
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒 310 - 0911 茨城県水戸市見和 1 丁目 356 番地の 2 TEL 029 - 225 - 6587							
発行日	2022 (令和 4) 年 1 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
船玉台遺跡	茨城県小美玉市 大谷字船玉台 596 番 2 ほか	08304 075	36 度 13 分 01 秒	140 度 17 分 42 秒	24 m ~ 27 m	20171001 ~ 20180331	5,573 m ²	(仮) 常磐道 石岡小美玉ス マート IC と 茨城空港を結 ぶ道路整備事 業に伴う事前 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
船玉台遺跡	狩猟場	縄文	陥し穴 6 基					
	集落跡	古墳 中世	竪穴建物跡 2 棟		土師器 (坏・埴・甕・手捏土器)			
			地下式坑 6 基 土坑 8 基 溝跡 3 条 ピット群 1 か所 遺物包含層 1 か所		土師質土器 (皿・内耳鍋・ 搦鉢・茶釜), 陶器 (瓶子・ 卸皿・天目茶碗), 青磁 (香炉・ 碗), 石器 (砥石)			
			時期不明 土坑 113 基 溝跡 2 条 ピット群 5 か所 柱穴列 1 条 炉跡 1 基					
要約	縄文時代の陥し穴 6 基, 古墳時代前期の竪穴建物跡 2 棟を確認した。遺跡の主体となるのは中世で, 地下式坑 6 基, 土坑 8 基, 溝跡 3 条, ピット群 1 か所, 遺物包含層 1 か所などを確認した。中世の遺構は, 地下式坑や土坑などで構成される調査区西部遺構群と調査区中央部に位置する 3 条の溝跡に大別できる。時期は 15 世紀後半から 16 世紀前半にかけてで, 当該調査区域は集落跡の縁辺部に当たると考えられる。							

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Pro
	編集	Adobe InDesign 2021
	図版作成	Adobe Illustrator 2021
	写真調整	Adobe Photoshop 2021
	Scanning	RICOH MP 4002
使用Font	OpenType	リュウミンPro L-KL, 太ゴB101 Pro Bold 中ゴシックBBB Pro Medium
写真	線数	カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign 2021データ入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第461集

小美玉市

船玉台遺跡

(仮)常磐道石岡小美玉スマートICと
茨城空港を結ぶ道路整備
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ

令和4(2022)年1月31日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587
HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 富士オフセット印刷株式会社
〒310-0067 水戸市根本3丁目1534-2
TEL 029-231-4241

